

目次

青山 太郎	2～3	中村 麻理	68～69
池坊 繁屋	4～5	成田 裕一	70～71
石川 豊美	6～7	朴 永孝	72～73
伊東 宣明	8～9	長谷川 聡	74～75
岩橋 涼	10～11	濱口 輝士	76～77
内田 英伸	12～13	平林 義章	78～79
御家 雄一	14～15	本多 一彦	80～81
大矢 信吾	16～17	松原 友子	82～83
岡田 有司	18～19	宮島 彩	84～85
落合 洋文	20～21	山田 直子	86～87
加藤 清子	22～23	山田 ゆかり	88～89
河木 智規	24～25	吉田 友敬	90～91
北川 絵里奈	26～27	吉田 洋	92～93
木村 亮介	28～29	渡邊 正樹	94～95
國友 宏渉	30～31		
栗林 芳彦	32～33		
黒瀬 聡	34～35		
後藤 千穂	36～37		
木場 安莉沙	38～39		
小橋 一秀	40～41		
小林 あづみ	42～43		
近藤 徹弥	44～45		
柴山 一幸	46～47		
周 欣欣	48～49		
関 豪	50～51		
世良 清	52～53		
高橋 圭	54～55		
竹内 陽介	56～57		
竹尾 淳	58～59		
田近 一郎	60～61		
田中 明子	62～63		
谷口 泉	64～65		
堤 浩一	66～67		

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：准教授	氏名：青山太郎
------	-------------	--------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は自らの専門領域である映像表現やその分析・批評などの実践的教育を通して、学生自身が人と人、社会、歴史や文化、さまざまな感情や感覚をつなぎ、来るべき「よりよい」（美しい、楽しい、快適な、充実した、など）共生のあり方を想像し、デザインすることを可能とするような洞察力と想像力、表現力を涵養します。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：メディアデザイン入門	この講義では、近代デザインの歴史から、デザインを巡る近年の事例、理論、課題などを紹介・教授している。とりわけ、「人新世」や「ポストヒューマン」と呼ばれる現代社会において、「デザイン」という営みに何が求められるかを理解し、今日的なデザインプロセスを成立させる手法や考え方の基礎を学生が身につけることを目指している。具体的には、第1フェーズにおいて「現代におけるデザインの役割と責任とは何か」を歴史的に検討し、第2フェーズにおいては、第3フェーズでは現代的なデザイン・プロセスのうちのデザインリサーチに特に注目し、その内容を教授した。第4フェーズでは、デザイナーとして「そのデザインが本当に社会にとって必要かどうかを考える」方法をあらかじめ学生とともに検討した。
2.教育活動や教育業績 科目名②：映像史とアーカイブ	この講義では、映画誕生以前から今日に至るまで多様な発展を遂げてきた「映像」（映画、テレビ番組、ネット動画）の歴史を概観しつつ、その時代ごとの表現方法がいかなる種類の「リアリティ」を探索するものであったかを学生が理解すること、および、そのアーカイブ映像を分析することを通じて、それぞれの作品に刻印された「リアリティ」と「欲望」のあり方を学生が理解することを目指している。具体的には、第1フェーズでは、映画発明以前のメディアの検討から始め、初期映画、古典映画、ポスト古典映画にいたる映画史を確認し、第2フェーズではテレビ番組の、第3フェーズではドキュメンタリー映画のリアリティとは何かを議論し、第4フェーズでは「現代映画」と呼ばれる作品の「現代性」とは何かを学生とともに検討した。
3.教育活動や教育業績 科目名③：映像制作演習II	この授業では、基本的に学生自身による解釈を必要とする課題を提示し、それを実装するために学生はグループワークに取り組み、完成した作品については教員と他のグループの学生全員で講評を行い、細かく分析するというかたちをとった。特に、制作スケジュールの計画から制作状況の中間報告、最終成果の講評までひとりひとりの進捗をケアし、適宜質問を受け付け、それぞれの状況に応じたコメントをすることで、学生自身が自主的に課題に取り組むことが出来たように考えられる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：ドキュメンタリー演習	映像メディアコースおよびメディアデザインコースの仕上げとして位置付けられるこの授業では、最新の映像学・デザイン学の研究知見を紹介しつつ、フィールドワークに基づくドキュメンタリー映像作品の制作課題を課している。少人数の演習形式とし、最終成果の講評にいたるまでに中間審査を複数回取り入れた。それによって学生のモチベーションを維持し、作品のクオリティを向上させた。今年度は、第16回座・高円寺ドキュメンタリーフェスティバルへの出品を目標として設定し、同映画祭のテーマ「戦後80年日々のこと」を課題とした。学外者への取材なども自主的におこなわれ、最終的に3作品が完成し、学修効果も十分あったと思われる。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：メディアデザイン入門	全体に熱心な参加態度が見られたが、理解度については十分とは言えないところがあり、授業内容が難解である旨のコメントが散見された。受講生の自学（授業教材を利用した復習）を前提にしたが、その取り組み度合いにばらつきがあったことが要因と考えられ、学修度の二極化がこの授業でも見られた。これらの課題は以前から認識されていたものであったため、講義内容をすべて原稿に起こし、これを授業中にスクリーンに投影しつつ、webclassで共有することで、内容が難解であったり、情報量が多い場合でも受講生が復習しやすいようにした。これにより、全体的に授業理解の深度は以前より向上したと感じられるものの、積極的な活用をさらに促す必要があると考えられる。また、毎回授業後にリアクションペーパーを回収し、受講生の全体的な理解度を確認しつつ、特に核心に触れる質問を取り上げ、次の授業でフィードバックをおこなったが、これにより、学生のモチベーションが向上したと感じられる。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：映像史とアーカイブ	「授業内容は一番面白かったです」というコメントに見られるようにおおむね内容については好意的に受け取られていたが、「メディアデザイン入門」同様、受講生の自学の取り組み度合いにばらつきがあったと思われ、学修度の二極化が見られた。これらの課題は以前から認識されていたものであったため、講義内容をすべて原稿に起こし、これを授業中にスクリーンに投影しつつ、webclassで共有することで、内容が難解であったり、情報量が多い場合でも受講生が復習しやすいようにした。これにより、全体的に授業理解の深度は以前より向上したと感じられるものの、積極的な活用をさらに促す必要があると考えられる。また、毎回授業後にリアクションペーパーを回収し、受講生の全体的な理解度を確認しつつ、特に核心に触れる質問を取り上げ、次の授業でフィードバックをおこなったが、これにより、学生のモチベーションが向上したと感じられる。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：映像制作演習II	演習課題については、制作過程で受講生のアイデアを適宜チェックし、教員と学生のあいだで、また学生同士のあいだで意見交換する時間を十分に設けた。さらに、アイデア発表や進捗報告を全体に向かってプレゼンテーションする時間も増やすことで、学生が自分たちのアイデアを言葉で表現し、自らその内容を検討できるよう促した。その結果、それぞれのグループが特色あるアイデアを提案することができ、いくつかのグループでは自分たちの表現を追究する姿勢が見られた。全体的に緊張感を保った演習が実施できていたものと考えられる。自由記述からは、学生たちが自由にアイデアを出し合い、それにもとづいて課題に取り組むという環境が好評で、理解度や満足度も高評価であったといえる。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：ドキュメンタリー演習	前期開講の「ドキュメンタリー・シナリオ」と連続する上級科目ということで、受講者数およびアンケート回答者数は少なかったものの、授業評価の理解度および満足度は非常に高かったものと思われる。また、参考作品の分析レポートや、最終的な成果物（ドキュメンタリー映像）のクオリティも回を重ねるごとに向上していることから、授業のねらいについての理解度も十分なものであったと考えられる。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	11月・12月に愛知芸術文化センターで開催された、日本全国の映像系教育機関より選出された学生作品を紹介するイベント「Moving Image Festival 2024」に、本学の学生作品を出品することに成功した。また、3月に開催された日本映像学会中部支部第3回研究会でも本学の学生に発表をさせた。こうした活動を通じて、学生の自己肯定感の向上と、制作意欲の活性化につながつつ、教員同士でも授業を進める上での工夫などについて意見交換を行った。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

今年度は、上記のほかに、《「clas」 spectrum 2024》展（2024年7月22日【月】-7月27日【土】、名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」、名古屋市）と、《shelter in me》展（TOUTENBOOKSTORE、名古屋市）をプロデュースし、卒業生の野村隆也氏が在学中から制作に取り組んできた写真作品の学外展示を実現した。こうした学外への作品展示・発信については今後も積極的に取り組んでいきたい。 また次年度については、全科目について、基本的には今年度までの方法を踏襲しつつ、課題の細かい設定を見直し、学生のさらなる学修意欲の向上を図る。そのうえで、理解の進みが遅い学生のフォローを早めに行い、学修度の二極化の進行を最小限にとどめたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：情報メディア学科

職位：教授

氏名：池坊 繁屋

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースで学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は、立学の精神にあるように自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨くことを惜しまないような人材を育成していきたいと考えています。

また、情報メディアに関する知識と技術を身につけ、自分の専門分野における当たり前が感覚的にわかるような人物になれるように指導していきたいと考えています。さらに、様々な問題に対して情報の観点から主体的に取り組むことができるように一緒に体験をしていき、学生がその楽しさを実感したり、少しでも自分自身に誇りが持てるような体験と一緒にしていきたいと考えています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： コンピュータネットワークⅡ	本講義は、3年・前期・選択（教職必修）科目。令和6年度受講者は45名と11名（2クラス：水曜3限、水曜4限）。 コンピュータネットワークⅠ（2年・後期）で習得した知識を再確認するとともに、OSI・TCT/IPモデルを基礎としたネットワークの基礎概念を修得し、さらにその基礎知識による応用力を身につけます。また、情報の収集や活用を安全に行うため、情報セキュリティが必要であることを理解するとともに、情報セキュリティに対する脅威と脆弱性にはどのようなものがあるのかを理解します。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 人工知能	本講義は、3年・前期・選択科目。令和6年度受講者は53名（1クラス：金曜2限）。2022年度入学生カリキュラムから設置され、令和6年度に始めて開講された。 人工知能(Artificial Intelligence：AI)の基礎知識とその概要を体系的に学びます。AIの歴史から多岐にわたる技術種類や応用分野において、AIを活用する際の構築から運用までの流れなどを知識として修得し、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の基礎を理解します。
3.教育活動や教育業績 科目名③： ICT基礎	本講義は、1年・後期・必修科目。令和6年度受講者は67名と60名（2クラス：水曜3限、水曜4限）。 ICT(Information and Communication Technology：情報通信技術)の基礎知識と基礎技能を、パソコンやタブレット端末による実習を通して身につけ、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」の基礎を学びます。
4.教育活動や教育業績 科目名④： 情報基礎理論	本講義は、1年・後期・選択（情報システムコース必修）科目。令和6年度受講者は22名と59名（2クラス：水曜3限、水曜4限）。 情報処理技術者試験の「コンピュータシステム」分野において、主に「コンピュータ構成要素」、「システム構成要素」、「ハードウェア」分野の基礎知識を修得し、演習問題を進め資格取得を目指します。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： コンピュータネットワークⅡ	(2クラス：水曜3限、水曜4限) 「11.授業の内容は理解できた」は、3.25と3.40、「12.この授業に満足している」は、3.46と3.80であった。理解度は平均3.3以上であり、比較的良好な結果が得られていた。約3/4が情報システムコースの学生であり、予備知識もあったのではと思われる。最終的な満足度でも良好な結果が得られていた。自由記述についても、概ね良い意見が書かれていた。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： 人工知能	(1クラス：金曜2限) 「11.授業の内容は理解できた」は、3.21、「12.この授業に満足している」は、3.41であった。今年度から始めて開講される科目であり、3年生のみが受講対象となっていた。理解度は平均3.2以上であり、アンケート回答者では約2名程度理解することが難しかったようだ。最終的な満足度では、概ね良好な結果が得られていた。自由記述では、内容が難しい、資料である程度理解することができたなどの意見が書かれていた。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： ICT基礎	(2クラス：木曜3限、金曜4限) 「11.授業の内容は理解できた」は、3.54と3.57、「12.この授業に満足している」は、3.54と3.57であった。理解度については平均3.5以上であり、全体的に知識やスキルを修得できていると感じていることがわかる。また、最終的な満足度も平均3.5以上であり、2名を除いて良好な結果が得られていた。自由記述については、概ね良い意見が書かれていた。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④： 情報基礎理論	(2クラス：水曜1限、水曜4限) 「11.授業の内容は理解できた」は、3.13と3.23、「12.この授業に満足している」は、3.33と3.35であった。理解度は平均3.18であり、約8名程度理解することが難しかったようだ。約半数が情報システムコース以外の学生であることも1つの理由と考えられる。最終的な満足度は平均3.34であった。自由記述については、概ね良い意見が書かれていた。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	講義内容の理解を深めるため、授業の最後に小テストや演習課題を行った。また、学生の事後学習や欠席者の学びを目的として、WebClassに講義資料を上げ自由に閲覧できるようにした。 WebClassによる各授業感想の収集、授業評価アンケートを実施した。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

授業評価アンケートにおいて、講義および実習の理解度や満足度はほぼ大学平均以上であり、肯定的な意見が多数みられた。特に、授業最後に行っている小テストや演習問題について好評な意見がみられていた。 令和7年度についても、基本的には今年度までの方法を踏襲しつつ、総合的な満足度で良い結果を得られるように学生の学修意欲の向上を図っていきたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：准教授	氏名：石川 豊美
------	-----------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

学校、病院、福祉施設、事業所等をはじめとした様々な施設で給食は提供されている。限られた給食経営資源を効果的・効率的に使い、安心・安全でおいしい食事を提供できるだけではなく、多様化する利用者の嗜好やニーズにも的確に対応できる人材を育成する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：給食実務論	近年管理栄養士を取り巻く社会環境は大きく変化し、保健・医療・福祉等における食生活の課題に対応できる給食施設が求められている。管理栄養士の実務の基本である給食管理・運営に必要なマネジメントの基礎能力を養い、喫食者のニーズに対応した食事提供ができるよう、給食実務の基本全般について学習する。特定給食施設において、経営・栄養・衛生・作業・施設管理等円滑な給食運営を行うために必要な実務内容について知識と技術を習得し、実践できる能力を身につける。特定給食施設において、経営・栄養・衛生・作業・施設管理等円滑な給食運営を行うために必要な実務内容について知識と技術を習得し、実践できる能力を身につける。
2.教育活動や教育業績 科目名②：給食経営管理学	給食運営や関連サービスを総合的に判断し、栄養面・安全衛生面・経済面など全般のマネジメントを行う能力を養うことを目的とする。フードシステム、マーケティング、フードサービスの原理と応用を理解するとともに組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習し、給食の経営管理を修得する。
3.教育活動や教育業績 科目名③：給食経営管理実習Ⅰ	給食実務論、給食経営管理学で得た基本的な知識や技術を基礎に、給食管理運営業務について実習室を使用し、管理者として実践できるように体得することを目的とする。施設の組織体を想定し、グループ編成による役割分担で、健康人を対象とした給食運営の実習を行い、計画から評価まで一連を通して給食マネジメントを実践する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：給食経営管理実習Ⅱ	実習Ⅰで習得した給食管理技術に基づき、実習Ⅱでは応用編として、各種給食施設に応じた栄養・食事管理の展開をし、対象者別の栄養管理技術を習得する。個人の栄養調査を喫食状況調査で行い、実際の栄養摂取量の把握方法を学び、さらに栄養評価・判定を行う。また、納入から調理配膳までの作業工程の中で、品質管理・作業管理・衛生管理・温度管理を重点的にを行い、経営の評価・判定へと進める。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：給食実務論	毎週冒頭にて前週・前々週の講義内容についての小テストを実施したことが、学生に復習させ、理解を深める事につながったと考える。本年度より小テストはWebclassではなく、プリントに変更した。授業の冒頭にテストを実施し、テスト後に前週のスライドを用いて解説し、自己採点をさせた。解説に用いたスライドは前週の授業スライドですでに配布済みのものを用いて、解けなかった問題を後で復習しやすいように配慮した。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：給食経営管理学	定期的に復習させることを目的に 毎回授業の初めに前回の授業内容の確認テストを行った。今年度は問題の下部に解答欄を設けた記述式とし、確認テスト直後に授業スライドを用いて解説・自己採点をさせた。確認テストは各講のポイントを中心に復習できるよう作成し、定期試験対策としても使えるよう工夫した。確認テストを行うことで配信したスライド等を丁寧に見て、必要事項を覚えるという習慣が付き、学生の理解度の向上につながった。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：給食経営管理実習Ⅰ	大量調理は1つの料理を一人が最初から最後まで担当するのではなく、作業区分ごとに分担して調理を行う。学生にとって大量調理は初めてであり、本実習では作業手順や大量調理機器の操作の修得を目標としていることから、実習では汚染区域担当と清潔区域担当を週ごとに交替し、各自両方の作業を体験し、作業全体を見ることができるよう配慮した。また調理実習の前週には当日の作業の流れに沿って、調理操作や機器の使用方法について説明し、当日のイメージトレーニングを試みたが、学生の理解度のばらつきが大きかった。またグループ内での情報の共有がうまくできず、帳票作成に時間がかかってしまった。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：給食経営管理実習Ⅱ	今年度も使い捨て容器を使用した弁当方式での実習となり、昨年に引き続き健康栄養学科の教員に検食に協力いただくと同時に、学科の他学年の学生への販売も再開し、喫食者の反応を直に感じることができたことが、学生にとって大きな励みとなった。実習の事前準備については、臨地実習で多く出される献立作成の課題にも対応できるよう、調味濃度の確認を念入りにし、味付けについてはできる範囲で実際に調味料を混ぜて味見をさせるなど、試作の習慣をつけるよう心掛けた。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	日本栄養改善学会学術総会 参加 日本給食経営管理学会学術総会 参加 日本給食経営管理学会研修会の受講 日本栄養士会研究教育事業部リーダー研修会 受講
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

給食実務論で食事計画力アップのため、毎週期間献立を作成したことで、料理に対する関心を深めることができた。しかし食材のポーションサイズや基本的な調味濃度が身についていない、食材の旬や扱い方を知らないといった献立作成以前の課題の積み残しが問題となっている。今後は食事計画論・臨地実習事前指導とも連携を取りながら学生の献立作成に対する苦手意識を少しでも取り払えるような教材の開発を試みる。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科： 情報メディア学科

職位： 助教

氏名： 伊東宣明

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は、「現代美術」「映像表現」「障害のある人の創作活動」「展覧会企画」という専門性から、主に「映像メディアコース」「メディアデザインコース」の授業を担当しています。

①生きるための教育であること

これまでさまざまな教育現場で指導を行ってきましたが、そこでは単に「知識」を伝えるのではなく、どのような職場や制作現場でも実践的に活用できる力を育むよう心がけてきました。

専門的な知識や技術だけでは、本当の意味で社会で活躍できる人間にはなれないと考えています。芸術的感性を磨くための世界の捉え方、新しい知識を吸収する方法、人と共に働くためのルールなど、学生が「生きる力」を身につけられるよう常に意識して授業を行っています。

②私自身が学生にとっての居場所であること

若い世代は多様な悩みを抱えており、場合によっては大学に通うことと自身が難しくなることもあります。そのようなときこそ、教員である私自身が学生の「居場所」となり、安心して相談し学び続けられるようにすることが重要だと考えています。私のプロジェクトへの参加やイベント・アルバイトへの協力を通じて社会とつながる機会をつくるようにしています。その間、学生の些細な悩みにも真摯に耳を傾け、誠実に向き合い、一緒に解決策を考えます。何よりも、学生を「見放さない」という姿勢を大切にしています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：芸術	近年、ビジネスでは「現代美術を鑑賞・理解し、意見が言える」ことが重視され、多くの関連書籍が販売されています。その中で、常套の逃げ文句のあった「芸術はわからない」という言葉を使わないため、「芸術を読み解くための」講義＋多様なワークショップを行いました。 具体的には、「思考」を書き続けるワークショップ、「抽象画」を下記つづけるワークショップ、まずは「形」をつくってからアイディアを作るワークショップ、歌謡曲・CMや映像の意味を読み取るワークショップ等、私自身が美術家という立場でのアーティストの思考方法やプロセスを辿ることで、「芸術を読み解く」力を育成しました。
2.教育活動や教育業績 科目名②：WEBデザイン	単に「WEBデザイン」を制作するだけでなく、まずはUX・UIの視点から取り組み、架空の顧客を設定したうえで、マーケティングや色彩設計を行い、カンパ（デザインの試作）制作を経て、最終的に架空のカフェのWEBデザインを完成させました。 また、制作工程を細かく段階に分け、ワークショップ形式で進行することで、全くの初心者でも無理なく、着実にデザインを組み上げることができました。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎演習	デザインと映像を学びたい2年生を対象とした基礎ゼミであることから、「デザイン」「映像」の2分野に分け、学生ができるだけ興味を持てるよう、個別にカリキュラムを構成しました。 「デザイン分野」では、模写を通じて基本的な技能を早期に習得し、その後はチラシ制作やLINEスタンプ制作など、実践的な課題に取り組みました。 「映像分野」では、ドキュメンタリー撮影や短編映画の制作、さらに論文執筆などに挑戦しました。 いずれの分野においても学生の成長は著しく、学内チラシのデザインに採用されたほか、稲沢市荻須記念美術館の市民展ポスターに選出されたり、日本映像学会で作品を発表するなど、成果が多く見られました。
4.教育活動や教育業績 科目名④：デジタルアート入門	1年次に履修する本科目は、ほとんどの学生にとってIllustratorやPhotoshopに初めて触れる機会となります。Illustratorについては独自教材を用い、数回にわたる復習を通じて確実にスキルを身につけることを目指しています。 反復練習によって全員が基本操作を習得することで、IllustratorやPhotoshopの技術だけでなく、実技における基本的なスキル習得の方法も体得できるよう工夫しています。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：芸術	多くのワークショップや講義を重ねるなかで、学生からは「芸術の概念が変わった」「考え方が変わった」「体調不良で休んでしまったのが悔しい」「自分から資料や図録を読むようになった」といった声が寄せられ、学生自身の変化を実感できる授業を構成することができました。 授業の途中にはアンケートを実施し、その結果をもとにシラバスの内容を見直して「おもしろい現代美術入門」へと改編したことで、現代美術への関心やその面白さをより深く伝えることができました。 「12.この授業に満足している」の項目では、4段階評価で51人中44名が回答し、3.68という評価を得ています。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：WEBデザイン	「実際に学んだことがデザインに活かされた」「工夫して作ることができた」「面白いアイデアを出せた」「一定の出来栄えが得られた」など、ほぼ全員が初めて取り組んだWEBデザインにもかかわらず手応えを感じており、WEBデザインの思考方法や制作方法を身につけたことがうかがえるコメントが多く寄せられました。 「12.この授業に満足している」の項目では、4段階評価でそれぞれ25名中16名が回答し3.69、20名中14名が回答し3.71という評価を得ています。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：デジタルアート入門	「Illustratorの使い方がわかった」「基礎から教えてもらえたのがよかった」「復習が役に立った」「何度も解説してくれたのありがたいがたかった」「毎週サボらず出席できた」「質問に答えてもらうのが楽しかった」など、復習の重要性を実感しながら、基本的なPCスキルおよびデザインスキルを身につけたことに関するコメントが多く寄せられました。 「12.この授業に満足している」の項目では、4段階評価でそれぞれ48人中45名が回答し3.73、38人中32名が回答し3.72という評価を得ています。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：映像制作演習1	「いろいろと工夫しながら動画のクオリティをどんどん上げていくのが楽しかった」「映像の基礎を学ぶことができた」「映像編集について学べた。改善点は特にありません」などのコメントが寄せられ、映像編集が単なる"つなぎ作業"ではないことを、しっかりと理解できた様子がうかがえました。 「12.この授業に満足している」の項目では、4段階評価で16名中14名が回答し、3.64という評価を得ています。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	全ての授業においては、学内学習サイト「WEBCLASS」を活用し、学生からの質問を随時受け付けています。寄せられた質問には必ず回答し、翌週の授業で口頭で読み上げるほか、PDFとして配布することを徹底しています。こうした対応により、授業内で生じた不明点を迅速に解消するとともに、必要に応じて授業内容の微修正を行うなど、きめ細やかな指導が可能になりました。 また、高大連携企画として「尾西高校最後の一年ドキュメンタリー」やサウンドゼミコンサートのオープニングムービー制作など、授業を超えての制作指導も担当しました。さらに、担当演習生とは養老天命反転地や美術館巡りに同行し、学外の体験を通じた実践的な教育にも力を入れています。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

昨年度に本学に着任して以来、まずは学生とのコミュニケーションを最優先に考えてきました。授業に加え、高大連携事業やゼミコンサートのオープニングムービー制作、東京や地方美術館巡りの引率などを通じて、学生の意識が徐々に高まっていることを実感しています。また、ゼミ生が制作した作品が稲沢市荻須記念美術館の市民展ポスターに採用されたり、日本映像学会で作品を発表・プレゼンテーションしたりと、制作研究に意欲的に取り組む学生も現れており、その着実な成長を感じています。 今後も、「教える・教わる」だけにとどまらず、学生と共に歩みながら成長していくことを目指して、教育活動に取り組んでまいります。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 岩橋 涼
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

食を学ぶにあたっては日々の食生活と国内外の社会的・経済的課題を関連づけ、食を多面的に捉えることが重要である。フードビジネス業界で必要とされる食への理解を深めるためには、この点を重視して教育活動に取り組む必要があると考える。講義では、身近な食の話題からグローバルな食料システムに関する諸問題まで取り扱うことで、フードビジネスの専門領域に関する知識を身につけるとともに、社会の発展に貢献するための倫理観や責任感を養うことをめざす。また、国内外で生じている食に関する諸問題については、学生がまず問題への理解を深め、そのうえで問題解決のための方策を考え、実践する能力を身につけることを重視する。授業ではグループワークや発表およびディスカッションを導入し、学生が自らの考えを発信し、他者との意見交換ができる機会を提供する。それらを通じて、さらに深い考察を促すとともに、コミュニケーション力を高めることをめざす。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：食品流通論	2年生の授業である食品流通論では、フードスペシャリスト資格認定試験の科目の一つとして、食市場や食生活の変化、食品流通システムの基礎理論や特徴、食消費を取り巻く課題について学ぶ。初回授業では、普段食べているものがどのように届くのかを前日の夕食のメニューから考えさせるなど、食品流通に関わる仕組みや基礎理論への理解がしやすいような導入を意識している。また、定期試験以外に複数回的小テストを実施し、知識の定着を図っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：食品貿易論	食品貿易論では、グローバルな視点から食料・農業の現状に対する理解を深めるため、とうもろこしや小麦といった具体的な農産物を取り上げたり、海外のドキュメンタリー映画を視聴するなどの取り組みをおこなっている。また、グループワークを取り入れて学生同士が考えを述べたり意見交換する機会を設けている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食品産業論	食品産業論は3年後期の選択科目である。食料品の生産・流通・消費について理解を深めるとともに、具体的なトピックを通して食品産業を取り巻く諸課題について考える。食品産業に関する理解を深めるとともに、これまでの学びをふまえてフードビジネスおよび食をめぐる諸問題に対して自らの考えを論理的に述べられるようになることをめざす。レポート課題では、よりよいレポート作成をめざすため、問いの立て方やレポートの構成などを説明する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：専門演習	専門演習では食の生産部門への理解を深めることを目的としている。具体的には農業をテーマとして、農業に関する統計資料からデータを読み取り、グラフ化して比較・検討をおこなう。データに基づいて地域農業の現状を知るとともに、複数地域を比較することで共通点や相違点を考察する。また、発表の機会を取り入れ、ディスカッションを積極的におこなう。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：食品流通論	アンケート結果は良好であり、スライドにおいてノートにとる内容と説明の内容を分けているのが良かった、小テストがあったことで期末テスト勉強が捗ったなど肯定的な評価が多かった。ただ、ノートについてはもう少し時間がほしいとの意見もあったため、学生の様子を見ながら時間を調整したい。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：食品貿易論	アンケート結果では、食の流通や食をめぐる問題を学ぶことができてよかったとの回答があり、結果は良好であった。レポート課題の発表を年内にしてほしいとの要望があり、今後検討していきたい。前年度好評であったグループワークは、今年度は受講者数が50人を超え、教室の都合上取り入れることができなかったのは少し残念であった。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：食品産業論	3年生の選択科目で受講者数が少なかったが、アンケートでは毎回の課題に積極的に取り組めたとの回答がみられた。また、期末課題についてはレポートの作成方法から丁寧に説明して提出させるという方法をとっており、前年度は説明が不十分だったのか課題の意図を理解していない学生もいたが、今年度は説明の仕方を工夫した。その結果、課題の意図はほとんどの学生に伝わっていたように思われる。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：専門演習	授業評価アンケートの対象外であるため、自己省察のみおこなう。統計資料の閲覧とグラフ化は細かい作業であったが、それぞれが丁寧に取り組んでいた。他地域との比較についても大まかなものであるが、データをもとに考察するという取り組みができたと考える。また、課題図書を設定し各自が関心のあるトピック（節）を選んで、内容をまとめて自分の考えを発表するという取り組みでは、学生が主体的に調べたりスライド作成をおこない、卒業研究への準備にもつながったと考える。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業評価アンケートを実施し、結果をふまえて授業内容の改善・充実を図っている。また、毎回の授業で課題や感想（あるいは授業に関する疑問等）をwebclassで提出させており、学生からの意見に対応するようにしている。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度に担当した講義科目では、授業評価アンケートや学生の授業中の様子、最終課題等をみる限り、授業の組み立てや取り組みの方向性は良かったと考えている。ただし、学生によって取り組み方に差があるため、今後より多くの学生の主体的な学びを促す授業づくりを心がけたい。また、演習では農協の出荷場の見学をおこない、出荷にきた農家や働いている職員から話を聞く機会を設けた。学生にとっては、食に関わる現場を知る大変貴重な経験であったと考える。 令和7年度は、講義内容の大枠はあまり変えず、一部のトピックでは最新のものや学生の興味・関心に沿ったものへの変更をおこなう。受講生の人数によってやり方を検討する必要があるが、自分の考えを他者に伝えること、他者の考えを聞いて話し合う機会を充実させたい。また、学生自身が自らの考えを文章として論理的に表現できるよう、文章を読む機会や書く機会を取り入れたい。この点については、演習を中心に、可能であれば講義のレポート課題でも実施したいと考えている。演習については、特に4年生は3年生からの継続であり、卒業演習では卒業研究として成果を出すための指導をしていきたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 教授	氏名： 内田 英伸
------	---------------	--------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

・地域食材の新規活用法を開拓するため、機能性栄養素に対する理解を深め、自分たち、親たち、祖父母たちの健康について考えさせる。 ・交友関係を大切にし、他人に信頼され、実行力のあるリーダーになるように努力させる。 ・志を高く持ち、長期展望を抱きつつ、日々、学修、自己研鑽を続けることのできる人材を育成する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：食品学実験	・モルの計算、ガラス器具の減菌、微生物の培養と顕微鏡観察、中和滴定、酸化還元滴定、糖とアミノ酸の分析、タンパク質の定量 ・試薬の調製法、食品添加物の理解、食品表示法の学習、機器機器方法の理解 ・実験の結果の観察、データの集計と考察 ・配布資料の作成とプレゼンテーション
2.教育活動や教育業績 科目名②：食品表示	・食品表示の法令違反とそれに対する懲罰の事例を知る ・課題プリントへの朱書き、返却、手渡しで学生とのコミュニケーションを図る ・希望者にwebclass対策講座（オフィスアワーでの個別学習）を開講 ・検定試験問題集の反復演習（ウェブクラスのクイズ、復習のプリント、小テスト、期末テスト） ・初級検定の団体申込（11月）、中級検定の受験勧誘（11月、翌年6月）
3.教育活動や教育業績 科目名③：統計処理	・商品売上、官能評価、社会調査に関するアンケート結果を集計し、統計解析する基礎を学ぶ ・分散と標準偏差、確率分布のいろいろ、回帰分析、統計的解析の手法、クロス集計、ノンパラメトリック検定について概説 ・例題のオンデマンド解説、エクセル課題の解答と提出 ・提出課題への朱書き、返却を通じ、学生とのコミュニケーションを図る ・資料をまとめ、整理する習慣を身に着ける（課題プリントの2穴パンチ、縦じ組綴じ、整理、保管後、レポートとして提出）
4.教育活動や教育業績 科目名④：食品安全学	・食中毒が食品関連事業所にあたる影響を学ぶ ・HACCP、ISO22000、FSSCの規格について学び、食品衛生の管理法について理解を深める ・フードスペシャリスト検定試験のための反復演習（ウェブクラスのクイズ、復習のプリント、小テスト、期末テスト） ・食中毒を引き起こす生物の細胞構造、不活化を理解する ・高校レベルの生物、化学を復習し、食品添加物、洗剤、汚染物質について理解する
5.教育活動や教育業績 科目名⑤：加工食品学	・食品保蔵のための技術を学習する。 ・食品加工の目的、原理を理解する （食品添加物の働き、水分活性の定義、膜濃縮、浸透圧の計算（塩蔵v.s.糖増）、発酵微生物の増殖特性、殺菌、凍結乾燥） ・ビール工場、ヨーグルト工場、かまぼこ工場、お酢工場について学ぶ
5.教育活動や教育業績 科目名⑥：演習（専門・卒業）	・食品加工、衛生管理、食品表示、食品学実験に関する知識を融合させ、関連する学習に興味を持つ ・食品関連事業所の食品管理部門や食品加工工場の現場について理解を深める ・地場産品の複合商品、その流通について模索する ・一次資料、調査結果をポスターにまとめ、発表する

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察	・今年度の当該科目の「満足度」のポイントは昨年度とほぼ同じ傾向であり、また、各ポイントの平均値やコメントから明らかなように、「安全への気配り」が十分できた。また、アンケートの回答割合が昨年度より高くなり、「考察頑張った」、「実験を精一杯やりました」、「実験の意味を一つ一つ考えて授業（に）取り組みました」、「プレゼンはベストを尽くすことができた」など、ポジティブなコメントが得られた。その一方、「内容の理解度」のポイントが昨年度より少し下がった。その理由は、要配慮学生の支援に時間がかかったこと、事前の試業調製が増えたことが考えられる。要配慮学生が、ほぼ毎回、昼休み終了直前までレポートを書いていたが、時間がかかっても、自分で最後までできると感じてもらい、その気持ちをクラスの学生に共有してもらうことにつながったと考えている。 ・昨年度の最終回のプレゼンテーションでは、人前で話すことを嫌がる学生が目立った。今年度は、数週間前からスライドをブラッシュアップする班が多かった。普段から学生に声をかけるよう心がけ、こまめにスライドを見せるよう指示し、その場で、スライドを変えらるとどう改善するか説明し、後で推敲するよう指導した。このやり取りを通じ、成績評価試験としてではなく、自己表現力のスキルアップとして認識してもらえたと思う。また、周囲で議論を聞いていた他の班にもこの刺激が伝わった。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察	・今年度は、「話し方がはっきりしていたか」のポイントが昨年度より改善した。また、「雑談がとても興味深く面白かった」というコメントがあった。自分が学生たちと同じ年代だった40年前の話をすると、社会人聴講生がいつも相槌を打っておられた。そのリアクションが周囲の学生にも伝わったようで、昨年度より、教室内での笑いが多くなり、こちらの声も大きくなったのではないかと。 ・反省点として、平易な問題の繰り返しが多くなる傾向があり、学習熱心な学生に更に配慮する必要があったかもしれない。また、就職先に食品関連の会社を希望する学生と、食品系にこだわらない学生とがいるため、両者に満足感を与える講義内容にすることはとても難しいと感じている。しかしながら、一つ一つの学習内容が確実にできているか見回り、具体的な食品ラベルを提示し、質問に来た学生に時間を取って対応することで、学習意欲を向上させることができることが分かった。 ・食品表示に関連する内閣府令の改訂が頻繁にあり、使用している教科書も2年ごとに改定がある。毎年、講義資料の内容が出来るだけスライドに対応するよう、パワーポイントをこまめに加筆している。 ・「プロジェクターにプリントを映し出す時に、もっと拡大してほしい」というコメントがあった。来年度は、大きめの文字サイズで解説プリントをプロジェクターに映し、iPadを活用するよう周知したい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察	・今年度は「話し方は、はっきり聞き取れたか」、「理解できたか」の2項目で3.38、3.23と、昨年度より点数が高くなった。エクセル問題の入力解説と教科書解説の資料のスクリーンを切り替える時に、学生の意識が途切れないよう注意した点良かったものと思われる。昨年度より受講数が少なかったためでもあると思うが、本年度の理解度の改善は、举手した学生のところにできるだけ早く行き、個別に指導しつつ、近隣の学生にアシストを依頼した点良かったものと考えている。 ・「もう少しゆっくり解説してもいい」「解説が早すぎてついていけなかった」というコメントもあった。一部の学生にはエクセルのオンデマンドの解説が早かったためと思われる。授業回数の浅いうちは、入力した数式をモニターに表示した後に、学生の表情を確認して、次までの待ち時間を調整するようにしたい。また、座学の科目と異なり、学生はディスプレイと教卓を見比べているため、教卓からは困っている学生を判別しにくい。来年度は教室の前の方の空いた席に座してもらい、教卓から学生のPCにすぐアクセスできるようにしたい。 ・朝早い1限の授業であっても遅刻、欠席しないで参加してくれる、魅力ある授業を行いたい。 ・官能検査、食商品のアンケートを集計、解析する内容を強化するとともに、社会調査士の資格取得にも配慮する。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察	・昨年度、「話が聞き取りやすかったか」という項目の点が、3.05と3.22であったが、今年度は、3.38と3.50に改善した。さらに、昨年度に比べ「理解度」と「満足度」も若干上昇した。今年度は、復習と小テストを繰り返す際、スマホではなく、iPadで正解を確認させたのが良かったと思われる。また、「板書の音が不快」というコメントがあった。これは、板書のマーカーのインクが無くなり、先ががすれ、不快音が出たためと思われるので、替えインクを複数用意して教室に向かいたい。 ・「小テストは全力で取り組んだ」「小テストを事前学習してしっかり取り組むよう努力」というコメントがあり、「覚えるのに時間がかかる」ことを、繰り返し学習で乗り越えてもらいたいという、こちらの意図を理解してもらえ、大変嬉しかった。「スライドを事前に見た」という学生もいたので、来年度はウェブクラスの公開時期を早めたい。 ・ゼミでの教育も併せ、就職希望先に食品の製造員、販売員としてのみ応募するのではなく、品質管理、安全管理を担当できる人材を育成したい。 ・安全学においても、商品表示と同様、まず、初級の検定試験を受けさせるようにしたい。
5.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察	・昨年度に比べ12項目のうち10項目で評定点が上昇した。特に、前年唯一、3.0点を割っていた「話し方が聞き取りやすかったか」の項目が3.50に改善した。「理解できたか」の項目の点は昨年度とほぼ同じであった。また、「スライドは難しい内容が多かった」という学生がいた半面、「（学生）側の作業を増やしていい」という学生もいた。この科目は教科書のページ数が多かった、難しい化学式もある。全般的に講義やレポートをやさしくしたが、「課題をしっかりと提出できた」、「筆記レポートにきちんと取り組むことができた」という肯定的なコメントがあり、これぐらいでいいのではないかと考えている。更に深く学ぶ意欲のある学生にはオフィスアワーへの来室や、自分の担当ゼミへの参加を募っている。話が脱線した際には、居眠りしかけている学生を覚醒させる話にしているが、交友関係の大切さ、長期的なビジョン・目標の設定の大切さも伝えている。 ・食品に興味をもって入学する学生が多いので、自分で収集した食品表示ラベルを比較し、包装容器、脱酸素剤の特徴を説明し、原材料、添加物、原産地、栄養成分表をライバル社と比較し、各社の工夫点を解説することで、学生の注意を引き付けるようにしている。教科書からは分かりにくい現場の問題点、課題点を、食品商社勤務の知り合いからの聞き、学生に衛生管理、認証取得、就職面接の現場の状況を伝えている。これまで本学から採用してもらえなかったレベルの会社へのエントリーにつながるよう心掛けるとともに、本学に継続して会社説明会に来てくれる会社があるため、就職がなかなか決まらない学生には、そのような会社の良い点と、これまでの採用実績をキチンと伝え、会社説明会のチャンスを逃さないよう指導したい。 ・加工学では食品ラベルの比較解説が好評なので、さらにこれを増やしたい。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業で質問をしてくる学生に、自分のゼミでやっていることがらを紹介している。 ・食品表示では、授業と別にウェブクラスに検定試験対策講座を設置、オフィスアワーに研究室に入室してもらっている。 ・出席率の低い学生は、小テストを欠席した学生に、リベンジのためのメッセージをこまめに送信している。 ・教學課より要配慮の通知があった学生の対応には、ゼミ指導教員と連携して対応している。 ・稲友祭、卒業研究発表会に加え、イチョウ講演会、学会発表などで、研究成果発表の機会があることを伝えている。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度の成果	・2024年度食品表示検定表彰 団体初級、学校の部門3位 ・学術論文（2024年7月、査読あり） シリカ膜カラムによる米ゲノムDNA 抽出実験の大学生向け動画教材の開発 内田美重、コンタウィクリスティンアイコ、呂虹橋、内田英伸 Science Journal of Kanagawa University、35: 77-80 ・第66回日本植物生理学会年会発表（2025年3月、金沢） 稲沢市祖父江町で栽培されるイチョウの早生品種と晩生品種の比較解析 澁谷龍弥、山下博史、山田昂汰、内田美重、景山伯春、小林正美、井上和仁、内田英伸 ・日本植物学会第88回大会発表（2024年9月、宇都宮） 稲沢市祖父江町で栽培されるイチョウ早生品種金兵衛と他品種の比較解析 内田英伸、呂虹橋、澁谷龍弥、小林正美、山下博史、堤浩一、井上和仁 ・名古屋文理大学稲友祭研究発表会（2024年10月、フードビジネス学科内田ゼミ発表） ポスター発表9件
令和7年度の目標	・食品学実験では、班内でのディスカッションを促し、落ちこぼれがでないよう配慮するとともに、熱心な学生を把握し、そのレポートの記述から、全体の学生の理解度を把握する。 ・食品表示では、中級の検定受験の団体申込者が少なかった。初級の検定合格者に対し、さらなる受験を促す機会を設ける。例えば、実務経験のある人材にミニレクチャーを検討する。今年度の科目の成績の優秀な学生に個別に声をかけ、来年度は、内田ゼミに参加するよう促したい。 ・体育祭、稲友祭、ボランティア活動を通じ、学生とのコミュニケーションを十分図りたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：情報メディア学科

職位：助教

氏名：御家 雄一

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

情報メディア学科においては、情報社会を支える基礎的な技術力とともに、他者と協働し、創造的に課題を解決できる能力の育成が求められています。これらの資質・能力の育成に資する教育活動を、情報科学の基礎とメディア表現の両面から展開しています。

教育活動においては、学生が自らの興味関心を軸に、主体的・対話的に学びを深められるよう意識しています。情報科学の基礎的な内容を扱う際には、ビクトグラムデザインなど視覚的表現を取り入れ、抽象的概念の具体化と理解の深化を図っています。これは、視覚的思考を通じて問題解決力の育成を目指すものであり、学際的な学びの在り方として位置づけています。

また、教職課程の教員として、将来教育現場に立つ学生が、情報という学問を通じて「伝える力」「読み取る力」を涵養し、社会の課題に対して責任ある態度で向き合えるよう、指導にあたっています。情報を扱うということは、単なる技術の習得にとどまらず、情報倫理、歴史的背景、そして人間観にも深く関わるものであると考えています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：情報リテラシー	情報リテラシーの授業においては、数理・AI・データ・サイエンスリテラシーを包括的に扱い、高等学校との接続を重視した教育を展開している。そのため、各教科の高等学校教科書を精査し、近隣校の授業見学や教員へのヒアリングを通じて、高校現場の教育実態を継続的に調査している。特に東京都の先進的な指導実践を重視し、定期的な訪問を通して情報を収集している。授業では、思考力を育成するため、仮説・検証・結果と仮説の比較を繰り返す課題設計を行い、高校から大学へのシームレスな接続を図っている。また、基盤変換に関する教材を開発し、全国高等学校情報教育研究会にて高校生向け教材として発表、同時に大学でも活用可能な内容として展開しており、大学・高校双方に適用する教材開発・実践に取り組んでいる。
2.教育活動や教育業績 科目名②：サウンドプログラミング	サウンドプログラミングは、サウンド制作コースと情報システムコースの学際的要素を持つ3年次開講科目であり、双方に苦手意識を抱く学生が多い傾向にある。そこで、授業序盤では基礎的な音響知識とプログラミング技術の両面を丁寧に扱い、エンターテインメント性を取り入れた課題によって学習への興味を引き出し、理解の定着と苦手意識の払拭を図っている。学生が主体的かつ対話的に学べるよう、サンプルデータを用いた体験型学習を重視し、腑に落ちる理解を促進している。加えて、外部の作品ポートフォリオを参考にしながら、仕組みの考察・再現・創作へと発展するワークショップ型授業を実施し、表現力の拡張と探究的な学びの実現を図っている。こうした取り組みにより、知識の定着のみならず、視野の広がりと深い読み取り力を養成している。
3.教育活動や教育業績 科目名③：情報と教育	幼少期から社会人に至るまでの生涯教育の視点から情報教育を捉え、従来の中等高等学校中心の認識を超えた包括的な内容を扱っている。授業では、機器に依存しない情報の受容や活用について考察しつつ、特に中学・高校・大学段階での情報化と教育のあり方に焦点を当てて展開している。学生には仮説を立て、検証・比較を行う機会を多く設け、現行の学習指導要領の変化と教育方法の転換を、体験を通じて理解させている。また、自身の研究業績に基づく教材開発とその背景にある理論的根拠についても授業内で共有し、今後の学生の研究・制作活動への応用を促している。引き継ぎ科目であったため過年度との比較は困難であるが、今年度は特に教材の提示・運用に重点を置いた授業設計を行った。
4.教育活動や教育業績 科目名④：情報科教育法	情報科の歴史や高校現場の現状に関する理解を深めるとともに、模擬授業を通して学生自身の授業実践力と教員としての視点の涵養を図っている。これまで生徒を一方的に「教える対象」と見ていた学生も、本授業を通じて、生徒との距離感や関わり方の重要性に気づく場面が多く見られた。授業では、高校現場における生徒の反応を想定した指導案作成と、それに基づく模擬授業を実施し、教員が同テーマで即興的に授業の一部を再現することで、「なぜこのような行動や発言をしたのか」といった意図や配慮を明示的に解説し、実践的な授業設計力と柔軟な対応力を養成している。このような指導により、学生は現場の多様な状況に応じた教育実践力を身につけつつある。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：情報リテラシー	多くの学生が「内容が分かりやすかった」と評価し、特に抽象的な概念に対しても身近な例を用いることで理解が深まったとの声が多く見られた。一方で、高校内容と重ならない高度な内容を扱った際には、授業の要点が不明瞭であったと感じる学生も一定数存在し、例え話の複雑さによって途中で集中が途切れてしまう場面があったと自己分析している。また、学内システムの活用を通じた学習習慣の定着を図ったが、その運用に対して混乱や厳しさを訴える声もあった。課題の評価基準や出席管理に関しても明確に示したつもりではあったが、一部学生からは否定的な意見も見受けられた(出席を15分間認めよといった理不尽なものもあったりする)。これらを踏まえ、今後は例え話と理論的説明のバランスを再検討し、特に序盤での離脱を防ぐための授業構成の工夫を行いたいと考えている。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：サウンドプログラミング	「興味のなかった分野だったが楽しく学べた」「わかりやすかった」といった肯定的な意見が多く寄せられた。難易度の高い内容も含んでいたが、進捗に応じて取り組めるよう複数レベルの課題を用意したことで、多くの学生が前向きに取り組めたと考えている。一方で、学生自身の目標設定がやや低く、達成感のある体験の裏に、十分な挑戦がなされなかったケースも見受けられた。今後は、より高い到達目標を意識させる課題提示やフィードバックの工夫が必要だと感じている。また、授業資料の事後共有や復習支援の仕組みは好意的に受け止められており、学習支援として有効であった。学生の主体的な学びをさらに引き出すために、楽しさと達成感の先にある深い学びへと導く授業設計を検討していきたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：情報と教育	主体的な学びを促す活動を複数取り入れたことで、学生が内容を「自分ごと」として捉え、能動的に取り組む姿勢が多く見られた。特に、仮説を立てて考える活動については、授業評価アンケートの自由記述にも多く言及があり、実践的な学習を通して理解が深まったという声が寄せられた。情報教育に強い関心を持って履修した学生のみならず、当初は関心の薄かった学生においても、体験を通じて教育の意義や情報教育の重要性を実感することができたと捉えている。教育内容をただ「学ぶ」のではなく、主体的に考え、自らの経験に基づいて理解するという学びの在り方を構築できた点は、本授業の成果のひとつであり、今後もこのような学習構造をさらに高めていきたいと考えている。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：情報科教育法	履修者が少数であったため、個別指導に近い形で授業を進めることができた。学習内容の一部は実際に学生が体験しながら学び、また模擬授業を実施した際には、現場経験のある教員が同一テーマを即興で実演することで、授業の意図や改善点について具体的な検討を行った。これにより、学生は自身の指導方法を客観的に見直す視点を得ることができたと考えている。また、他教科との接続を重視し、複数教科書を参照しながら、教科横断的な視点での授業設計を意識した点も、本学における情報科教育法の特徴の一つであると考えている。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・情報メディア学科教員研修会「高校情報の学び」：令和7年度入学生の新学習指導要領の内容の共有と現場の学びの内容を共有した。・全国高等学校情報教育研究会全国大会に参加し、現場の教員の悩みや取り組みの共有し、教科教育法の指導内容に活かした。また授業実践方法の発表をした。・情報通信人材教育研究会 教育協議会にて高校情報の現状と取り組み事例について共有した。また大学の初年次教育に着目した指導方法について検討した。・愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会尾張地区研究会 視聴覚教育に関する講演や視聴覚教材等の作成に関する講義にてAIを活用した情報科の授業の手法やプロンプトの工夫例、AIの仕組みについて教授し、生徒や学生のAI活用について検討した。・東京都立高校へオンラインで3Dプリンタの使用方法について伝え、特にオンライン環境での技術指導方法について検討し試した。あわせて本学のデジタルアプリケーション教育について高校の環境と照らし合わせレベル感など検討した。・岡崎市立小学校の現職教員に情報科と情報化に着目し、現在の教育の手法について共有し、小学校での指導方法について検討した。このことにより生涯教育について再度考え、教職課程の授業改善に至る。・私立高校の教員向けに探究学習に関するガイダンスと指導法の伝授、また現実的な指導方法について検討した。学校間のギャップや現場と理想の差について把握し、新入生への授業手法の検討材料となった。・地域連携センター主催 学内教職員向け研修で探究学習を中心に高校の学びの変化について共有した。R7年度入学生から学習の習慣が異なるだろうゆえ、事前に学びの変革について把握するための共有と検討である。・東京都立高等学校情報教育研究会研究大会に参加し、文部科学省と東京都教育委員会の策定する最新の動向を把握し、個人情報保護等の観点からのAI使用に関するガイドラインについて把握した。その上で数理・AI・データサイエンスリテラシーレベルに対応する情報リテラシーの内容の検討をした。
-------------------------	---

3

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

次年度は、新学習指導要領に基づく教育を受けた学生が初めて本学に入学してくる年であり、これまでとは異なる学習スタイルや思考傾向を持つ学生への対応が求められると予測している。特に、これまでにように知識を一律に習得するという姿勢ではなく、自らの興味や必要性に応じて「これは自分にとって学ぶ価値があるのかどうか」を判断しながら学習を進める傾向が強くなっていると感じる。また高等学校における探究的な学びのあり方も多様で、情報メディア分野においては、こうした主体的な学びを基盤としつつ、基礎的な知識と技能の重要性を実感できるような授業設計が求められる。
そのため次年度は、学生が「なぜこの知識が必要なのか」を自らの体験を通して納得できるよう、学びの動機づけと応用の場面を可視化する授業構成を意識していく。また、学習習慣が十分に確立されていない学生も一定数想定されるため、段階的な課題提示や、達成感を得られるような仕掛けの工夫も必要である。加えて、本年度において近隣高等学校との関係づくりや教員間での情報共有の体制を整備してきたことから、こうしたネットワークを活用し、高校現場との教育的接続のあり方についても継続的に検討していく。現場教員や研修会での交流から得た知見をもとに、学生の学びを支えるだけでなく、社会や教育現場ともつながる情報教育のあり方を追究していきたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：情報メディア学科

職位：教授

氏名：大矢信吾

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

情報メディア学部情報メディア学科は、情報技術とメディア表現を統合的に学び、創造力と実践力を兼ね備えた人材を育成することを理念とします。そのため、情報社会の発展に貢献できる専門知識と技術を身につけるとともに、社会人として求められる基礎力や人間力を培い、柔軟な思考と多角的な視点で課題に取り組む力を養うことが重要です。

情報技術の進展に適応し、メディアを通じた表現力を高めつつ、社会で実践的に活躍できるスキルを磨くことが大切です。このとき、本学科には、「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つのコースが設けられており、学生が自身の適性や興味に応じて専門性を深めながら、異なる分野との融合による新たな価値創造に挑戦できる環境を活用したいと考えます。

また、単なる知識の習得にとどまらず、主体的に学び続ける姿勢を重視し、多様なメディア環境の中で新しい可能性や価値観を切り拓く力を育むことが不可欠です。情報技術とメディア表現を駆使し、現実社会に貢献できる創造的な人材の育成を目指します。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①: CAD	CAD教育は、設計・デザイン分野における情報技術の活用を通じ、創造的かつ実践的なスキルを備えた人材の育成を目指すため、単なるツールの操作習得にとどまらず、設計プロセスの理解を深め、論理的思考や問題解決能力を養う演習課題メニューを用意しました。また、GUIに優れた2D・3D CAD対応のアプリケーションソフトとiPadを活用し、異分野と連携した新たな価値創造に、自らの力で挑戦できるよう自ら考えながら課題に挑戦するような方式としました。これにより技術の進化にも適応でき、主体的に学び続ける姿勢を育み、社会に貢献できる設計者・クリエイターとなることをできるスキルが修得できたのではないかと考えています。
2.教育活動や教育業績 科目名②: 写真技術	本科目の教育は、撮影技術と視覚表現の基礎を学び、創造力と実践力を備えた人材の育成を目指しており、単なる機材の操作にとどまらず、光や構図の理解を深め、意図を的確に伝える表現力を養うことが目的の課題メニューを用意しました。さらに、メディア学科の特性を活かしたデジタル技術を活用し、技術と芸術の融合による新たな価値創造にも挑戦できる人材の開発も視野に入れながら、多様なメディア環境に適応し、主体的に学び続ける姿勢を育み、社会に貢献できる写真表現者の育成を視野に置きました。
3.教育活動や教育業績 科目名③: 自然科学1	この科目では、自然現象を原理を定性的に理解し、科学的思考力を養うことを目的とするので、数式や法則の暗記を目的とするのではなく、現象の本質を直感的に捉え、日常や技術との関わりを意識しながらの学びを重視しました。このとき、基礎的な概念を重視し、物理的な考え方を身につけることで、社会における問題解決能力の習得を期待しました。そして、物理が専門でない学生にも、理解を含めるための実践も含めることで、学ぶ楽しさを体感しながら、論理的思考を培うことを実践しました。
4.教育活動や教育業績 科目名④:	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①: CAD	論理的思考や問題解決能力を養う演習課題メニューを用意しましたが、課題の題意を理解することなく取り組んでいる学生が目立ったため、難しいと感じた学生が多かった。この原因は、授業前半で行う理論的な解説を聞かない学生が多かったことが目立ちました。したがって、いかに理論的な解説を聞いてもらうかが第一の課題であると考えています。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②: 写真技術	他の科目同様に、論理的思考や問題解決能力を養う演習課題メニューを用意しましたが、課題の題意を理解することなく取り組んでいる学生が目立ったため、難しいと感じた学生がやはり存在しました。この原因は、授業前半で行う理論的な解説を聞かない学生が多かったことが目立ちました。したがって、いかに理論的な解説を聞いてもらうかが第一の課題であると考えています。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③: 自然科学1	論理的思考や問題解決能力を養う演習課題メニューを用意しましたが、課題の題意を理解することなく取り組んでいる学生が目立ったため、難しいと感じた学生がこの科目では特に存在しました。この原因は、授業前半で行う理論的な解説を聞かない学生が多かったことが目立ちました。ある程度の実験や体験は授業内に取り入れましたが、理解を深めるにはさまざまなところに限界があります。いかに理論的な解説を聞いてもらい思考実験の面白さにも気づき興味を持ってもらえるかが課題であると考えています。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④:	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	学生の表現力の向上や想像力の向上にも重点をおき、特に理論と実践とのつながりを強く意識できるようなことも盛り込みながら授業内容や課題メニューを実施しました。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

どの科目にもおおよそ共通していたと考えられるのは、科目の意義や将来への科目の展望でした。そこで、各科目に対して以下のいくつかの目標・項目を立て内容をしたと考えています。	
1. CADについて まず第一に土の点、（1）CADの基礎を理解する、（2）図面の作成・読解力を身につける、（3）実務での活用を意識する、（4）設計と製造との関連の意識する習慣、などを重点的に盛り込んでいきたいと考えています。	
2. 写真技術について 次の4点、（1）写真の基本技術を習得する、（2）光と構図を意識する、（3）写真の文脈を考える、（4）写真を通じた表現力を高める、について理解を深めてもらうようにしたいと考えています。	
3. 自然科学について 次の点、（1）物理的な見方を身につける、（2）定量的結果から定性的に物理を理解する、（3）科学的思考力の基礎を身につける、（4）生活の中の物理を実感する、について進めていきたいと考えています。	

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：健康栄養学科

職位：准教授

氏名：岡田 有司

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

管理栄養士養成課程専門科目である「臨床栄養学」担当教員として、主として医療機関で活躍できる管理栄養士になれる学生教育を行うことを自分の教育理念・目標としています。

管理栄養士の対象者は「ヒト」であるが「臨床栄養（学）」の対象者は傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」であるため、学生には第一に正常な「ヒト」を理解した上で「臨床栄養（学）」の対象者である傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」を理解することを学生に求めています。具体的には「解剖生理学」「生化学」「基礎栄養学」「ライフステージ栄養学（応用栄養学）」などの基礎医学系科目の知識を身に付けていることを求めています。

また学生には対患者の対応ができるように知識・技術の教育を行っています。

管理栄養士（もしくは管理栄養士養成課程の学生）は他の医療従事者（その職種の養成校の学生）との「臨床的」な認識の違いがあることを自身は実務経験・他大学での非常勤講師の経験から自覚しており、他の医療職の考え方を学生に伝えることが卒前教育で必要であると考えています。

管理栄養士国家試験での出題問題数が多く、最低限国家試験に必要な知識は覚えるように教育を行っています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：病態栄養学Ⅰ	「臨床栄養学」分野の基礎となる傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」の栄養評価を主として教育する科目であるため、正常な「ヒト」の解剖学や生理学、生化学、栄養学の復習を行いながら授業を展開しました。また医療従事者として最低限知っておくべき事項を受講生に質問を行いながら、授業に緊張感を持たせながら授業展開を行いました。 また臨床栄養管理実習Ⅰとの連携を意識して授業展開を行いました。
2.教育活動や教育業績 科目名②：病態栄養学Ⅱ	各疾患概要を教授した後、「病態栄養学Ⅰ」の知識を基に栄養評価（栄養アセスメント）、栄養治療の基礎が学習できるように授業展開を行いました。同時に「病態栄養学Ⅰ」で学習した内容の復習、関連科目の復習を行いました。 「病態栄養学Ⅰ」同様、受講生に質問を行いながら授業展開を行い、授業に緊張感を持たせるように工夫を行いました。
3.教育活動や教育業績 科目名③：臨床栄養管理実習Ⅰ	病態栄養学Ⅰとの連携を自身も意識し、受講生にも意識させるように授業展開を行いました。 傷病者・患者・利用者などの虚弱的な「ヒト」の栄養評価を教授するため、医療従事者として栄養学だけではなく医療従事者として傷病者・患者・利用者进行评估することを意識する授業展開を行いました。
4.教育活動や教育業績 科目名④：臨床栄養管理実習Ⅱ	「病態栄養学Ⅰ」「臨床栄養管理実習Ⅰ」で身に付けた知識・技術を基に各疾患の一連の栄養管理・栄養治療の流れを症例検討をベースに受講生が学習できるように工夫しました。 受講生に「臨床実習Ⅱ（病院）」を意識してもらうためスマホ・タブレットの使用を禁止する授業回を複数回設けるなどの工夫を行いました。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：病態栄養学Ⅰ	授業評価アンケートでは概ね良好な評価を得ていると考えています。授業の性質上、新たな知識を覚える内容が多く、「理解する」ではなく「覚える」内容であること、前回のアンケートの結果などより、進行速度を意識しました。 自由記載に関しては、他の科目との関連を意識し、授業を行ったことからの記載であったように考える。受講生の意見より、webclassに配布資料のアップを検討したいと考えております。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：病態栄養学Ⅱ	授業評価アンケートでは概ね良好な評価を得ていると考えています。授業の性質上、新たな知識を覚える内容が多く、「理解する」ではなく「覚える」内容であったため一部の受講生には毎回の授業内容が多い、進行速度が速いように感じられたと考えられます。 自由記載に関して、今回に受講生のほぼ全員が前年度の病態栄養学Ⅰの受講生であり、授業スタイルになれたための記載であると考えられました。 なお授業評価アンケートの結果などより令和7年度より教科書を変更することにしました。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：臨床栄養管理実習Ⅰ	授業評価アンケートでは概ね良好な評価を得ていると考えています。この授業内容は、新たな知識を覚え、それを使う内容が多く、「理解する」「覚える」に加えて「使う」内容がほとんどの科目である。またこれまでの自身の教育経験上、受講生が1度では「理解・覚え・使う」ことが困難な内容であることを知っているため、複数回同じ課題を受講生に提供しています。 自由記載に関しても、課題が多い等の評価があるが、上記同様繰り返し学習してもらう必要があるため授業を組んだ結果と考える。今後は課題の量と質の検討を行います。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：臨床栄養管理実習Ⅱ	授業評価アンケートでは概ね良好な評価を得ていると考えています。この授業内容は、臨床栄養管理実習Ⅰを踏まえ、新たな疾患の栄養管理を検討（新たな知識を使う）する実習です。この実習の受講生の多くが臨床栄養管理実習Ⅰの受講生であり、ある程度実習スタイルになれた状態で受講したものと考えられます。自由記載に関しても、課題が多い等の評価があるが、上記同様繰り返し学習してもらう必要がある内容であるため授業を組んだ結果と考えられます。。この実習中に受講生が臨床実習Ⅱ（臨床栄養学臨床実習）に参加した学生に課題を見せた時に「これまんま臨床実習！」と言われたと報告がございました。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	「授業がおこなわれているその時」実臨床で行われている業務、必要とされている知識・技術を自身が学会などで情報収集し、授業に活かせたと考えております。 座学では毎回リアクションペーパーの提出を受講生に求め、知識だけではなく「その場」で考えさせるように授業を行いました。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

昨年度から新たな科目が追加となったが、管理栄養士養成校用の授業資料、課題資料を作成することができました。 令和7年度は令和5年度、令和6年度の授業評価アンケート結果や自身の反省点を授業に取り入れていきたいと考えております。 また関連科目との「つながり」を意識した授業を行う計画を立てています。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：落合洋文
------	-----------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

基礎教育センターとしては（１）学生と教員がともに楽しく学べること、（２）大学らしく、高校までには経験したことのない創造的な学びの場を提供すること、（３）教員も学生もひとりの人間としてお互いを尊重すること、の3つを教育理念としています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：数的処理Ⅰ・Ⅱ	公式を覚えて使う式の数学教育ではなく、自然現象や社会現象の理解を深めるため、数値を使って想像する力を養うことを目標としています。数理モデルの作成や利用はその具体例です。またこの科目では1人で考えるのではなく、グループで話し合い協力して1つの課題に取り組むグループ学習を基本としています。グループでの討議を助けるため、2～3人の教員で授業を運営します。本学の取り組みは科研費研究「高水準数学リテラシー概念下での大学数学教育の実践」などにおいて文系数学の好ましい実践例として評価されています。
2.教育活動や教育業績 科目名②：日本語Ⅰ・Ⅱ	日本語という言語の特性を踏まえて、論理的に考えること、言外を読むこと、明快に説明すること等々に係る力を身につけることを目標としています。学科の学修内容にも考慮し、例えば情報メディア学科では特化型AIの企画書作成を課題とし、グループで話し合い協力して企画書を完成させる過程で上記の目標に近づくように指導しています。グループでの討議を助けるため、2～3人の教員で授業を運営します。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎理化学実験	初めて理化学実験を学ぶ学生のために、安全教育からはじめて、実験器具の扱い方や基本的な操作の要点、レポートの書き方などを指導します。実験は4人一組の班で行い、協力してデータ処理などを行います。レポートは1つの実験ごとに提出してもらい、その都度添削して返却します。
4.教育活動や教育業績 科目名④：自然科学Ⅱ（化学）	管理栄養士課程で学ぶ栄養学や生化学の基礎となる化学的知識を学ぶ科目であるため、講義の後で必ず演習の時間を設け、問題を解くことで理解を深めるようにしています。演習の時間には質問に答えながら、クラス全員で要点の理解を共有するようにしています。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：数的処理Ⅰ・Ⅱ	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。チームティーチングにより学生が質問しやすい環境を作っているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：日本語Ⅰ・Ⅱ	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。チームティーチングにより学生が質問しやすい環境を作っているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：基礎理化学実験	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。チームティーチングにより学生が質問しやすい環境を作っているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：自然科学Ⅱ（化学）	授業評価アンケートの満足度は3.5以上、理解度は3～3.5である。演習問題を初回の授業で配布して何度も繰り返し同じ問題を解くことで理解度が高まっているようである。また授業をビデオ撮影して動画をYouTubeにあげており、これが復習に役立っているようである。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	数的処理Ⅰ・Ⅱでは数理データサイエンスに係る内容を強化するため、数理モデルを用いる自然現象、社会現象のモデル化の比重を高めた。全国の大学で始まっているAI・数理データサイエンス教育プログラムにおいて数理に係る部分の実践例や教材が少ないという指摘が数学関係者からあがっているが、本学は豊富な教材をもっており、他大学にも供給しているほどである。また令和5年8月にはこのような問題に取り組む大学、高専の教員を対象として、数理モデル教材の作成ワークショップを開催し、講師を務めた。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和5年8月には数理データサイエンス教育に取り組む大学、高専の数学教員を対象として、数理モデル教材の作成ワークショップを開催し、講師を務めた。また数理モデル教材の作成法や作成例を雑誌月刊「化学」に「実践数理データサイエンス」として連載している（令和6年12月まで）。令和6年は、新規採用の助手を迎え、AI・数理データサイエンス教育における数理モデルの活用を強化する。また日本語力では日本語の特性を生かして、日本語で考える、説明する力を強化する方法について、基礎的な研究と授業実践を組み合わせることで実用に耐える日本語教材の開発を目指す。	
--	--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：加藤 清子
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

これまで約20年間、周産・女性診療科を受診している中高年女性に対し医師と協働し、栄養アセスメントに携わった経験がある。幾度も失敗や成功を繰り返しながら、長い経験を経て得られた臨床感覚であり、やりがいを感じていた。直接的に経験しなければわからないことも多いだろうが、私自身の臨床経験から栄養指導の実際を学んでいただく機会を提供したいと考えている。 20年近く前の自分自身を思い起こすと、個別の栄養アセスメントにおいて正確な食事内容の聴取、改善箇所の把握に一生懸命で、専門的知識を生かして患者さんの栄養状態を改善することを第一に考えていた。しかし、そのような方法では上手くいかない方も多いことに気づき、自分の至らない点を探し、焦っていた時期があった。先輩の栄養アセスメントにオブザーバーとして参加させてもらって気づきがあった。先輩は、心の扉を開いてもらえるように相手の話したいことに耳を傾け、そのうえで食事の話や運動の話をするという対話を大切にしていた。臨床栄養では、何かしら抱えている疾患がある患者さんと向き合うため、教科書的な話だけでは伝わらないと痛感した。そして栄養アセスメントをおこなう上で信頼関係が欠かせない。相手の心にお邪魔する気持ちで、お話を聴かせていただくということを心がけるようになり、現在の臨床実践につながっている。私が経験した、このような数々の失敗や成功体験を共有し、一人一人が個別の特徴と人格を持つ人間を対象にしているからこそ、機械的にはできない部分を学生に伝えたい。 本学が示す「管理栄養士に合格する」だけでなく「実践力のある管理栄養士」を目指すとのメッセージは、まさに自分がこれまでの学んできたことを伝えることによって果たせる役割があるのではないかと考えている。次世代の管理栄養士となる学生の学びの助けとなれるよう教育に従事し、それぞれの学生さんがご自分の人生を歩み、将来的に仕事のやりがいをも実感できることを願っている。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養教育論Ⅲ	企業の健康診断において基準値を超えた、“メタボリックシンドローム”の対象者に対する個別の栄養相談に長い年月にわたり携わってきた。いわゆる「特定保健指導」である。様々な職業の方に対して面談を行ない、食事習慣・生活習慣改善のため如何にお伝えしたら実行に移していただけか、試行錯誤しながら行なってきた。また、特定保健指導は病気に関する知識がなければ説得力を持って対象者に説明することができないため、各疾患の病態生理や食事療法に関する知識とともに栄養指導の実践的な能力を身につけてきた。
2.教育活動や教育業績 科目名②：臨床栄養管理論Ⅰ・Ⅱ	これまで「系統的健康・栄養教育プログラム」の研究データ収集（体組成や安静時代謝、血管年齢測定、体力測定、食事調査、心の健康状態調査）と分析に取り組んできた。「系統的健康・栄養教育プログラム」は、管理栄養士と医師が中心に、食生活、運動習慣の見直しを行い、更年期女性特有の健康問題を改善することを目的としている。約7000名の20年間の追跡したデータ収集をほぼ一人で担当し、医師の研究にも積極的に協力してきた。私自身も、栄養指導を改善していくため、「体組成の変動と食事摂取の変化との関連」、「高たんぱく質食と各種栄養素摂取状況、体組成との関連」等について検討し学会発表を行ってきた。近年では、不定愁訴の影響で運動ができていない更年期女性など、より特定の問題を持つ女性に特化した食に関する支援に力を入れて研究活動をおこなっていた。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養教育論Ⅲ	私の担当した授業全体の平均値は、満足度3.80、理解度3.74となり、大学全体の評価結果(講義)と比較して、授業の満足度は0.26ポイント、理解度は0.27ポイント高い結果であった。また、「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった=3.87」「教科書やプリントは授業の理解に役立った=3.86」「板書やモニター提示の仕方や内容が適切だった=3.85」「課題の量は適切であった=3.86」が高い評価であった。これらは授業をおこなう際に自ら留意していたことであり、これを評価された点は良かったと思う。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：臨床栄養管理論Ⅰ・Ⅱ	自由記述においては、「一つ一つ丁寧に分かりやすく聞き取りやすいので、授業の内容がはいってきます」 「病気の仕組みまで丁寧に教えてくださるので臨床栄養学について理解を深めることができた」といった嬉しいコメントが多く寄せられた。また、「毎回分からないところや質問したいことを紙に書いて提出し、次の授業でそれらについて説明するという授業の進め方によって、疑問点が解決しやすい」という意見が多くあったので、今後も続けていきたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	毎回、「前回の復習」および「学生からの質問に対する回答」から授業をスタートし、理解の定着を図った。学生からは「臨地実習で抜けても授業についていくことができた」との意見を得られた。 また、授業の感触を得ると同時に改善点を見出すため、学生全員に対して毎回授業の終わりに「リアクションペーパー」の記入をお願いした。これにより授業に対する様々な率直な意見や質問を聞くことができた。 リアクションペーパーに書かれている良い点については自身の励みとし、改善すべき点は即座に改善することで、逐次、授業内容の向上を図ってきた。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度では、「女子大生における月経前症候群（PMS）と食事摂取状況との関連（第1報）」をテーマに研究を行なった。結果として「PMSのやや辛い群」と「PMSのとても辛い群」の2群間には、睡眠時間の長さやショ糖、飽和脂肪酸の摂取量との関連が示唆された。現在は次年度に向けて、共同研究者の文教大学秋吉教授とともに研究の進め方を検討している。 令和7年度の目標としては、自身のスキルアップを図るため、学会参加や講習の受講を積極的に行う予定である。そしてそこで得た最新の情報を授業内容に取り入れながらブラッシュアップを重ねていく。合わせて、従来からおこなってきた学生に寄り添った授業に磨きをかけていく。また、参加型の授業時間を一部設けることで学習内容の理解がさらに深まるような取り組みにも挑戦する予定である。これまで通り、国試対策にも力を入れて取り組みたいと考える。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 准教授	氏名： 河木智規
------	---------------	---------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

基礎的な知識と技術を真摯に学び、且つ時代の変遷と社会の変化に柔軟に対応する応用力を身に着けることが大切だと考えている。そのために、実社会の広範な情報を最新の形で取得するための方法や現実の現場での調査（フィールドワーク）なども取り入れている。併せて、自身の意見を主張する機会、他者の意見を聞き相互理解を深める機会を授業内や課題を通じてできるだけ多く取り入れている。これまでの経験の中で、教員の身ながら学生が気づかされ教えられることの如何に多かったことか。学生と教員や学生同士それぞれが、互いに敬意を持ち、相手を尊重し素直な気持ちで意見が言い合える“場”こそが求めるべき共育現場（共に育む）だと考えている。授業の中でもこの「ホスピタリティ」の実践を目指している。 永い実社会経験をしてきたものとして、知識・技術教育のみならず社会に出てから使えるための糸口まで伝えることが大切だと感じている。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：フードサバイス論Ⅰ	1. 各授業ごとに小レポート課題を出し、翌週の授業の冒頭で情報共有・意見交換をしている。 2. 各授業の冒頭で前回授業の復習を5分程度している。 3. 各授業内で約6割の学生の意見（質問の回答や個人の意見等）を求めている。 4. 半期に1度、フィールドワークによる課題を提出させ（パワーポイント）プレゼンテーションと意見交換を実施している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：チェーンストアシステムⅠ	1. 各授業ごとに小レポート課題を出し、翌週の授業の冒頭で情報共有・意見交換をしている。 2. 各授業の冒頭で前回授業の復習を5分程度している。 3. 各授業内で約6割の学生の意見（質問の回答や個人の意見等）を求めている。 4. 半期に1度、フィールドワークによる課題を提出させ（パワーポイント）プレゼンテーションと意見交換を実施している。
3.教育活動や教育業績 科目名③：ホスピタリティ論	1. 各授業ごとに小レポート課題を出し、翌週の授業の冒頭で情報共有・意見交換をしている。 2. 各授業の冒頭で前回授業の復習を5分程度している。 3. 各授業内で約6割の学生の意見（質問の回答や個人の意見等）を求めている。 4. 半期に1度、「ホスピタリティ・マネジメントによる授業改善提案」課題を提出させ（パワーポイント）プレゼンテーションと意見交換を実施している。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：「フードサービス論Ⅰ」	学生へ提供する資料・データの見やすさと活用のしやすさを改善項目と考えている。（書き込み式レジュメ等）
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：「チェーンストアシステム研究」	昨今の業態や個別ブランドの栄枯盛衰を繁栄させて、業種別・業態別の進化・成長の過程をより詳細に解説していく。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：「ホスピタリティ論」	1. 最初に授業内で「ホスピタリティの理解度アンケート」を実施して上で、解説内容の強弱を修正していく。 2. 様々な場面での「ホスピタリティ事例」をペアワークによりロールプレイングしながら理解を深めていく。 3. 「フィールドワーク課題」をグループ単位で課すこととし、グループワークを通じてホスピタリティの実践を試みる。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	「ホスピタリティ論」では、ホスピタリティ・マネジメントに沿った「授業の改善提案」を課題として提出させ意見交換を実施した。この内容は次年度の授業に取り入れることとしている。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

毎週の「小レポート課題」の提出率も90%を超え、翌週のフィードバックや意見交換と併せ理解を深めるために定着してきている。授業前日までに掲出するWebClassの授業資料の中に、予習用設問を挿入し授業内発言の機会を増やしていく。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：北川 絵里奈
------	-----------	-------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を推進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は、管理栄養士として人々の健康の維持・増進に貢献したいという熱意を持った学生を育成したいと考えています。 私が担当する「栄養教育論」では、将来、管理栄養士として栄養教育を実践するために必要な専門知識を教授しています。栄養教育の意義や目的、行動変容を促す理論やモデル、栄養カウンセリングの基本技法、栄養ケア・マネジメント、そして多様な場面における栄養教育の特徴について、事例を交えながら具体的かつ分かりやすく伝えることを心掛けています。 また、「栄養教育実習」では、講義で学んだ知識を活かし、医療・福祉・学校教育・産業保健・地域保健など、さまざまな現場における栄養教育の展開方法を実践的に指導しています。学生は対象者を設定し、模擬栄養教育を行うことで、これまでに学んだ食・栄養・健康に関する知識を統合的に活用し、実践力を養います。 こうした学びを深める上で重要なのは、学生自身が管理栄養士としての将来像を思い描きながら、主体的に授業に取り組むことです。そのため、私は「実践を意識して学ぶこと」「将来の自分を想像しながら授業に参加すること」「授業で見つかった課題や反省点を次に活かすこと」を繰り返し伝えています。また、学生のモチベーションを高めるために、学んだ内容が実務でどのように役立つのか具体的に示し、主体的に学べる授業設計を工夫しています。 今後も、社会で活躍できる実践力を備えた管理栄養士を育成するために、教育の質を高める努力を続けていきます。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養教育論Ⅰ	「栄養教育論Ⅰ」では、対象者の健康維持・増進やQOL向上を目的とし、行動変容を促す行動科学理論や技法、カウンセリング技法を教授している。また、栄養教育のマネジメントサイクルの概念と実際の栄養ケア・マネジメントの方法を指導している。授業は、教科書、スライド、配布資料を用いた講義と、カウンセリング演習などのアクティブラーニングを組み合わせて実施している。演習問題や小テストを通じて学生の理解度を確認し、知識の定着を図るとともに、定期試験により学生が到達目標を達成したかを評価している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：栄養教育論Ⅱ	「栄養教育論Ⅱ」では、各ライフステージ（妊娠・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期、高齢期）における栄養教育方法や支援のポイントを教授している。また、栄養教育の事例を基に、アセスメントから栄養教育計画の立案、実施、評価、再立案までの一連の流れを実践的に学べるよう指導している。講義は教科書、スライド、配布資料を使用し、事例検討やディスカッションによるアクティブラーニングを取り入れている。ライフステージごとの課題提出を通じて、学生は復習と知識整理を行い、定期試験で到達目標の達成度を評価している。
3.教育活動や教育業績 科目名③：栄養教育実習Ⅰ	「栄養教育実習Ⅰ」では、アセスメントから栄養教育計画の立案・実施・評価・再立案に至る一連の方法を学ぶ。前半は学生同士でペアワークを行い、管理栄養士と学習者双方の役割を体験しながら、栄養教育資料作成やカウンセリングを実施している。栄養教育マネジメントサイクルに基づいた実践的な学びを提供している。後半はグループワークで、各ライフステージを対象に模擬栄養教育を行い、指導案の作成や教材・配布資料作成を通じて、実践力を養っている。レポート、プレゼンテーション、参加態度などで総合的に成績評価を行っている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：栄養教育実習Ⅱ	「栄養教育実習Ⅱ」では、実習Ⅰに引き続き、模擬対象者を設定した栄養教育を実施している。前半はグループワークで、ライフスタイル別の個人指導をロールプレイング形式で行い、栄養教育のプレゼンテーションを実施している。対象者のライフスタイルや食事状況を設定し、課題抽出から栄養教育計画、指導案の立案、実施、評価を通して、対象者に寄り添った教育方法を学ぶ。後半は個人ワークとして、集団指導のプレゼンテーションを行い、学生同士の相互評価や栄養教育計画の再立案を通じて、学んだ知識や技術を統合する能力を高めている。レポート、プレゼンテーション、参加態度などで総合的に成績評価を行っている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養教育論Ⅰ	・授業の理解度は2Aクラスが3.51、2Bクラスが3.35（大学平均3.47）、満足度は2Aクラスが3.51、2Bクラスが3.39（大学平均3.54）と、大学平均と同等かやや低めであった。例年と比較すると、「線を引く部分が多く、重要箇所が分かりにくい」「指示が速くて追いつけなかった」といった意見が多く、これが理解度・満足度の低下に影響したと考えられる。 ・自由記述では、小テストの実施、分かりやすい授業資料、丁寧な説明が好評であった。教科書とスライドを併用した説明、穴埋め形式のプリント配布、2回の小テスト、国家試験問題の演習、模擬栄養カウンセリングのペアワークは継続しつつ、教科書の重要部分を精査し、メリハリをつけた指導を行う。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：栄養教育論Ⅱ	・授業の理解度は3Aクラスが3.75、3Bクラスが3.77（大学平均3.42）、満足度は3Aクラスが3.75、3Bクラスが3.91（大学平均3.49）と、いずれも大学平均を上回った。このことから、学生が内容を理解しやすく、満足度の高い授業を提供できたと考えられる。 ・自由記述では、授業スライドと教科書を用いた解説、事例検討のディスカッション、授業の要点をまとめて提出する課題が好評であり、これらが理解の促進と満足度の向上に寄与したと考えられる。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：栄養教育実習Ⅰ	・授業の理解度は3Aクラスが3.81、3Bクラスが3.92（大学平均3.60）、満足度は3Aクラスが3.78、3Bクラスが3.83（大学平均3.58）と、いずれも大学平均を上回った。このことから、学生が実習内容を十分に理解し、満足できる授業を提供できたと考えられる。 ・自由記述からは、管理栄養士役として栄養カウンセリングを行う活動や、模擬の栄養教育を計画・実施し、学生同士で相互評価を行うことで、学びが深まった点が好評であった。また、座学とのつながりを意識させ、臨地実習などの実践の場を見据えた学習が、理解度や満足度の向上に寄与したと考えられる。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：栄養教育実習Ⅱ	・授業の理解度は3Aクラスが3.78、3Bクラスが3.76（大学平均3.65）、満足度は3Aクラスが3.70、3Bクラスが3.71（大学平均3.68）と、いずれも大学平均を上回った。このことから、学生が実習内容を十分に理解し、満足できる授業を提供できたと考えられる。 ・グループ発表と個人発表を通じて、これまでの学びを活かしながら栄養教育を実践したことで、大きな達成感を得られ、それが理解度や満足度の向上につながったと考えられる。また、学生の相談や質問に丁寧に対応し、実施後の評価を適切にフィードバックしたことが、自信やモチベーションの向上に寄与したと考えられる。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・学生による授業評価アンケートを実施し、評価結果をまとめ、授業改善に活用した。 ・授業内ゲストスピーカーとして、3年後期「病態栄養学Ⅰ」の講師を1回担当し、科目間連携を行った。 ・インタラクティブ・ティーチング（東京大学 大学総合研究センター）を受講し、アクティブラーニングの要素を授業内にさらに導入した。 ・学会、講演会、セミナーなどに13件参加して知見を深め、授業内容をアップデートした。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

<令和6年度の成果・教育業績> ・「栄養教育論Ⅱ」「栄養教育実習Ⅰ・Ⅱ」では、理解度・満足度ともに大学平均を上回る評価を得た。特に、模擬栄養教育や栄養カウンセリングの実施、相互評価を取り入れた実践的な学習が、学びの定着と達成感につながったと考えられる。 ・小テスト、事例検討、ディスカッション、穴埋めプリントの活用など、学生の理解を深める工夫が評価された。一方で、教科書の重要部分へのマーキングや説明スピードに関する課題も明らかとなり、今後の改善が必要である。 ・「栄養教育実習Ⅰ・Ⅱ」で使用しているテキスト「栄養教育・栄養指導論演習実習 第3版」を改訂し、株式会社みらいより出版した。	
<令和7年度の目標> ・教科書の重要部分の指示を精査し、強調する箇所を明確にすることで、学生の理解を促す。 ・説明スピードを調整し、適宜確認しながら進めることで、学生が無理なく学べる環境を整える。 ・グループワークの進め方を改善し、より効果的な協働学習を促進する。	

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 准教授	氏名： 木村 亮介
------	---------------	---------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

「制作活動を通じた実践力の育成」 私の教育理念は、「制作」を通じたアクティブな学びを重視し、企画力・提案力・表現力を養うことにあります。デジタルとアナログのバランスを意識した実践的なスキルの習得を目指し、学生が獲得した知識や技術を活かして問題を発見・解決する力、適切なコミュニケーション能力、成果を形にする力を育成します。また、学生一人ひとりの潜在能力を最大限に引き出すことを目的に、異なる専門性や才能を持つ学生同士が協力し、共同プロジェクトに取り組む機会を提供します。学外での展示や発表を通じて多様な視点やアプローチを共有することは、協力・コミュニケーション能力の向上だけでなく、倫理観や責任感の醸成、地域や社会への関心を深めることにもつながると考えています。「制作活動を通じた実践力の育成」は、学生が知識とスキルを具現化し、将来のプロフェッショナルとして活躍するための総合的な能力を培うプロセスです。この過程を通じて、実践的なスキルや知識を効果的に身につけ、積極的に磨くことを目指します。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：卒業演習	「食」をモチーフに多角的な視点から課題を発見し、学生各自がデザインとしてアプローチするテーマを設定し、展示作品を制作します。リサーチを基にコンセプトを固め、表現媒体を選定し制作プロセスを指導します。また、学生それぞれが自身の作品について「テーマ」「背景」「着眼点」「制作」「検証」「結論」を説明するプレゼンテーションを実施します。制作した作品は、本演習の受講生と他の演習受講生が共同で美術館にて展示します（「ふんりん展」）。「ふんりん展」では、計画から搬入・展示・運営・搬出までのプロセスを学生が主体となって行います。
2.教育活動や教育業績 科目名②：専門演習	学外企業との協働プロジェクトとして、「NBMS商品開発プロジェクト」に取り組んでいます。企業から課題や取り組みについてヒアリングを行い、パッケージデザイン提案やSNS広報施策の立案など、デザインソリューションに向けた具体的なアプローチを指導します。提案では、アイデアスケッチをもとにAdobe IllustratorやPhotoshopを使ったラベルデザインの作成、レーザーカッターを活用したモック制作や照明を工夫した撮影のほか、動画撮影や編集などを行い、最終的にプレゼンテーションとしてまとめます。このプロセスを通じて、学生は総合的な制作スキルを磨き、企業へのデザイン提案を通じて実践力を養います。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食とデザイン	現在の「食」に関する概念を広げ、デザインとしてアウトプットを提案できる実践力を身につけることを目的に、オリジナルのパッケージデザインやコンセプト動画の制作を評価課題として進めます。また、受講生同士が互いの作品を講評し合う時間も重視し、学びを深めます。パッケージデザインの制作では、モックアップ（模型）作成の手順や素材の扱いを指導し、実践的なスキルを養います。動画制作では、練習動画を通じてモチーフやストーリーの考え方を学び、取り組みやすい手法を身につけることで柔軟な発想力を育みます。これらのアプローチからバラエティ豊かで質の高いアウトプットを生み出す力を養成します。
4.教育活動や教育業績 科目名④：デザイン基礎	Adobe Illustratorの基礎学習を通じて、「PCを使ってデザインすることの楽しさと可能性」を実践的に習得することを目的としています。各回ごとに制作課題の難易度を少しずつ上げながらIllustratorの基礎技術から応用技術までを学び、一通りのスキルを習得します。その後、レーザーカッター用の切り出しデータの作成や、地域をテーマにしたロゴマーク制作など、より実践的な課題に取り組むことでデザインの基礎を学びながらIllustratorの応用力を養います。社会に出てからはPC操作は必須のため、「苦手なPC」を「楽しいPC・得意なPC」に意識を変えることも目的としています。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：デザイン基礎	2科目同じものを開講しており、令和6年度授業評価アンケート結果での授業理解度はそれぞれ3.80、3.89であり、概ね講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「デザインについて学べた。AIやPSの使い方を知れた」「毎度化される授業内での課題も難易度が学生のレベルに沿っていて楽しかった」「よりパソコンについて詳しく知ることができました」「高校まではイラストレーターが苦手だったけれど、この授業でやり方が理解できたので楽しくできた」など、初めてPCを使ったデザイン制作に取り組む受講生でも制作活動を通して理解しながら実践力をつけることができたと考えられます。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：デザイン応用／パッケージデザイン	令和6年度授業評価アンケート結果での授業理解度は3.84であり、ほとんどの受講生が講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「パッケージデザインのいろいろなテクニックが学べて、一年のデザインの授業よりも上手くなってきたと実感できた」「デザイン基礎で習ったことを活かしながら新しいことができて良かった」など、他のデザイン担当科目を踏まえた上で取り組む姿勢も見受けられ、科目を通した実践力をつけることができたと考えられます。「デザイン基礎」では使用していないPhotoshopの導入タイミングが課題でしたが、Illustratorとうまく使い分けながら制作した作品が増え、最終課題でもソフトウェアを理解し活用できている作品を例年よりもさらに多く見受けられました。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：食とデザインⅠ	令和6年度授業評価アンケート結果での授業理解度は3.81であり、ほとんどの受講生が講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「商品を開発するパッケージデザインの制作を専門に学べた点が良かった」「これまで学んだことを活かして、商品パッケージのデザインを考え、イラストレーターで作成することができました」など、他のデザイン担当科目を踏まえた上で取り組む姿勢も見受けられ、科目を通した実践力をつけることができたと考えられます。今年度はこれまでと変わり、Mac PCのある教室での実施が可能となったことで、PCを使ったデザイン制作（Adobe Illustratorでの制作）に興味がある学生に対してスキル上達を継続させる進行ができ、より深い理解へと促すことができました。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：芸術	令和6年度授業評価アンケート結果での授業理解度は3.86であり、ほとんどの受講生が講義の目的について実践を通しながら理解できていると考えます。受講生のコメントでは「実践を通して芸術について理解することができた」「積極的に授業に参加でき、作品づくりに意欲的に取り組めた」など、ほとんどの学生が制作活動を通して知識や技術の吸収、作品完成による達成感を実践的に学ぶことができたと考えます。授業では教室全体を巡回して受講者全員に声をかけ、制作につまずいている学生に対して、アイデアの指南やアドバイス、技術的な指導を行います、「理解しやすく面白い授業だった」「学生一人ひとりにわかりやすく丁寧に教えてくださり楽しい講義になりました」という受講生コメントから、それらも概ね効果的に機能していると考えます。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	大学の取り組みとして各授業においては授業アンケートを必ず実施し、結果の分析とコメントを参考にして次期授業での改善を毎回実施しています。また、フードビジネス学科の学修につながる取り組みとして、NBMSでの取り組みをはじめ、学外にて食に関係する業者や企業、教育機関、研究機関を訪問するほか、地元大垣市でのまちづくり団体との関わりからキッチンカーや店舗、個人事業主とのつながりをつくり、パッケージデザインやコンセプトメイキング、イメージ戦略や展望など実践的な食のビジネスについて研鑽を重ね、ゼミや授業での展開、本学学生を含めた学外でのワークショップを実施します。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度に担当した全8講義（演習を除く）の授業評価アンケートにおける授業理解度の平均は3.80であり、受講者は各講義の目的を概ね理解していると考えます。演習では、専門演習で企画・デザイン制作・提案力を養った後、卒業演習では「食」をモチーフに多角的なアプローチで制作活動を行いました。その成果として、令和6年度卒業制作展を含む「ふんり展2025」では、荻洲記念美術館にて5日間の作品展示を実施。地域住民や本学訪問の高校生・教員など、学外へ向けた発信の場ともなりました。また、これらの取り組みを軸にオープンキャンパスでの体験授業や出前授業を通じて高校生向けの活動も展開しました。 令和7年度の目標は、フードビジネス学科における「食とデザイン」の可能性をさらに探求し、最新の動向やテクノロジーを取り入れながら学生の提案力・表現力を向上させることです。これは講義・演習の両方において教育目標としています。 新たな提案・表現の補助技術として、AIの活用が挙げられます。現在、ChatGPTをはじめとするテキスト生成ツールが広く使用されていますが、その利用方法や生成物に対する理解を適切に指導する必要があります。重要なのは、生成された内容そのものではなく、それを生み出す過程での思考や発想の軌跡です。また、個々の経験や知見が専門性を形成することを認識し、それらを組み合わせながら発想・提案できる力を養うことが求められます。AIによるテキスト生成だけでなく、画像・動画生成ツールの活用も進んでいます。これにより、イラストや描画が苦手な学生でも視覚的なイメージを具現化でき、デザイン提案の質を向上させることが可能になります。特に、提案のプロセスや発想に焦点を当てやすくなるほか、アイデア共有の効率化にも寄与します。担当科目「マルチメディア」では、AIを「使う側」としての理解を深める実践的な学習機会を設けており、講義後の考察では学生から多様な意見が寄せられています。今後も他の科目や演習を含め、AIを補助技術として活用する力の育成を模索していきます。 また、その他の技術として3Dプリンターの目覚ましい進化に注目しています。安価で優れた性能の機材が簡単にオンラインで手に入れることができ、今後さまざまな分野で導入されていくことが予想されます。フードビジネスの分野では、食品サンプルや食品成形、新たな食品提案やパッケージングの分野においてもその可能性が広がっています。そのためには、3D設計技術の習得が不可欠であり、PCや周辺機器に関する専門知識も求められます。 近年、タブレットやスマートフォンの利便性が向上していますが、就職活動において「PCに不慣れ」という課題が3・4年生で生じないよう、各担当科目や演習の設計を工夫していきます。授業を通じて知識や技術を習得するだけでなく、自ら積極的に挑戦する経験を積み、各自の強みを最大限に活かせる力を育むことを目指します。そして、その力を自信につなげ、社会で活躍できる人材の育成に努めて参ります。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：健康栄養学科

職位：教授

氏名：國友宏渉

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

小学校・中学校・高等学校で身に着けた知識、技能、人間性を土台にして、大学ではさらに高度な学習内容に取り組み、専門的知識、専門的技能、そして信頼、尊敬される人格を形成してほしい。健康栄養学科では、食、栄養、健康について幅広い知識と技術を習得してもらい、そのために日々の学生生活において、自己の責任において自身の健康を管理し、四年間の厳しい学習生活を乗り越えてほしい。その上で、人々が心身ともに健康で質の高い生活を送るために必要な、健康の維持・増進、病気の予防、治療ができるように、管理栄養士、栄養士として指導のできる資質を確実に身に着けてほしい。そのために、われわれ担当教員は、各専門領域における学習の目的、目標を明確に伝え、学習目標を達成するための受講方法と予習、復習の方法を指導する。また、単元ごとの理解度、習熟度を確認するために、小テストなどを行い、受講者全員が目標に到達できるように心がける。さらに、学期末においては、授業内容のすべてが受講者に理解されたかをはかる期末試験を実施し、到達できなかった受講者に対して追加の試験等を課し、補足的な教育を行う。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：健康管理概論	本科目では、受講者自身の健康管理、健康の維持・増進のために受講してもらうとともに、将来に管理栄養士、栄養士として人々の健康管理について指導できる指導者としての資質を身につけてほしい。そのために、日々の学生生活における健康管理の在り方、健康の維持・増進のための方法、病気の予防と治療のための正しい知識を学習してもらい、そこで、講義中にミニレポートや小テストを行い、受講生の理解度、習熟度を確認している。また、講義中に様々な学習課題に対しての意見を発表してもらい、受講者全員で問題や課題の共有を行い、みんなで考える姿勢、態度を養っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：運動生理学	本科目では、運動を実施することによる身体の反応、適応について学習する。運動を行うと呼吸が荒くなる。身体が熱くなる。これは運動による身体の応答である。また一定期間運動を続けると、腕や足の筋肉が太くなる。これは運動による身体の適応である。このように、運動を実施することによる身体への影響を明らかにすることが運動生理学の重要な目的である。さらに、運動には精神的な面への影響もある。こうした運動の心身への影響は、健康の維持・増進に利用することができ、運動効果として捉えることができる。本講義内は、人々が質の高い生活を送るために必要な体力（行動体力、防衛体力）の向上について理解を深めることができ、人々の健康な生活に貢献するための重要な資質を培うものとなる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	情報メディア学科、フードビジネス学科1年生の必修科目として開講している本講義は、大学生として4年間、健康な学生生活を送るために必要な基礎知識を身につけてほしいと考えている。延いては生涯を健康に暮らすために、健康管理に対して興味・関心をもってもらいたい。中でも日々の生活習慣、特に食生活習慣は重要であり、健康の維持・増進のために正しい食生活を送らなければならない。そこで本講義では、健康を支える食において、基本的な栄養に関する基礎を学習し、より理想的な食生活を実践できるようにすることである。偏った栄養摂取、過剰な栄養摂取、有害な栄養摂取などが起こらないように、健康と栄養の関係について詳しくなってもらいたい。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：健康管理概論	本講義における授業評価アンケートの理解度、満足度の結果は、平均値で3.52, 3.56であった。昨年度より高いあり、ここ数年間においても安定して3.5以上の評価となっている。評価値としては高く満足している。また、自由記述においても、「グラフや表による解説が分かりやすかった」「重要な点を解説してもらえた」「ためになった」という意見が多かった。一方、「スライドのスピードがはやい」「余分な話が多かった」といった意見もあり、改善すべきところもあった。15週でかなりの内容を教授する上で、やや詰め込みすぎのところがあり、もう少しポイントを整理する必要があると考えている。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：運動生理学	本講義における授業評価アンケートの理解度、満足度の結果は、3.75, 3.75であった。選択科目であるため元々運動と身体に興味のある学生が受講していることもあり、評価も高いと考えられる。内容的にかなり専門性が高く、初めて耳にするテクニカルタームが多いため、分かりやすくするための動画を用いている。そのことが受講生にとっては「分かりやすさ」を高めているものと思われる。今後も、できる限り図表、写真、動画を教材に利用して、身体の中で起こっている現象（生理反応）などを分かりやすくイメージできるように努めたい。また、日々の生活の中で経験する運動と応答、適応について取り上げ、より具体的な説明に心がけたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：健康と栄養	情報メディア学科、フードビジネス学科1年生の必修科目として開講している。本講義における授業評価アンケートの理解度、満足度の結果は、平均で3.60, 3.63であった。また、自由記述では、配付したノートのブランクを埋めることでノートを完成させるため、「復習しやすかった」、「配付ノートに沿った授業内容で分かりやすかった」、「話が聞き取りやすかった」といった意見が多かった。4年間、健康な学生生活を送るために、受講生自身の健康管理、健康の維持・増進、病気の予防ができるように、日々の具体的な健康管理のあり方や方法について解説している。今後もタイムリーな健康に関する話題などを用意しながら、より健康管理に興味と関心を持ってもらえるような授業づくりが心げたい。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	本年度の講義では、授業中にできる限り教員と学生の会話（ダイアログ形）を取り入れた。一方的に教員の話をする講義から、課題に対する学生の意見や疑問を授業中に発言してもらうものである。またその意見に対する他の学生の意見を交え、問題を共有する形でディスカッションができるようになった。そのことにより、多くの学生が一つの課題に対して、より興味関心を示すようになり、授業が活気づいたように思える。こうした取り組みを、今後さらに発展させていきたいと考えている。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

半期15週の講義については、各単元の理解度を確認するために、ミニレポートや小テストを導入したため、それぞれのステージにおける理解度や習熟度が確認できた。また、授業において会話型（ダイアログ形式）を実践することで、課題、問題を共有することができ、受講生の興味・関心度がアップしたと感じている。授業評価アンケートにおいても、「発言する機会があってよかった」、「みんなでディスカッションすることが面白い」、「眠さがなくなった」などといった感想もみられた。令和7年度の授業においても、このような授業方法を積極的に取り入れて、理解できていない学生をつくらないように心がけたい。また、一方的な講義ではなく、双方向に情報のやり取りがある、活気のある授業づくりを目指したいと考えている。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：情報メディア学科

職位：教授

氏名：栗林芳彦

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

大学での4年間は成人になるための準備期間であり、大学は幸福で充実した人生を送るに必要な教養と対人スキルを身につける場である。さらに、生涯に涉って自己を啓発し学び続ける習慣を身につける場でもある。学生たちには知的好奇心を高く保ち、社会や様々な学問領域に関心を持ち、一生モノの宝物を見つけてほしい。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：地域の課題	稲沢市の抱える課題について学生が5人一組のチームに分かれて、その解決策をプレゼンする。グループで議論をしプレゼンを完成させるプロセスを経て問題解決力を養う。また、課題は3回にわたって出題され、その都度チームを組み換え、一度同じチームになった人とは決して一緒ににならないようにしている。そうすることによって1から人間関係を築く作業を3回繰り返すことになる。
2.教育活動や教育業績 科目名②：Web解析	Webを利用した様々なビジネスにおいて、必要な知識を身につけるべく、基礎から専門的な知識を講義する。
3.教育活動や教育業績 科目名③：CM制作	テレビに限らず、動画広告を作成する上での基礎知識やアプローチについて示唆を与える。
4.教育活動や教育業績 科目名④：日本語力	大学生として、さらには社会人として必要な日本語の力を修得する。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：地域の課題	全体的に高いスコアで、理解度、満足度ともに3.90で、高い評価であった。本学はサークル活動などもあまり盛んでなく、学部や学年を超えた人間関係の構築が難しい状況である。この科目は3学科共通で配当年次が1年生なので、まさに受講生は学科も学年もばらばらであるが、そのような学生がチームを組んで課題に取り組むところに意義があると考えている。問題点はコミュニケーションが苦手な学生が孤立する傾向があるので、そのあたりをどうするかを考えていく必要がある。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：Web解析	理解度は3.43、満足度も3.43で評価は高くない。学生のコメントにも「単語が並んでいるだけで面白くない」などの批判的なコメントがあった。授業のやり方は他の入門科目と同様で、レジュメと復習用のシートを毎回配布しこのシートに書き込んでいくことで知識の定着とともに試験への準備が図れるようにしている。賞味期限の短い知識を修得する科目は、なるべくエネルギーを必要としないやり方がよいと思う。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：CM制作	私が最初の5コマを実施し、残り10コマは外部講師にお願いしている。授業の理解度が3.42満足度が3.50で、まずまずの評価であった。学生のコメントにも「様々なcmを見てcmのバリエーション多さを知り知見が広まった」「良いcm、悪いcmの違いについても少し学ぶことができた」といったポジティブな評価が多かった。外部講師は実際にcmの制作を指導しているが、学生の自己表現の場としても機能していると思う。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：日本語力	日本語力は3学科をオムニバスで受け持つが、情報メディア学科については、1コマのみの講義であり、貢献できなかった。健康栄養、フードビジネスについては、イタリアの食物を話題に文章をまとめる、短い文章を読み、理解するとやったことを実践させることができた。半年間、15回の講義で日本語力が飛躍的に向上することは期待できないので、これからどうしたら日本語の力を延ばしていけるのか、その方向性を実感してもらうことが大事である。また、読書量が圧倒的に少ないので、読書週間を付けることが必要だが、何を読んでよいのかわからないのが実情である。そのために読書案内も行っていく必要があると考えている。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	特になし。
-------------------------	-------

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

6年度の成果は可も不可もなし。「日本語力」に関しては、まだ手探りの状態である。情報メディアでの分担も増えるので、確固たる方針を定められるよう、努力したい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：黒瀬 聡
------	-----------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

基礎教育センターとして、大学1年次のすべての学生に対して、大学の講義を受けてその内容を理解し、自らの興味関心のために勉強する態度を定着させることに努めている。 目指すのは、大学での必要知識の習得ではなく、知識習得のための手法であるため、使用する教材の内容それ自体は特に限定されない。しかし、近年の学生の傾向として、興味を示す対象が非常に限定的かつ閉鎖的なため、その時代の流行りや時流に合わせた内容にする必要がある。また、このような学生の学習態度の向上は、画一的に測定することは難しく、むしろ測定をしようと試みることによって教育効果を阻害することもあるため、運用・評価方法に気をつける必要がある。現在の取り組みとしては、いわゆる学習する上で悪い態度というのは、身体的精神的な不調であり、健康診断のようなチェック体制でその不調を察し、通常の健康な状態に近づけるという試みが適切なアプローチに近いのではないかと考えている。健全な学習態度は、知識習得にとって重要な要素であり、今後の大学教育の根幹を形成しようと考えられるため、基礎教育センターの取り組みとして今後も継続していく次第である。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：日本語Ⅰ・Ⅱ	今年度の講義は、健康栄養学科では「食の哲学」を、情報メディアにおいては「AIの企画書作成」をテーマとして講義をおこなった。 このような、学生が興味関心を示しやすい教材を用いて、講義中にサポート教員が巡回しながら、学生の授業態度を観察し、時にアドバイス・サポートすることで学習態度の変容に努めた。また、コロナ罹患による欠欠にも対応できるようにWebclassに全講義動画をアップロードし、いつでも授業内容を復習できるようにしている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：数的処理Ⅰ・Ⅱ	コロナ禍における取り組みから継続して、講義内容を動画で撮影し、編集してWebClassにアップロードしている。 教員の作業負担が増えるが、コメントにもあるように学生からは非常に好評のため、今後も継続していくつもりである。また、今年度の講義は例年と比べ、取り組んだ問題を再度解いたり、復習に多くの時間をあててことを試みた。さらに、サポート教員を増やすことで跟いている学生を早期に見出しアドバイスすることができた。これにより広範に多くのトピックを扱うことはできなかったが、基礎的な内容に関してしっかりした知識を得ることができたのではないかとと思われる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：日本語力Ⅰ・Ⅱ	本年度から栗林先生を加えて3人体制で授業をおこなった。それぞれの教員の強みや専門を活かして、単調にならない授業内容を提供し、学生が興味を持って授業に望めるような講義にできたように思われる。その結果、どの科目でも理解度の数値は比較的高いものとなっている。ただ、アンケート結果から板書が見えにくいことや進行が早いことが指摘されているため、理解度の更なる向上のためには、特に人数の多い情報メディアの授業において改善が必要であると思われる。 昨年度から情報メディアの学生の提出率が非常に高く、自由記述欄も意欲的に記述されたものとなっているが、おそらく情報メディア学科の方で何か施策を行なっているのだろう。この施策を他学科にも共有することで提出率を改善することができるように思われる。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：数的処理Ⅰ・Ⅱ	本年度の数的処理Ⅰ・Ⅱ（情報メディア）は、本年度も統計学の基礎的な知識と数理モデリングについて扱った。成績評価がレポート課題と筆記試験の2つだったため、学生の負担が増えることを危惧し、特に筆記試験に関連する問題を丁寧に解説した。自由記述欄にもその結果が反映されており、学生への満足度にも貢献しているようである。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	特になし
-------------------------	------

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

来年度から基礎教育センターの体制も新たなものになるので、その新体制のもと学生への基礎教育の質の向上に向けて努めていくつもりである。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：健康栄養学科

職位：教授

氏名：後藤 千穂

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

- 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
- 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
- 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
- 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

モデルコアカリキュラムでも示されている「栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する」管理栄養士であり、さらに社会から信頼され、自らもやりがいを感じる管理栄養士の養成を目指している。これを指すため、統合科目としては、卒業演習ⅠおよびⅡ、実践の場としての臨地実習ⅠおよびⅢを担当している。特に卒業演習ではEBN（Evidence based nutrition; 根拠に基づいた栄養学）の考え方と実践力を身につけることを目指している。そのために自ら問題を発見し、その解決法を見だし、実践した上でその効果を確認するためのスキルや方法を身につけ、さらに、その過程および結果について自らの考えを持ち、ディスカッションおよびプレゼンテーション力を身につけることを目指している。これは「4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。」につながる。また、臨地実習では個別指導を通じ、管理栄養士としての職業倫理や実習先での社会人としての基本的な行動等を含め、施設ごとの課題への取り組みを通じて、自ら考え学び、主体的に行動し、実践につながることを目指している。これは「3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。」に該当する。その基本になる科目として、調理学実験を通じて調理の過程における食品の様々な変化と、それを実践につながることを目指している。これは「1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。」にあてはまる。また栄養学、公衆栄養学、公衆栄養学実習ではEBNの基本的な考え方から情報収集方法、実践への応用を身につけることを目指しており、これは「2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。」に該当する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養疫学	食生活（栄養）を通して健康の維持増進、疾病の一次予防をするためには、人を対象として食習慣を含む生活習慣と健康・疾病の因果関係を科学的に明らかにする必要がある。そこで、食生活（栄養）と健康・疾病の関連をとらえる方法としての栄養疫学の原理と方法について修得することを目標としている。また、管理栄養士として栄養疫学データを適切に用いて健康・栄養活動の効果測定にいかすことができる知識と考え方を身につける。そのために、栄養疫学の原理と方法を理解し、食事調査と栄養摂取量の特性を学び、EBN (evidence based nutrition) の考え方を修得することを目的としている。これにより、食に関わる情報が氾濫している現代において、情報を収集し、科学的に吟味した上で取捨選択できるようになるよう、講義をすすめている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：公衆栄養学	わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策について理解することにより、集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動につながる。さらに社会における管理栄養士の使命や役割および活動の理解することを目的としている。そのために、わが国および諸外国の健康・栄養の現状と問題点を説明でき、公衆栄養活動のマネジメントの理論と方法を理解し、わが国の栄養行政について説明できることを目標としている。また、実社会と関連のある科目であることから、日常生活においても社会の動向に関心を持ち、新聞、テレビ、インターネット等の近年の健康・栄養に関する情報に関心をもてるよう、講義をすすめている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：公衆栄養学実習	地域や職域などのモデル集団を想定して、集団の栄養・健康問題を発見し、それに関連する要因を収集・分析し、さらに問題解決のために、公衆栄養活動プログラムの立案、実施、評価・判定の方法等について実習している。また、社会における管理栄養士の使命や役割および活動分野を理解し、実践につなげることができるよう、公衆栄養活動のマネジメントの理論と方法を活用し、コミュニケーション能力や総合的マネジメント能力を習得し、さらにプレゼンテーションスキルを身につけるよう、実習をすすめている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：調理学実験	調理の過程における食品の様々な変化を、物理的、化学的方法を用いて解析し、調理学の理論の根拠を明らかにすることを目的としている。また、食事管理や栄養教育への応用の基礎となる、調味や調理による食品の変化と味覚の関連などについて実験を通して理解し、調理を科学的に実践する力を修得する。この実験を通して各食品の性質を理解し、調理時に適切な取り扱い方法を身につける。また、食品の特性をいかした調理により、個々人の健康状態や嗜好に応じた食事を提案、提供できることにつながる。日常的に目にする調理上の変化についても観察し、その理由を考え、考察できるようにすることを目的としてレポート作成を通じて実験をすすめている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養疫学	栄養疫学（管理栄養士必修、有効回答数63名、回収率78.8%）において、授業評価12項目の平均値±標準偏差は、最高3.84±0.37、最低3.57±0.65であり、全12項目中、2クラスとも全項目が3.5を超える評価であった。特に高評価であったのは「1.授業への積極的な出席」「9.課題の量」であった。栄養疫学は、実際に自ら調査等を実施したことのない学生においては、内容を実感および理解しにくい科目であることから、配布資料を工夫している。また説明方法の工夫や練習問題を用いて理解度を確認した。理解度については、両クラスそれぞれ3.65、3.57であり、概ね高い評価と考えている。自由記述には、確認問題がよい、説明がわかりやすい等のコメントがみられた。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：公衆栄養学	公衆栄養学（管理栄養士必修、2クラス、受講生67名、有効回答数53名、回収率83.9%および75.0%）である。授業評価12項目の平均値は、最高3.78、最低3.37あり、全12項目中、2クラスとも12項目中11項目で3.5を超える評価であった。高評価であったのは「課題の量」であった。全項目の平均はそれぞれ3.5、3.6であった。理解度に関しては3.50、3.56であった。自由記述には「説明がわかりやすかった」「線を引くところの繰り返しがいい」「寝ている人への声掛けは不要」等であった。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：公衆栄養学実習	公衆栄養学実習（管理栄養士必修、2クラス、有効回答数76名、回収率74.2%および77.8%）において、授業評価13項目の平均値±標準偏差は、最高3.78、最低3.54であった。平均3.5を超える高評価であったのは、2クラスとも13項目中全項目であった。「12.授業内容の理解」においては、2クラスでそれぞれ3.70、3.60であった。公衆栄養学実習は、集団を対象とした評価、計画、実施のプロセスが重要な科目であるが、学生においては、なかなか内容を実感および理解しにくい科目であることに加え、授業期間中に臨地実習により欠席する学生が多いため、グループワーク等の実施については班内の連携をとりやすいよう考慮して実習をすすめた。また、実際のデータをもとにグループ発表を行うようにしている。この結果、自由記述欄においても「発表を積極的に行えた」という肯定的な記述がみられた。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：調理学実験	調理学実験（必修、2クラス、受講生75有効回答数61名、回収率81.3%）において、今年の授業は昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことから、試食をコロナ禍前と同水準にした。 授業評価13項目の平均値は最高3.91、最低3.44であり、1クラスは全13項目、他クラスでは12項目項目で3.5を超える高評価であった。本実験では、毎回レポート課題を出し、次の実験時に提出としており、学生としてはある程度の課題量であるが、それが復習および理解を促すことにつながり、達成感となって学習効果につながったと考えており、理解度は3.88、3.78であった。また、本実験では毎時の冒頭で「なぜ、この実験を行うのか」「実験を通して何が得られ、どう役立つのか」について具体例を用いて説明し、また、レポート作成時の考察のポイント等も明示したため、どこにポイントをおいて考察するか等が理解し易く、レポートの負担感が減っていることも考えられる。自由記述欄にも「講義がわかりやすく、レポートが書きやすい」等の記載があった。また、実験科目では積極的に取り組むことが重要であり、こちらも両クラスにおいて評価平均3.85、3.81であり、自由回答欄に「積極的に実験を行った」「考察を頑張った」の記述があり、教育効果につながっていると考える。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	担当する必修科目（栄養疫学、公衆栄養学、公衆栄養学実習、調理学実験）で学生による授業評価アンケートを実施し、評価結果をまとめ、次年度へ向けた授業準備に役立てている。学会活動として、日本栄養改善学会東海支部会支部長に就任し、支部会の運営している。またEBNにつながる取り組みとして、愛知県栄養士の生涯教育委員長にも就任し、日本栄養改善学会との共催セミナーを企画開催し、自身もアドバイザーとして参加した。ここでは、管理栄養士の実践の場から研究発表につながる取り組みをしている。これは研修の場を学会員および栄養士会員に提供するとともに、自らも学びを得た。また、担当科目の特性上、多方面から情報を得る必要があることから、年間60講演以上の研修会に参加している。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

卒業演習は、指導したゼミ学生を筆頭発表者とし、学会発表（第13回日本栄養改善学会東海支部会学術総会で発表）を口頭にて行った。発表タイトルは「産官学連携による「自然に健康に導く食環境づくり」の取り組み方法の検討（第2報）」である。また産官学連携事業（マックスバリュ東海株式会社、清須保健所、名古屋文理大学）として愛知県の「健康チャレンジ」の取り組みのうち、食環境整備（無関心層にも届く仕掛けづくり）としてマックスバリュ東海にてゼミ学生考案のナッジ理論を用いた野菜摂取量向上に向けた取組を行い、新聞社から取材を受けるなど好評であった。また健康関心層への働きかけとしては、対面による食育活動として稲沢市の依頼により「健康フェスティバル」で地域住民に対して野菜摂取量向上にもつた啓発活動を行った。これも新聞に掲載され、好評を得た。学生自身も自らが考案した販促物が実際に店頭に表示され、販売実績につながる様子から、かなり積極的に取り組み、やりがいと達成感をえられていた。また実際の地域住民を対象とした食育活動では、伝えられる楽しさとやりがいを感じていた。さらに卒業演習の活動は冊子にまとめ、報告書とすることにより、自らの活動をまとめる力が身についたと考えられる。 担当科目としては、公衆栄養学は2年生後期2クラス、栄養疫学は3年生前期2クラス、公衆栄養学実習は3年生後期2クラス、調理学実験は2年生前期2クラスを担当した。臨地実習は臨地実習Ⅲのメイン教員として全体の統括を行い、保健所実習および福祉施設での実習の事前指導及び巡回指導を行った。公衆栄養学はテキスト「管理栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 第10巻 公衆栄養学 2025年版 公衆栄養活動の実践のための理論と展開」を日本医歯薬出版より出版した。また公衆栄養学実習はテキスト「公衆栄養学実習ワークブック 第3版」を株式会社みらいから出版した。 各科目の授業内容については、昨年に続き今年度の授業評価においても、授業の最初の復習と、モニター提示や練習問題が有効であったことが示されたので、今後もこれらは継続して向上を目指す。また、練習問題の内容や説明方法も検討を加え、理解度の向上に努めたいと考えている。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 木場安莉沙
------	---------------	--------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

これまでの教育実践において、学生の英語習熟度やコース目標に応じて教材やテーマを適宜変えながら授業を実施している。Practical English, Food Business Englishではe-textを活用し、課題の提出や自主学習、プレゼンテーション資料作成等を電子媒体で行わせつつ、対面での個別指導や自作の教材を用いたゲーム等を行わせ、習熟度が異なる学生の修学モチベーション維持に努めている。また、担当するゼミ（基礎演習：テーマ「CM・広告から見る社会：言語的側面を中心に」）では、メディアの言語／社会文化的背景について考察させ、発表やディスカッションを通じて身近な社会問題について意見を述べる能力を養成した。このように学生の社会的関心・コミュニケーション能力の向上を目指した授業実践を通じて、学習者が相対的な視点から物事を見る力が培われるとともに、本学の教育方針である「思索力の養成」や「信頼される日本人の育成」が達成されると考えている。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：ブライティング・イングリッシュ	基本的な文法項目の復習・習得および四技能の向上を目指し、また、データサイエンス教育の強化という学科の教育目標に沿った授業実施のため、e-text完備のテキスト（テキスト: Side by Side, Pearson）を使用し、e-textの機能を余すところなく使いこなせるよう、使用方法に関する自作の資料を作成した。使用に困難を抱える学生には個別に対応した。毎回の授業における自作の復習用小テスト、学期毎の習熟度チェックテストを実施し知識の定着を図った。これに加え、習熟度が高い学生がより深く英語を学習し、また授業内容への不足感を軽減するため、追加課題を毎度設定した。3回に1回の頻度でライティングも実施し、全学生に対し個別に指導を行った。
2.教育活動や教育業績 科目名②：フードビジネス・イングリッシュ	受講学生の学習到達目標・学習目的に合わせた授業内容を設定し、テキストのテーマに沿いつつも、学生の興味関心に沿ったテーマに適宜調整し、英語でスクリプトの作成・プレゼンテーションを行う能力を涵養した。スクリプトは全員個別に添削し、パワーポイントの作成の仕方についても、見やすい・分かりやすいスライドの作成方法を個別に指導した。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎演習	「広告／メディアの批判的分析」をテーマに、学生が普段触れる機会が多いSNSや広告といった題材を取り上げ、広告の言語的な工夫やマスメディアの特徴、社会問題との関連などと結び付けながら講義を行った。また、ディスカッションを通じて、社会問題や身近な問題について他者の意見を聞いたり、それを踏まえた上で自身の意見を述べる能力を養成した。スライド作成を課題にすることでパワーポイントの使用に慣れさせ、将来の進路で役立つような資料作成能力を涵養した。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：ブラクティカル・イングリッシュ	全ての科目を通して、1件の例外を除き全項目において相対度数4を選択した学生が最も多く、概ね満足度は高かったのではないと思われる。特に、「板書やモニター提示の仕方や内容が適切だった」「授業の進み方は適切だった」「課題の量は適切であった」といった項目で度数4を選択した学生が多かった。このことから、小テストやライティング等、自主学習にしっかりと取り組む学生が多かったのではないかと。また、例年度度数4のパーセンテージが低い項目「この講義はシラバスに沿って行われた」も全ての科目において度数4が70%を上回っており、進度が適切だと感じた学生や、授業の進行についてきちんと理解した学生が増えたのだと思われる。自由記述では、「個別の指導が丁寧だった」「説明が分かりやすかった」という意見が多く、机回巡視を増やし、跟いている学生への対応の時間を増やしたことが功を奏したと思われる。また、宿題で学習内容を復習できたこと、授業内での練習問題の豊富さなど、課題への満足感について述べた意見も多かった。一方、「授業内容を詰め込み過ぎて時間がギリギリになった回があった」ことへの改善を求める記述が1件あった。これは先述の個別対応に時間を要した回で、前後期で各1回ずつ程度そのような回があった。授業時間を超過したわけではないものの、各チャプターをしっかりと理解したい学生にとって解説等が物足りなかったのではないかと考えられる。そのような回については教案を見直し、テキスト内容を全ページ分忠実にこなすことよりも、必要に応じて扱うページ数を減らし、その代わり1つ1つの項目についてしっかりと解説や練習の時間を取ることを優先し、講義内で扱う内容や時間配分について調整する。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：7ドビジネス・イングリッシュ	受講数が5人と少なかったためアンケート回答者数も少なかったものの、全項目のうち半数において4を選択した学生が最も多く、その他項目も殆ど3を選択した学生が最多であった。自由記述では「一人一人に合った進行状況でよかった」との回答があり、概ね満足度は高かったものの、ブラクティカル・イングリッシュほどは高くないという結果であった。大人数の授業と異なり少人数授業のため個別指導の時間が豊富であり、内容もより発展的であることから、しっかり英語を学習したい学生にとっては満足度が高いが、選択科目のため「単位数を稼ぐために履修した」という学生も多く、そのような学生にとっては付いて行けにくさを感じたのではないかと。このため、評価基準を見直す、授業進度を遅らせて代わりに指導をより丁寧にするなど対応していきたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業アンケートの内容を参照し、前年度と同じテキストを使用する場合でも、毎年板書の内容や量、説明の内容・量、教案や課題を適宜見直している。例えば、前年の学生が躓きがちであったり、混乱している学生が多く見受けられた回については、説明や資料、簡単な自作の練習問題などを増やしている。課題についても、できる限り各回の課題量にばらつきが出ないように心掛けつつ、進度に合わせて範囲や量を変更している。また、e-textのダウンロードに印刷済み紙のテキストしか使用しない学生が例年多々見られるため、e-textのダウンロードやアカウント作成方法、使い方についてのレクチャーにより時間を割き、e-textウェブページの改変に合わせて、使い方に関する自作の資料も修正している。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

【令和6年度の成果】	
1. 2024年4月 日本科学協会2024年度海外発表促進助成採択	
2. 2024年6月 Arisa Koba, Yingqian Zhang “Forming Others: Comparing HIV and COVID-19 “Super Spreader” Discourses,” Sociolinguistics Symposium 25, Curtin University, Perth, Australia	
3. 2024年7月 Arisa Koba, “Experiencing COVID-18 as minorities in the United States and/or Japan: narratives and articulation of changes during the pandemic,” 言語科学会第24回年次国際大会、静岡県男女共同参画センターあざれあ	
4. 2024年7月 Arisa Koba, “Experiencing COVID-18 as minorities in the United States and/or Japan: narratives and articulation of changes during the pandemic,” JSLS 2025 Conference Handbook	
5. 2024年10月 災害ナラティブとしての「コロナ禍」の語りが果たす役割と意味－マイノリティの経験を中心に－、大阪大学言語文化学会第65回大会招聘研究発表	
6. 2025年2月 アジア系米国居住者の語りにみる自己／他者の「声」と経験の融合－アフターコロナの視点から評価されるコロナ禍の経験－、社会言語科学会第49回研究大会	
7. 2025年2月 アジア系米国居住者の語りにみる自己／他者の「声」と経験の融合－アフターコロナの視点から評価されるコロナ禍の経験－、社会言語科学会第49回研究大会発表論文	
【令和7年度の目標】	
これまでの英語の授業では英語が苦手な学生に合わせ、定期試験ではなく授業内の課題やテストで成績を評価してきた。しかし、この方法では毎回の授業や課題に真面目に取り組む学生とそうでない学生の成績に差ができず、また、課題を溜めてしまう学生や、授業態度が極端に悪い学生が発生することが分かった。このため今年度の授業では、試験方法を変更するなど成績評価方法を見直し、上記の問題の改善を図ろうと考えている。	

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチャング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：小橋一秀
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインターフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

情報の力を活かし技術と創造力で社会を豊かにする人材を育てる。 学生に情報システムとコンテンツを駆使して未来を創る力を身につけさせ社会や文化に貢献する情熱を育む。 知識と技術に共感力や感性などの人間力を融合させ次世代を担うクリエイターを育成する。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：データベース	データベースを設計する際、「このデータが誰にどう使われ、どんな影響を与えるか」を意識させる。例えば、受講生自身の関心が高いテーマを元に設計を始め、具体的な機能要件や使いやすさを考慮させることで、開発者と利用者の双方の視点に立った技術選定やサービス提供という社会への責任感に基づいた演習を行う。 XAMPP、PHP、SQL、CakePHPによるWebサービスを実装する。
2.教育活動や教育業績 科目名②：ゲームプログラミング	ゲームのコードを書く技術を教えるだけでなく、「プレイヤーに楽しさや感動を与える」「より深くゲームに向き合うアイデアを実現する」ことを目指させる。技術的なアルゴリズムに責任感や創造性を要求する。 Unity、C＃、Snap！を扱う。
3.教育活動や教育業績 科目名③：メディアアート	作品の視覚的な完成度に拘らず、「観る人にどんな感情を伝えたいか」「社会にどんなメッセージを届けたいか」を重視して、感性や共感が技術に融合した作品を制作する。 Max8、Arduino、micro:bitを主軸に3年後期までの情報メディア学科の学びを活かした多彩な技術を扱う。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：データベース	ChatGPTなどAIのコード支援によりデータベースの設計とコーディングのトラブルの自己解決率が高くなった反面、テーマ設定すらAIに任せている様子の受講生も現れており、手軽に済ませるだけで学習のレベルが落ちた受講生もいる。Vibe Coding時代の演習内容にシフトする必要がある。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：ゲームプログラミング	他の授業に比べ特別に難しい内容ではないが、Unityのメニューの英語が苦手だったり自学自習で遅れを取り戻す気のない受講生が脱落していく。受講生にしっかりと学習目標を認識させ授業時間外のサポート体制を充実させて脱落率を下げたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：メディアアート	Max8は修得が困難なソフトとして有名であるが受講者から見た原因の多くは情報が英語で提供されているためであり、本来はローコード系の非エンジニア向け開発環境である。その面白さに気が付いてハマらない限り修得コストに見合ったりターンが少ないことが課題である。現在の課題を受講生にアピールする課題に改修していくことが必要。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	オープンクラス（映像制作演習II）に参加してTouchDesignerを修得した。この科目の2年後期の受講者が続けて3年後期メディアアートでTD作品を制作することに対応する。Blenderを2年後期CG演習の受講生の教科書レベルの内容で修得した。UnityやMaxなどインタラクティブな作品の素材政策やBlenderのスク립ト制御による作品制作に対応する。micro:bitを教材として活用した。手軽に作品制作できる反面、クオリティに課題がでた。中間課題の制作を設けるなどステップを用意したい。Maxのオンラインセミナーに3回参加しTopクリエイターから知見を得た。Jetson OrinやMicobot、toioなどのデバイスを活用した学内外でのデモに学生とともに参加した。卒研指導においては生成AIを活用したサービス開発に取り組んだ。VR体験会を高校で実践した。集団でのVR体験会の運用についてノウハウを蓄積できた。ChatGPTによるVibe Codingを試している。次年度の教育に活用したい。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

2024年度は例年通りのイベント（稲沢こどもフェスティバルのメディア体験会、大学祭のゼミ展示、隔年開催のOMMF2024）に参加し学生と共に教育研究内容を社会に還元した。高校のVR体験会の要望に対応した。授業資料や大学・ゼミでの活動の様子を動画30本、ショート動画約50本を作成してYoutubeで公開した。 2025年度はアプリ開発などプログラミングを要する分野では徹底的なAI活用が進む。これに合わせた授業内容に改修する。具体的にはVisual Studioやcodeでのcopilotの活用、ChatGPTやGoogle Gemini、Claude Sonnetをプログラム制作で活用していく。また画像や音楽など生成AIによるメディアアート作品制作を指導していく。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：小林あづみ
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：日本語力	基礎教育科目のうち、各学科で必修の科目である。フードビジネス学科の1年生のクラスを担当しているため、フードビジネスを通じて社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力をまず養うような講義を実施する。そして、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する表現力を養う課題に講義内でとりくんでいく。講義を受講し課題にクラスメートと取り組むため、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけることになる。
2.教育活動や教育業績 科目名②：現代日本史	基礎教育科目のうち、全学部、全学年が選択可能な講義科目である。科目名からは、歴史学にカテゴライズされる印象があるが、歴史学に必要な歴史史料が未公開であるケースが多いことや、本学には歴史学を専攻する学科を有する文学部が存在しないため、歴史学としてよりも、現代の日本における様々な問題の起源と経緯を理解することを第一の目標にする。受講生はフードビジネス学科と情報メディア学科の学生がほとんどであるため、以下のような取り組みをする。1. 食品の安全性、食品ロス削減などに焦点を当て、専門領域の知識と実践力を支える学力を養う。2. 社会的課題をメディアどのように扱ってきたかを理解することで、自らもメディアを通じて課題解決への取り組みを伝える能力を養う。
3.教育活動や教育業績 科目名③：芸術	基礎教育科目のうち、全学部、全学年が選択可能な科目である。本学には四年制大学の情報メディア学科において、映像や音楽による芸術表現を学ぶ科目があるため、本講義では、それらの科目ではあまり扱うことのない日本の古典作品を主題にし、実際に筆を執ることや現代のアニメやマンガといった作品のベースになっている古典作品の理解を中心とした内容になっている。また、作家が生きた時代の問題を理解することで、芸術作品が社会のなかでどのような意義を持つのかを俯瞰し、今後の制作をすすめる上での基礎能力を養うことになる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：文学	短期大学の全学科で受講可能な基礎教育科目である。主として古典作品を扱うが、古典作品を主題にした和菓子など、食、とくに製菓専攻の学生にとって今後の商品制作に必要な知識の習得をめざす。また、古典作品が制作された時代の女性たちの生き方を学ぶことで、今後の人生を考えるてがかりにする。講義内で提示される課題に対して、クラスメートと取り組むことで、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけることになる。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：日本語力	アンケート結果に関しては、他所で公開されているためそちらを参照して下さい。本年度の当該科目は、前年度に引き続きフードビジネスに関する動画を視聴してメモをとることの重要性を理解するところから出発した。（動画であれば、2クラスとも内容は同じになるため）効果としては、勉強になった、ためになった等の好意的評価があり、否定的な内容はなかった。なお、今年度より複数の教員で講義を担当することになり、従来とは異なる講義内容になった。また、受講生の受講態度がクラスで大きく異なり、手探りの講義運営であったが講義に対しての不満などはなく、まずまずの出来であったと判断している。学科の特性からか、食に関する内容を扱ったことへの評価が高く、教員との関係も良好であったため、理解度が低い場合でも教員にそれが伝わりやすく指導が行き届きやすかった。今後は今まで利用していた、Learn Wiz One（3月末で今までのバージョンがなくなる）をこのまま利用すべきかどうか、手探りではあるが考えていきたい。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：現代日本史	アンケート結果に関しては、他所で公開されているためそちらを参照して下さい。当該科目について、本年度は講義初回にとったアンケート結果に従い、①今まで扱ってきた難民に関する内容を扱わず、SDGsに関する内容に特化した。また、情報メディア学科の受講生の専門性を考慮し、②写真などの芸術作品を通して歴史を考える内容を増やした。また、健康栄養学科の受講生に対して③給食の歴史に関しても目配りをした。 以上の2点について、自由記述欄からは、①に関しては特にコメントはなく、②および③に関しては肯定的に捉える意見があった。（否定的なものはなかった）理解度に関しては、昨年度に記述した問題は解消している。今後は今まで利用していた、Learn Wiz One（3月末で今までのバージョンがなくなる）をこのまま利用すべきかどうか、手探りではあるが考えていきたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：芸術	以下は四年制大学で実施した「芸術」に関する内容である。当該科目は、基本的には前年度同様のスタイルで実施し、同様の評価が得られている。講義冒頭で生成AIの能力について触れ、望む内容を出力するためには、自分自身が手を動かして描いたり撮影したりする技術や審美眼を養う必要があることを伝え、①自分の手で描く②芸術作品を多く鑑賞する機会を増やし、引き出しを増やすことを講義目標にすることを明らかにした。その内容に理解を示した学生のみが受講したため、比較的评价は高かった。自由記述欄からは、本学に比較的近い美術館で作品を鑑賞する機会を増やしたことも、高評価につながっているように見える。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：文学	アンケート結果に関しては、他所で公開されているためそちらを参照して下さい。今年度の講義は、講義開始後、今後の講義名変更（「文学」から「芸術」へ）に関する通知を受けたため、シラバスに記述されない内容でも積極的に取り入れる講義となった。結果としては高評価であったため、特に問題はないと考える。 今年度はまた、NHKの大河ドラマで『源氏物語』がとりあげられたため、多少は興味を持って受講した学生がいたのではないと思われる。また、今回は後宮の構造等について、講義参加型・VRの利用などを試みた。自由記述を見ると楽しんで受講していたようで良かったと思う。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	昨年度に引き続き、「芸術」以外の全ての科目で、毎時間ごとに受講生からの疑問や意見を募り、その内容を次の講義に反映した。また、受講生同士の交流を促進するために、Learn wiz one を利用し講義参加への意欲を高めた。また、芸術作品を所蔵する寺院で採取された茶などを実際に味わうことで、古典の現代への活かし方を考えるきっかけづくりをした。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

担当科目はすべて基礎教育科目であり、専門科目のように国家試験の合格率などによって成果を客観的に測ることができない。そのため成果といっても学生からの授業評価等でしか把握できないのが現状である。（例えばノートをとる習慣が、担当科目の受講により身に付いたかは、今後他の科目の受講態度で評価するしかない）今後は昨年度に引き続き生成AIの利用について、適切な利用や活用法について、情報を収集し、理解を深め、効果的な活用をこころがけたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：近藤 徹弥
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

食と健康に関する幅広く高度な専門知識を持つ管理栄養士が、その役割を十分に果たすためには、既存の知識を正しく活用するだけでなく、常に最新の知識を更新し、それを実践する力が求められます。したがって、管理栄養士養成の教育において重要なのは、単に知識を伝授することではなく、学生の意欲や能力を引き出し、大学で得た知識や考え方を基に、卒業後に応用・実践できる力を育成することです。さらに、社会に貢献できる人材を育てることも不可欠です。 この考えに基づき、以下の3点を教育理念としています。 (1) 主体的に探究し、学ぶ力を育む支援をする 熱意をもって丁寧に講義や研究指導を行い、学問の面白さや達成感を伝えることで、学生が自主的に学ぶ力を養うことを目指します。 (2) 知識の習得にとどまらず、現場で応用・実践できる教育を重視する 調理・加工や保存による成分・物性の変化について、具体的な事例とともに考えさせる指導を行います。教科書だけでは学ぶことのできない加工や保存の状況をイメージする力を養うことで、卒業後、実際の現場で柔軟に対応し、実践的な力を発揮できる人材を育成したいと考えています。 (3) コミュニケーション力や交渉力など、人間関係を築く力を育む 管理栄養士が専門知識を生かし、効率的に仕事を進め、成果を上げるためには、知識や実践力に加え、コミュニケーション力や交渉力など、人間関係を築く力が不可欠です。そのため、講義、学生実験、卒業研究を通じて、「学ぶ」「教える」「話し合う」「議論する」機会を積極的に設け、共に学ぶ喜びやチームワークの大切さを身につけられるよう支援します。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：食品学Ⅰ,Ⅱ	食品学は、管理栄養士にとって基本的かつ重要な学問の一つである。さまざまな食品を対象とし、素材や成分から加工による変化まで、内容は多岐にわたる。用語の単なる丸暗記を防ぐため、プレゼン資料に写真や図を活用し、重要ポイントを具体的なイメージとして理解できるよう工夫している。また、相互に関連付けしやすいよう配慮している。学生の理解を深めるため、授業開始時に前回の内容を簡単に復習し、演習問題を行っている。さらに、いくつかの単元ごとに小テストを実施している。これらの活動により、一定の教育効果が得られていると考えている。国家試験対策にとどまらず、管理栄養士として社会に出る際に役立つようにするとともに、食品学の面白さに興味を持ってもらうため、食品の特性を生かした加工・調理法や、食品に関するエピソードなどを授業の合間に紹介している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：食品学実験Ⅰ,Ⅱ	全員が主体的に実験に取り組めるよう、3～4人の小グループを編成している。あらかじめ実験の手順書を配布し、実験のフローチャートを作成・提出させることで、実験をスムーズかつ安全に進められるようにしている。実験に不慣れな学生が理解を深められるよう、テキストや配布資料を用いて、実験の目的・方法、測定の原理、注意点などを丁寧に解説・指導している。また、劇物を使用する場合もあるため、安全指導を徹底している。食品学の講義と連携し、学生の理解が深まるよう努めている。実験レポートの作成に際しては、書き方や各実験の要点を解説・指導している。提出されたレポートには、学生のモチベーションが向上するよう工夫したコメントを付けている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習Ⅰ,Ⅱ	卒業演習では、新たな発酵食品の開発に関する研究をテーマとしている。研究の過程で、醸造用微生物の働きや発酵食品の機能性・有用性について指導するとともに、食品衛生、食中毒、食品分析、食品包装に関する知識を深めるための勉強会も実施している。また、発酵食品に留まらず、さまざまな食品の試作・開発を通じて、楽しみながら食品の加工特性を理解できるよう工夫している。チームワークの大切さを身につけられるよう、実験の役割分担や結果のとりまとめ、考察について、教員がサポートしつつも、ゼミ生が主体となって議論を重ねながら進めている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：食品学Ⅰ,Ⅱ	授業の進め方や内容については、"スライド・配布資料がわかりやすい"、"説明が丁寧である"、"小テストが役に立った"など、肯定的な意見が多かった。これらの結果から、学生の能力とニーズに応じた適切な授業がほぼできたと考えている。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：食品学実験Ⅰ,Ⅱ	食品学と連携が取れるような資料を事前に配布し、実験の待ち時間や終了時に丁寧な説明をしたこと、レポートの書き方について丁寧に指導したことが評価されたと考えている。以上の結果から、学生の能力とニーズに応じて適切な授業がほぼできたと考えている。学生が楽しみながら、座学で学んだ知識をより深く理解できるように、引き続き工夫を凝らしていきたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	講義内容の理解を深めるため、小テストを何度か行った。Web上に授業資料を上げ、学生の事後学習や欠席者の学びを目的として、Web上に授業資料を上げ自由に閲覧できるようにした。成績不良者に対しては、追加のレポートをマンツーマンで指導し、講義内容を深める手助けをした。実験においては、レポートをまとめる際の着目点を例示して、文章やレポートを書くのに慣れていない学生の不安を減らす手助けを行った。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

(令和6年度) ・授業開始時に前回授業の簡単な復や演習問題を行うことで、授業内容の定着を図ることができた。 ・教科書に載っていない情報や知識も積極的に講義した。授業に対する興味を高め、理解度も深めることができた。 ・講義内容の自主学習に役立てるため、Webclassに講義資料や確認問題の解説、小テストの解説をアップした。多くの学生が閲覧しており、授業内容の復習に有益であったと考えている。 ・小テストを複数回実施するとともに、小テストの点数が悪い場合はレポート提出を義務付けた。授業内容の理解を深めるのに役立ったとの意見を幾つかもらっている。 (令和7年度) ・今年度の授業アンケートやテストの結果をもとに、学生の苦手な箇所の把握を行い授業に反映させる。 ・講義内容の理解を深めることができるように、授業毎の確認問題の充実を図る。 実験： (令和6年度) ・令和5年度の結果を踏まえ、実験内容の見直しや充実を図った。これにより、学生の実験への興味を高めることができた。 ・実験の待ち時間や終了時に、PowerPointを用いて関連分野の解説を行った。解説と実験の相乗効果により、学生の理解をより深めることができた。 ・レポートの書き方に悩む学生が多かったため、各実験ごとに、レポートのポイントや書き方を配布資料を用いて解説した。授業時間外に相談に来た学生にも丁寧に説明した。レポートの書き方の習熟に役立った。 (令和7年度) ・学生の理解度を随時チェックしながら、適切な対応(追加資料配布等)をとる。 ・座学では味わえない感動が得られるように実験内容を工夫したい。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：柴山一幸
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

大学生活の中で学生自身の興味、好奇心から得る知識や経験、人間関係の積み重ねを通して希望する進路に進み、人生が有意義になり豊かになっていく手助けをする。 演習授業がメインのため教育理念として以下のような方針を立てている。 ・ 初期段階で学生の興味が失せないような講義を行うこと ・ 毎回の授業で一定の達成感を得られること ・ 様々な特徴を持つ学生に寄り添いその個性を受け入れること ・ 対面授業でも可能な範囲で課程での学修が可能なようにすること ・ プロフェッショナルな視点を養うこと ・ 最終的には演習での学修を通して目標を達成し高い自己評価を得ること

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：midi制作演習Ⅰ	1年次後期の科目であり、初めて本格的な音楽制作を学びます。 まずは小学生レベルの譜面の読み方から始まり、MIDIでの小節単位(tick)の計算方法など学びます。リズム、音楽のグループの話とリンクさせながら資料と共に、より音楽的な観点からデータ入力(Midi打ち込み)出来るようにします。その後の講義ではアレンジを構成する楽器の特性、その打ち込みの方法を毎回解説しながら「音楽や楽器に興味を持つ」＝「良いアレンジが出来る」という認識を学生に植え付けさせます。 よりMidiの打ち込みの理解を深めるため、講義の中で実際の楽器実演を通してその楽器の特性を知ってもらいます。
2.教育活動や教育業績 科目名②：midi制作演習Ⅱ	2年次前期の科目であり、「MIDI制作演習Ⅰ」で学んだ初歩的な音楽知識と音楽制作のイロハからより様々な楽器への知識、打ち込みスキルを磨きます。 更には楽曲制作において必要なコード(和音)やリズムの仕組みを解説し、「MIDI制作演習Ⅰ」より、より深く踏み込んだ解説を行います。 「MIDI制作演習Ⅰ」と「MIDI制作演習Ⅱ」を受講すれば簡単なオリジナル楽曲が完成するところまで到達します。
3.教育活動や教育業績 科目名③：サウンドクリエーション	2年次後期の科目であり、「MIDI制作演習Ⅱ」がデータ入力(Midi打ち込み)メインに対してAudioデータの処理に重点を置きます。 ラジオCMのジングル曲を作らせたり、現在YouTubeでもメインになっている宅録のイロハを機材の説明と共にしていきます。 エフェクタやミックスダウン、マスタリングの基礎、使い方も概ね理解できるよう授業を進めます。 最終課題ではデータ入力(Midi打ち込み)とオーディオ録音両方を活用し更に上級なオリジナル作品作りを目指します。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：midi制作演習Ⅰ	予習や復習にも活用できるようPDF化した資料が学生の助けをしていることが報告書でも見受けられます。 大半の意見が良くてきた、ためになった、と肯定的な中で「難しかった」という意見もあり、来期より更に分かりやすい説明と資料づくりをしようと思います。何も音楽の経験がなく知識もなかった学生が講義終了後には譜面も読めるようになった、今まであまり興味のなかった音楽への関心も上がったなどの意見もあり、今後もこの授業スタイルを継続していこうと思う。ただ講義についていけない学生へのフォローが十分ではないなどの意見もあるのでそちらへの対応も兼ねて考えます。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：midi制作演習Ⅱ	「MIDI制作演習Ⅱ」でも学生への解説をPDFで共有しながら進めていますが、少し難しいかなと思われる部分は必ず二度口頭で解説します。なるべく易しくわかりやすく声のトーンを変えながら授業を進めますが、これら进行评估される意見が見受けられます。 最終課題提出では学生同士の刺激を煽るため、オリジナル曲発表を講義最終週に行いました。優秀作品10作品を発表しそれぞれの楽曲の解説を行いました。選出されなかった学生への対応が十分でなかったため不満を感じた学生もいたようでした。来期にはその対策を考えます。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：サウンドクリエーション	サウンドクリエーションでの学生の声には大半が「自分のペースで出来た」という肯定的意見が見受けられた一方で「難しかった」などの意見も少数ですが存在しました。そのバランス、さじ加減がとても難しく、現在の課題になりますが、もう少し学生の意見を集め対応していきます。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	常にリアルなサウンド現場の中心で学んだことを授業で学生にフィードバックすることを心がけている。音楽業界とのパイプを保ちながらより実践的な音楽教育、業界への就職に役立つ授業の内容など毎年ブラッシュアップさせている。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

midi制作演習Ⅰでは譜面や音符への理解、打ち込みができるようになること。midi制作演習Ⅱではオリジナル曲制作。サウンドクリエーションではさらに進んだオリジナル曲制作。それぞれの授業でほとんどの学生が実現できています。今年度もこれを維持しサウンドコース内でより実践的な講義を継続していきたいと思います。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：周 欣欣
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

誠実な研究態度と正しい学習方法を身に付けさせ、将来社会に貢献できる人材を育てます。 一人一人の学生を大切に、学力の高い学生だけでなく、そうでない学生も成長できるよう努力します。 自身の利益と学生の利益が衝突する場合は、学生の利益を優先します。 初心者立場に立ち、学生に寄り添い、役立つ授業を提供するよう努めます。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：コンピュータグラフィックス基礎	令和6年度前期授業では、2年生の「CG基礎」3コマ、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、卒業演習Ⅰの計6コマを担当しました。 CG基礎の授業では、2年生に対して実習を通じて3DCGの原理を紹介し、SketchUPとBlenderの基礎機能を用いたCG作成方法を教えました。 Blenderはオープンソースの3DCGソフトウェアであり、学科の教育予算を大幅に削減できました。初心者にも学びやすく、教育効果が高かったです。 教材を作成し、予習復習ができるようにWebClassにアップロードしました。
2.教育活動や教育業績 科目名②：	令和6年度後期授業では、2年生の「CG演習」3コマ、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、卒業演習Ⅱの計6コマを担当しました。後期の「CG演習」では、Blenderを使用してCGの作成方法（応用編）を紹介しました。学生は前期に続き、Blenderを使って3Dモデリング、レンダリング、ライティング、アニメーションを学びました。市販教科書を利用し、WebClassで毎回の要点などを配布しました。
3.教育活動や教育業績 科目名③：基礎演習	基礎演習Ⅰでは、シンプルで分かりやすいプログラミング言語Processingを用いて、メディアアートを制作しながらプログラミングの基本を学生に指導しました。 基礎演習Ⅱでは、幅広い用途に活用できるプログラミング言語Pythonの使い方（画像処理、機械学習など様々なライブラリ）を学生に指導しました。 ゼミの学生からは、ゼミでの学習が役に立ったという評価をいただきました。
4.教育活動や教育業績 科目名④：専門演習と卒業研究	専門演習と卒業演習では、以下の内容を指導しました。 ・Unityの使い方やC#の基本 ・Unityを用いたアプリ開発 ・Python言語、ChatGPT、APIなどを用いたアプリ開発 ・生成AIを用いた大学の宣伝広告と短編ドラマの映像制作

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート 結果と授業における自己省察 科目名①： コンピュータグラフィックス基礎	今年は、初めてCG基礎の授業でBlenderを利用しましたが、学生の目標達成と満足度の平均値は、木曜1限は3.27（82点）、木曜2限は3.75（94点）、金曜日2限は3.57（88点）でした。
2.令和6年度授業評価アンケート 結果と授業における自己省察 科目名②： コンピュータグラフィックス演習	CG演習の授業評価の集計結果では、学生の理解度と満足度の平均値は、火曜2限は3.41（85点）、木曜2限は3.70（92点）、金曜日1限は3.84（96点）でした。 学生は授業内容を理解しました。
3.令和6年度授業評価アンケート 結果と授業における自己省察 科目名③：基礎演習	演習につき、授業評価アンケートを取りませんでした。
4.令和6年度授業評価アンケート 結果と授業における自己省察 科目名④：専門演習と卒業研究	演習につき、授業評価アンケートを取りませんでした。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業アンケート、アクティブラーニング、学会発表を行いました。
-------------------------	--------------------------------

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年の成果・教育業績として、指導した12名の卒業研究の学生が無事に卒業し、研究論文を2篇、学会誌に投稿することができました。 令和7年度の目標は、現在の専門演習の学生が良い成績で卒業できることです。また、大学院の学生にも適切な指導を行い、授業内容を確立することを目指します。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：関 豪
------	-------------	-------	--------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

立学の精神を念頭に置き、特に健康と運動の観点から学生へアプローチし、充実した学生生活を4年間過ごせるようサポートする。 学科のディプロマ・ポリシーにもある人間力を高めることを目指すため、学生らが主体的に課題に取り組み、解決に導くことができるような教育を心がけている。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：スポーツ科学	生涯健康な生活を営むために、体力の維持・増進を目標とした運動の実践および身体運動のメカニズムを理解できるようにする。 アクティブラーニングとして、講義に対する質問、感想、要望等をB6程度の用紙に記載してもらい、講義終了時に毎回提出させている。質問、感想、要望に対して、次の講義にてフィードバックしている。また、パワーポイントおよび資料の提示に加え、映像を視聴させるなど工夫を凝らしている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：スポーツⅠ・Ⅱ	生涯健康な生活を営むために、スポーツ（運動）を活用することが多々見受けられる。 運動実践は各自の体力および基礎能力を把握して取り組む必要があるため、体力の維持・増進および熱中症予防など身体への理解を深めさせる。 また、種目のパフォーマンスの向上のほか、グループワークを通じて仲間づくりおよび協調性を身に付けさせる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：スポーツ科学	スポーツ科学：理解度 3.72、満足度 3.8（2コマ平均） 学生らの理解度、満足度は昨年と比べ若干高い評価であった。 パワーポイントのスライドの文字、配布資料のについては様々な指摘があり、次年度に向けさらなる改善を心がける。 昨年度と比べると受講者は少し減り、2コマとも静かな環境を維持することができた。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：スポーツⅠ・Ⅱ	スポーツⅠ：理解度 3.895、満足度 3.92（4コマ平均） スポーツⅡ：理解度 3.895、満足度 3.88（4コマ平均） 学生らの理解度、満足度も非常に高い結果である。 熱中症等の事故を防ぐため、特に休息および水分補給に配慮した。学生からは空調など施設面の要望も多く、事故を未然に防ぐためにも設置は必要である。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	令和4年度授業評価アンケートの意見を反映し、令和5年度よりパワーポイントで提示した内容を記述式資料として配布（一部WebClassにもアップ）した。 概ね学生からの評判はいいが、記述スペースを大きくして欲しいなどの指摘があるため今後さらなる資料改善に努める。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

スポーツⅠ・Ⅱの授業評価は、昨年度とほぼ変わらず非常に高い結果を得ることができた。引き続き事故等がないように努めるが、学生からの意見にもあるよう空調等の設置は必要である。 スポーツ科学においても昨年度とほぼ変わらない結果であり一定の評価は得られている。令和5年度より資料の配布およびWebclassの活用など新たな取り組みを行ったが、より良いものへと改善に努める。 また、学生へ提示する資料収集のため、学会などへ参加し情報を取り入れるよう努める。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科： 情報メディア学科

職位：

氏名： 世良 清

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の課題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

立学の精神から、とりわけ「世界に信頼される日本人」、情報メディア学科ディプロマポリシーからは「情報システムやネットワークに関する知識と技術」に着眼し、卒業後、産業界や地域社会で活躍し、貢献できる人材育成が重要と考え、授業科目、演習を通じて、社会常識やビジネスマナーなどの指導に力点を置く。その上で、国家資格である情報技術者試験の受験指導を通して、より高度な技術の習得を目指す指導を行う。また、著作権や産業財産権などの知的財産権の知識や態度を身につけることによって、グローバルな感性をもった人材の育成に努める。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： 情報と職業	今日の産業構造には、「情報産業」と称される業種・業態が出現した。第1・2次産業では、主として、有形の「もの」を扱ったが、「情報産業」では、第3次産業を超え、無形の「もの」を扱うことが根底にある。この「無形のもの」は、換言すれば「無体資産」あるいは「価値」として捉えられるが、これを取り扱う職業のあり方について検討する。また、職業適性検査などの体験と、その指導法についても実習する機会を設定する。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 情報と法律／情報倫理	今日の情報化の進展には、光と影の部分がある。コンピュータやネットワークは、人々の生活や産業の発展に大きな変革をもたらした一方、著作権法違反や不正アクセス、コンピュータウィルスによるトラブルなど、情報化に伴う事故・事件が多発している。本講義では、情報にかかわる法律を概観し、セキュリティ技術のほか、個人情報保護や著作権を含む知的財産についても講述する。
3.教育活動や教育業績 科目名③： 情報社会の倫理と職業	今日の情報化の進展には、光と影の部分がある。情報化は、産業や人々の生活に大きな変革をもたらし、「情報産業」と称される業種・業態が出現した。第1・2次産業では、主として有形の「もの」を扱ったが、情報産業では、第3次産業を超え無形の「もの」を扱うことが根底にある。この「無形のもの」は、換言すれば「無体資産」あるいは「価値」として捉えられ、本講義では、これを取り扱う職業のあり方について検討する。
4.教育活動や教育業績 科目名④： ITパスポート	本講は、情報処理技術者試験の内のITパスポート試験に合格することを目指し、ITを活用するこれから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を身に付ける授業である。受講期間内にITパスポート試験の受験は必須であり、各回の授業は、問題演習を中心に行う。従って、受講者は、授業に際し指定した事前・事後の演習問題に欠かさず取り組む必要がある。また、2年次で実施する基本情報技術者試験免除制度（FE講座）を希望する者には本講の受講を推奨している。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： 情報と職業	継続して開講している科目であり、内容や授業進行には、比較的練れた状況であり、卒業・就職に向けて、職業関連の法規や制度を具知的に取り上げ、実用的な授業として、学生の就職意識の向上に寄与した。教室のホワイトボードは、縦に細長い教室では見にくいことから、Ipadを持参するように指示し、ZOOMの画面共有機能を使用してハイブリッド授業を行ったが、昨年度に比して受講者が少なかったこともあり、活用場面は多くなかった。なお、教育課程の更新により、本科目は今年度限りとなっていることもあり、単位修得に向けて、積極的に支援した（欠席過多の学生を除く）。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： 情報と法律／情報倫理	本科目も、教育課程の更新により、本年度限りとなる科目であるが、昨年の授業の踏襲ではなく、授業内容に工夫を凝らした。「倫理」を単に知識として習得するのに留まらず、情報社会で直面する今日的課題（SNSの不適切な投稿や、闇バイト、いわゆるトリックウの問題など）を、新聞記事などから喫緊の話題を取り上げるなど、受講者の身の周りの身近な問題を取り扱ったり、教科書の輪講を行うなどにより、学生目線の内容となるように努めた。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： 情報社会の倫理と職業	主として1年生を対象とし、2年生以上からの受講もあったが、30名と適切な受講者であり、比較的落ち着いた授業展開ができた。ただ、4年生で、「情報倫理」と「情報管理」を今期に同時に受講した者もあり、情報社会で直面する今日的課題などは、重複する部分もあり、苦慮した部分がある。「情報セキュリティマネジメント試験」のB試験（A試験は知識を問う、B試験は事例をもとに、一般化された情報セキュリティ管理の設例をもとに、状況を読み取り、対応策を考えるなどの問題）の解説を行ったが、これは全般に良好であった。これを背景に、今後は、事例研究を充実させたいと考えている。なお、情報セキュリティマネジメント試験に合格した学生も少数ながら輩出した。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④： ITパスポート	カリキュラムの相違により、学科特別科目（単位は認定するが、卒業要件とならない）として開講する3年生以上と、卒業要件として開講される1年生向けに、カリキュラム上で別科目であるが、実態としては合体して行った。全般として、欠席数や授業遅刻は比較的少なく、受講態度は良好であったが、ITパスポート試験合格に向けた意欲向上には、模擬試験なども行なったが、多くの学生が実際に本試験を受験するのは至っていない。一方、意識の高い学生からは、試験の合格者もあった。合格した者は、正規の授業時間内だけではなく、個別に指導を行ったことも合格者輩出の背景にある。単位認定が終わった後も、引き続き個別指導を希望している学生もあり、フィードバック指導を続けている。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	「情報と職業」については、中間提出のレポートに、個別添削を行ったり、手づくりの「クレベリン検査」などを実施している。市販の検査用紙は有料のため、学生の経済的負担があり、当然に不法複写はできないので、私自身の手作りの検査用紙を作っている。 「情報と法律・情報倫理」は、昨年の授業の踏襲ではなく、授業内容に工夫を凝らした。「倫理」を単に知識として習得するのに留まらず、情報社会で直面する今日的課題（SNSの不適切な投稿や、闇バイトやいわゆるトリックウの問題など）を、新聞記事などから喫緊の話題を取り上げるなど、受講者の身の周りの身近な問題を取り扱ったり、教科書の輪講を行うなどにより、大人数ではあるが、その短所をカバーするように努めた。受講生のコメントには「話が脱線する」との記述が見られるが、これは決して単なる雑談ではなく、各種の事例を取り上げて、具体化するためのものであり、むしろ授業進行にとって重要なものではあるが、これまでに、単純に教科書などを単純に上から順に読み上げていくような授業を受け身で通してきた者にとっては、違和感があるのかもしれない。受講者の実態に即して授業展開を単純化するなどの工夫の必要性を感じる。 「情報社会の倫理と職業」は、1年生を対象とし、2年生以上の「職業指導」と「情報倫理」の2科目を合体させた内容であり、限られた時間で、2科目分の内容を網羅することの腐心した。 「ITパスポート」は、カリキュラムの相違により、学科特別科目（単位は認定するが、卒業要件とならない）として開講する3年生以上と、卒業要件として開講される1年生向けに、カリキュラム上で別科目であるが、実態としては合体して行った。前者は5名、後者は32名の受講者があり、さらに、すでに単位を修得した者にも、希望によって聴講を認めた。3名の希望があった。これは、学科特別科目受講者と併せて、単位を修得したいのではなく、ITパスポート試験に合格したいと考える受講者であった。卒業要件となる1年生も全般として、欠席数や授業遅刻は比較的少なく、受講態度は良好であったが、ITパスポート試験合格に向けた意欲は、双方の科目間には差異が見られ、授業アンケートにも明確にしが現れている（但し、回答者数に差異があることには留意が必要）。実際に2年生からは、実際に複数のITパスポート試験の合格者があった。合格した者は、正規の授業時間内だけではなく、個別に対面・オンラインで指導を行ったことも合格者輩出の背景にある。単位認定が終わった後も、引き続き個別指導を希望している学生もあり、フィードバック指導を続けている。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度の成果・教育業績については、一部で上に述べたが、総括すると、立学の精神やディプロマ・ポリシーに基づく教育理念に示した事柄の実現を目指した。 本学での教育活動の4年目を終えるにあたり、本学の学生の特質の現状と、引き続き改善すべき課題が見えてきた。令和5年度末にも記したが、学生はWEBCLASSなどで即答できるような授業がとつきやすく、好む傾向がある。しかし、紙と鉛筆でじっくりとレポートを書き上げるような授業を行いたいと考えた。学生の実態に迎合するだけではなく、毅然として、自己で考え意見を書き表す指導をしないと、論文を書く力が身につかないので、学生は結果、卒業論文をしっかりと書くことができなくなると考え、前期・後期試験においては、事前に論題を示した上で、論述試験を実施した。 「情報と職業」「情報社会の倫理と職業」については、中間提出のレポートに、個別添削を行ったり、手づくりの「クレベリン検査」などを実施している。市販の検査用紙は有料のため、学生の経済的負担があり、当然に不法複写はできないので、私自身の手作りの検査用紙を作っている。学生自身の自己理解を促し、卒業後の社会生活に貢献することと考えている。 「ITパスポート」は、実際の資格試験対策を兼ねて、模擬試験を実施した。一方で、2年生になると情報処理技術者試験のA試験免除制度（FE講座）に結びつくような指導に努めた。 科目共通としては、本館2・3階などの縦に細長い教室では、後部座席からはホワイトボードを見ることが困難で有り、また、画像提示装置を使用しても、南側窓からの直射日光の照射は、カーテンを閉めても見にくいようである。そこで、事前に用意したプレゼン画面などは、プロジェクタなどに投影しつつ、ZOOMの機能を使用して送信した。但し、インターネットを介した公衆送信は、著作権の取扱いに留意する必要があり、使用できない場合もあった。リアクションペーパーを元に、随時、記述された内容を、次の授業でコメント返しを行った。これらを通して、レポートや論文執筆を指導するように努めた。 今後は、引き続き、一昨年度から実施している「基本情報技術者試験免除講座（FE講座）」にも一層の力点を向けていく。引き続き、本試験での多数の合格者輩出を目指す所存である。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：健康栄養学科

職位：准教授

氏名：高橋 圭

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエータ、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私がこれまで学んできたことや体験したこと、今学んでいることなどを通して、学ぶ楽しさや他分野・他職種の連携の重要性・多角的な視点、学生の将来の可能性の幅を広げることを軸にして教育に取り組みたいと考えている。本学学生には勉強する経験や習慣がない子が一定数いるが、学ぶことで視野が広がる経験をしたり分からなかったことが分かるようになる楽しさを知ること、主体的に課題解決に向かったり、学問を通して技術や知識を磨くことにつながると考えているためそのように教育をしようと考えている。

担当する応用栄養学は色々な科目とも関連し、健康の維持・増進や疾病の予防について学ぶため、他科目との関連付けを行いながら実施している。同時に臨地実習や卒後の社会での実践的な能力を身に付けさせるため、学んでいる知識の活用方法や例などもなるべく入れるようにしている。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：ライフステージ栄養学Ⅰ	栄養管理の流れ、食事調査方法、身体計測や血液検査内容、体重管理、1日の栄養量の基準についての内容について1年生後期に講義をしている。これらの内容は2年生以降の病態や臨床・応用系科目の基礎になる部分であるため、関連付けたり例を出しながら説明するようにしている。特に体重管理の部分では、体格指数（BMI）や標準体重などの計算方法を説明するが、計算をしなくてもおおよそのBMIがイメージできるようワークを少し行ったり、体重の種類（標準体重、目標体重、現体重など）の使い分けなど実践をイメージしたことも取り入れるようにしている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：ライフステージ栄養学実習	調乳や離乳食の作成、対象者に合わせた栄養アセスメントと献立作成・調理実習などの演習を行っている。座学で学んだことを体験してもらうことも行っているが、3年前期科目であり臨地実習に行く前であるため、今まで学んできたことの振り返りなども取り入れながら、それらを活用できるような演習（献立の立て方のポイントやアセスメントのコツ、生活習慣病などと栄養の関係などのワーク）を行うよう努めている。栄養アセスメントおよび栄養計画の内容については、なるべく色々な視点を持てるようにアドバイスしながら演習を行っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：臨地実習指導	3年生前期科目で臨地実習とは、言葉使い・メールの書き方、服装、実習ノートやお礼状の書き方などについての講義、臨地実習ⅠとⅡそれぞれのポイントについての演習、現場の管理栄養士の先生方からの各施設での栄養士の役割についての講演などを実施している。オムニバス形式ではあるが、学生が社会人・文理大学の学生・実習生としての責任や品性について自覚できるように努めている。また、各現場でのしごとについてイメージできるように取り組んでいる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：臨地実習Ⅱ	実習前の自主課題は、学生1人1人に実習での目的意識をもたす為に実習前に行わせている。自主課題は学生自身が病院で主体的に学びたい内容を考え、それに対して目的、方法、事前学習を作成する。できる限りその内容を選んだ理由や学びたい理由を聞き、その内容に合わせて質問内容をブラッシュアップするようにしている。1つでも多くのことを学べるように方法の内容や周辺領域についての説明や他に見てきた方が良い内容についても学生に話をしている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：ライフステージ栄養学Ⅰ	ライフステージⅠは検査数値や栄養素の摂取すべき基準値についての内容であるため、1年生にとっては難しめの内容にはなっている。それでも理解度と満足度について98%の学生が「3」以上をつけているので、理解は得られているかと考える。自由記述でも「スライドがまとめられてわかりやすい」「説明がすごく分かりやすい」などのコメントがあった。しかし、成績評価を国家試験を踏まえて定期試験の1回勝負にしており、ライフステージⅡやⅢと比較して再試験者の数が多くなっている。理解できた気になっているだけでは国家試験の合格はできないので、きちんと定期試験に向けて内容を覚えられるようにサポートしたい。また、さらに理解度を上げることやアウトプットの方法を考えたい。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：ライフステージ栄養学Ⅱ	ライフステージ栄養学Ⅱについて、理解度が「4」と「3」で95%以上であった。実際に定期試験でも例年より点数が高かったため、ある程度信頼できる数値だと考えられる。満足度が「4」と「3」で95%以上であった。スライドの示し方などは特に例年と変わらずに実施したつもりであったが、良い意見が多かった。進捗が遅いという意見もあったが、説明が丁寧でわかりやすいという意見があるという意見もあったので、継続して学生が理解しやすいように努めていきたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：ライフステージ栄養学Ⅲ	ライフステージ栄養学Ⅲについては両クラス合わせて、理解度および満足度が90%以上の学生で「3」以上であった。自由記述で「なぜそうなるのかの説明が簡潔で分かりやすい」「臨地実習で糖尿病交換表などライフステージ栄養学でまなんだ詳しい知識が役に立った」とのコメントがあった。今後も、国家試験にむけての知識だけでなく、臨地実習でも生かされるような授業を行ってきたい。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：ライフステージ栄養学実習	ライフステージ栄養学実習について、特に昨年度と内容ややり方に変化はつけていないが、理解度と満足度は「4」または「3」のみであった。助手の先生のサポートや学生が実習内の意義や目的についてきちんと理解してくれたからであったと思う。授業内容に関しても、臨地実習が差し迫っているので、献立作成や栄養管理について今までに習っているはずの基礎的な内容も入れたりにしているが、ワンパターンの内容にならないようになっており、そこに学生からのマイナス意見はなさそうであるため継続して行いたい。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業アンケートが実施されているため、その内容を見ながら改善できるような内容は取り入れられるようにした。 ・臨地実習指導はオムニバス形式で複数の先生で担当しているが、他の先生の担当回も参加し、学生へ伝えている内容を踏まえながら自分の担当回でもその屋いようを組み込みながらを行うようにした。 ・外部のオンラインセミナーなどに参加し知識を増やし、自身の授業にも取り入れたり、自分の担当科目との関連性を説明した。 ・学内で実施されているFD・SDにも参加した。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度の単独科目はライフステージ栄養学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、ライフステージ栄養学実習をそれぞれ2クラス、卒業演習Ⅰ・Ⅱを担当し、オムニバス形式の科目は臨地実習指導、教職実践演習(栄養教諭)、健康栄養学特論Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、総合演習Ⅰ・Ⅱを担当し、その他学外での実習科目として臨地実習Ⅱ・Ⅲ、栄養教育実習(教職)も担当した。 臨地実習では18施設のべ33人、教育実習では2人に対して、実習先で1つでも多くのことを学べるように、生活指導なども含めた事前・事後の指導を行った。 令和7年度は、座学では学生が自主的に学べるように、臨地実習の指導では実習直前の課題の駆け込みをせず余裕をもって取り組むように仕向けられるよう努めたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：

フードビジネス学科

職位：

助教

氏名：

竹内 陽介

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエータ、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

本学では主に社会学、社会調査関連科目を担当している。これらの科目は食と情報に重点を置く本学において必修ではないものの、学生が生きていく将来社会や現代社会の成り立ちを理解する上で重要な科目である。

社会学は人々の意識や行為、集合行為に着目して、社会の様々な領域を分析する学問であり、社会調査とは社会学の実証的研究法である。これらの授業が学生に教授する知識は、ディプロマ・ポリシーにおける「社会への関心」の涵養、あるいは社会の「課題発見力」と強く関連している。例えば国内の食糧自給の要である農家が抱える諸問題の検討や、コロナ禍で露見した飲食店経営のある種の脆弱性など、食に関わる領域においてもフィールドワークや統計調査を駆使して現状を分析し、課題を発見することができる。社会学や社会調査法はそうした資質の基礎を養うものである。

社会学は「正しいこと」や「こうすべきである」ということを言うための学問ではない。それらは倫理観や価値観の問題である。社会学はなぜそうにして事実が構成されているのかを、実証的に探求して、そのプロセスや帰結を説明する学問である。そうした態度の涵養に寄与する教育を本学で実践している。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：社会学	本講義では過去と現在の比較を一つのテーマにしている。主に家族、働き方、地域社会という、社会を分析する基本的な視座を主軸に据えて、なぜそのような変化が起きたのかを、受講生に投げかけ、考えさせたり簡単な意見発表をさせたりしながら講義を進めている。例えば昨今社会問題化している「若年層の出生率の低下」は、若いカップルや家族の何が変わったことにより生じているのか。受講生はまず自分で考える形で「仮説」を構築し、教員は後にそれをデータを示しながら解説していく。さらにその解説は絶対的な答えではなく、現実に変化していること、学生の示す見解こそが社会の一部を構成していることを述べる。以上が社会に対する「なぜ？」を涵養するための実践の一部である。
2.教育活動や教育業績 科目名②：社会調査入門	本講義は社会調査士資格の取得に必要な受講科目＜A科目＞である。1年生前期から受講することが予定されている本講義では、社会調査の各種方法について、具体例を参照しながら学ぶ。例えば、アンケートデータを示しながら、それを学生に読み解いてもらい、なぜそのような結果になるのか推測してもらったり、自分であればどのように質問するのかを考えたりする。あるいは友人を相手にインタビューをしてもらい、メモを元にその内容を報告してもらったりである。こうした実践を通して、人々から情報を入手し、分析する社会調査法を扱う感覚を養っている。こうした能力はまた顧客ヒアリング等を含め、マーケティングリサーチに通ずるものであり、本学科の理念に沿うものである。
3.教育活動や教育業績 科目名③：社会調査方法	本講義は社会調査士資格の取得に必要な受講科目の2科目＜B科目＞にあたる。内容は主に量的調査の方法に関するものであり、アンケートを理解する上で重要な概念の説明から始まり、適宜テーマや問い、仮説を立てる演習を差し挟みながら、個別に関心のあるテーマのアンケート作成に着手する。学期末にはそれぞれの受講生が作成したアンケートを提出し、教員がそれに対してフィードバックを行う。アンケートは特定の地域や社会集団の一般的傾向や偏りを理解する上で役立つ社会調査の手法であり、自身が立てた問い／仮説を検証するために用いる。そして結果を受けて別の仕事や施策に活かすものである。実際にアンケートを配布・回収・入力・分析するところまでは完結できないが、自ら問いを立てて検証する手続きを理解し、それを反映したアンケート作成をすることは課題解決の思考法学習となる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：フィールドスタディー	本講義はフードビジネス学科における＜フードビジネスミスター＞取得の必須科目となっている。実際にいくつかのリサーチ方法を経験しながら学習する演習科目であり、主には資料収集とドキュメント分析、およびインタビューを実施している。社会調査士科目は基本的には座学から出発して、断片的に演習課題をこなしながらその方法を理解する形で構成されているが、本講義はまず興味のあるテーマについてインターネットや図書館を使用して調べ、データを集めること、あるいは自身の関心を言語化しながら取材の際の質問を考えたり、実際にインタビューした後の記録を文字化して分析したりという実践に重きを置いている。こうした学習を通じてリサーチを立案すること、および自身の主観的な印象ではなくエビデンスに基づいて検討する能力を身につけている。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：社会学	アンケート結果は「良い」評価だったと言える。平均評点が3.5～3.7であり、目立って低い項目がなかった。特にポジティブな評価がされていたのは、授業・資料・教員の話の分かりやすさである。社会学はとっつきやすいが難しい学問である。それを分かりやすく伝えられたという点で本講義は概ね成功していると評しても良いだろう。一方、「シラバスと自主学習」「講義に参加する積極性」に関しては相対的に評点が低かったため、シラバスの内容を初回でより丁寧に説明する、能動性を引き出すため、より双方向性の高い授業を立案する必要がある。ただし受講生が80名を超えることもあるため、1人1人の受講生に対してコミュニケーションを取るというより、全体の意見を収集してそれを受講生と共に見てコメントするという、現状の取り組み以上のものはなかなか難しい。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：社会調査入門	アンケート結果は平均評点が3.7と高く、突出して低い評価もなかった。そのため学生にとっては充実した講義だったと考えられる。自由回答記述を見ると、要点をまとめた穴埋め箇所のあるプリントが好評であり、復習用の資料として役立ったという。また単なる座学ではなく、要所要所で演習課題が入り込んだり、グループワークやディスカッションの機会があったことが理解やモチベーションにつながったという意見も散見される。評価された内容は次年度以降も継続して取り組んでいく。社会調査を初めて学ぶ学生がほとんどの科目であるため、説明だけでは難しいと感じる学生もいたようだ。次年度以降は可能な限り具体的に面白さを伝えられる講義にしつつ、実際に手を動かしたり、データを扱ったり、問いをたてたりという実践も取り入れていく。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：社会調査方法	アンケート結果は平均評点が3.8を超えており、担当講義全体の中で最も高く評価された講義であった。授業の進め方は前期の社会調査入門と全く同じだが、後半の5回は学んできたことを応用する形でアンケート作成に取り組んでもらった。その結果、学習してきたことがより深く理解できると共に、理解していなかった部分も明らかになった。また学習してきた成果を各自オリジナルのアンケートという形で可視化したことにより、受講生が成長を実感できた点も評価に結び付いたと推察している。基本的には入門同様、座学中心になりやすい社会調査士資格科目であるが、課題とフィードバックを細かく繰り返す方法で学生の意欲と集中力を維持できたことが成果に結びついたと考えている。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：フィールドスタディー	アンケート結果は平均評点が3.6～3.7と高く、良い評価をされた演習科目であった。この授業は教員が座学形式で何かを教えるということをほとんどせず、テーマを決めて各自調べる、問いを立てる、リサーチをする、といったことをグループで実施する形式で進めた。自由回答記述の結果から、自分で考えつつグループで話し合っ進めた点が好評だったと言える。一方で新設の科目ということもあり、手探りで作りながら進めた部分も大いにあり、すべてが円滑に進行したとは言えない。情報の調べ方、適切な問いの立て方、情報のまとめ方など、教えなければ分からない部分は学習が必要であった。あるいはあまりに自由なリサーチだと何をしたらよいのか分からず、パソコンを触っているだけの無駄な時間が生じてしまう。座学の追加と、課題の細かな切り分けが次年度の課題である。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	講義では原則コメントシートの提出を求めており、これが学生のリアクションや疑問を確認する媒体になっている。さらにここでの感想や質問を授業毎取り上げて解説する形で授業が始まるため、学生は他の学生の考えを知り、疑問を解消するとともに、前回講義を一部復習しつつ講義に望むことができる。講義内ではWeb Classの様々な機能を活用している。アンケート機能を用いて教室全体の意見を可視化することや、チャット機能や掲示板機能で意見を出し合い、それをもとに議論を実施したり、フィードバックをしたりしている。またこうした学生の反応を見ながら講義内容の調整・見直しを実施している。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

今年度から社会学に加えて社会調査士科目およびミニ調査を実施するフィールドスタディーの講義を担当した。各授業を受講した学生の意見・反応を見る限りでは、概ね学生の意欲を引き出す講義が実施できたと考える。とりわけ少人数の専門科目では学生とのやり取りをする密度が高く、きめ細やかな指導が可能であった。受講生は取り組んだ課題に対して個別にフィードバックをもらえるなら意欲をもって実行することが今年度の担当科目でよく理解できた。逆に注目が少ない一般教養の大講義では（これは昨年も書いたが）学生間の意欲格差は埋めにくい。前の机にかじりついて熱心に受講する学生と、教室の後方で机に何も出さずに座っている学生が混在する。今年度は双方向性や学生とのコミュニケーションを増やした結果、上述した内容が分かりやすい結果となった。とりわけ社会調査士科目に関しては良い方向で成果が出たと考える。学生1人1人が自身の関心を反映させたアンケートを作成し、かつその質を高める工夫にまで時間が割けたのは大きな成果だと言える。理論仮説や作業仮説に基づいて構成する専門的なアンケート作成は難易度が高いからである。
次年度はこうした取り組みを継続することを基本としつつ、特に学生自身が能動的に取り組める課題設定に重きをおいた講義構成を目指したい。座学は重要だと考えてスライドやプリントを作成しているが、口頭で話したりそれを書きとらせても内容を理解していないことが多かった。それよりも説明したうえで実際に取り組む、もう一度知識に帰ってきた方が理解がしやすいことが分かった。限られた時間の中で困難なことではあるが、実際に手を動かすフェーズがないと知識や技能の定着率が芳しくない点を踏まえ、次年度は特にこの点に留意して教育を実施する。また次年度は個別に演習科目を担当することになっているため、上記した成果や改善点がより試される機会が多くなる。実践しながら知識を入れることを目標に教育に着手していく。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：准教授	氏名：竹尾 淳
------	-------------	--------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

社会で信頼される人物となるよう、知識の獲得、知識の活用の2点を重視しつつ教育を行っている、実社会の課題を例示し、自ら課題策を考える習慣が付くように心がける。また、課題解決能力は知識の質と量に支えられるため、継続的な知識獲得も習慣化させる。手を動かして知識を活用し、自身で振り返るサイクルを重要視している。また、一社会人として、大いなる自由には大いなる責任が伴う自覚を持てるよう、慎重にかつ大きな挑戦を行うことを歓迎する。これらの過程ではコミュニケーションを通して信頼関係の醸成に注力し、全人教育につながるような指導を心掛ける。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： プログラム演習Ⅰ	コーディング演習の際、学生がPC操作やコードの記述で困っていると感じたら、積極的に声を掛けるようにした。同時に、自ら考え気付きを得る体験も重要であるため、都度状況を判断しつつ対応した。教員やSAへの質問できる/できないは各学生の性格による面も大きいので、各学生の特性に応じたサポートを心掛けた。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 学生プロジェクト ・情報教育プロジェクト ・健康情報プロジェクト	年度途中の着任であったため、進行中のプロジェクトをサポートする形で参画した。情報教育プロジェクトでは、高校の情報科目や探求科目を調査研究する中、学生による学会発表が行われた。それに伴う原稿の構成、執筆を指導した。複数の教員が指導に当たるため、学生の混乱を抑えられるよう、また、自身で考えて執筆に当たれるよう配慮した。健康情報プロジェクトでは、近隣病院と協力して制作する体操動画に助言を行った。高齢者参加イベントで披露し、アンケート結果は好評であった。
3.教育活動や教育業績 科目名③：	
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：	
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：	
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	近年は学生が抱える悩みも複雑化しており、修学に集中できないケースが見受けられる。また、論理的思考のトレーニングがよりよい学修につながると感じる場合が多い。これらに対処できるよう、本学のFD講習会の他に他大学のFD研修も受講した（2回）。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度は後期に着任したこともあり、各科目で指導をされている先生の補助として参加した。 令和7年度は主として担当する科目に対し、それぞれ下記の目標で指導にあたる。 ・プログラム演習Ⅰ 授業は解説と演習を交互に繰り返す形態となる。演習時は各学生の性格や習熟度を考慮し、適切な声掛けや指導を行う。 ・コンピュータネットワークⅠ・Ⅱ 座学の時間が長くないよう演習や課題発見・発表の時間を設け、自発的な学びとなるよう構成を工夫する。 ・基礎演習Ⅰ・Ⅱ 担当初年度となるため、まずは、ゼミとしての体制構築を行う。PBLを中心とし、課題解決と要素技術の獲得を並行して進める。 ・学生プロジェクト 担当初年度となるため、体制構築に注力する。基礎演習と近いテーマで開講する予定であり、相互補完する形態を目指す。	
---	--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：田近一郎
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

担当科目に共通する教育理念は、学生に①近年特に重要度を増した数理・データサイエンス・人工知能分野の知識体系・技術体系を身に付けていただき、②それらを新しいITシステムの社会実装に役立てていただくことである。具体的には、 ①モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、社会インフラのための情報システムの制作・運用にあたり必要不可欠となっているデータサイエンス・人工知能技術を応用したプログラムの開発ができる情報活用・分析能力、創作能力等のスキルを持ったシステムエンジニアになっていただく、 ②また、IT・情報システムの企画提案ができるために不可欠①に関わる広範囲の知識体系をもとにした分析能力、課題解決能力等のスキルを備えた情報ストラテジストになっていただく、ことである。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：統計学	講義とデータを用いた計算実習 ・対面授業で、すべての講義資料とレポートを電子化しWebClassに配置した。 ・また学生が単独でも理解できることを目指し、内容のコアの部分を丁寧に解説し、それ以外の内容を精選した資料とした。 ・またレポートは計算の習熟や統計学の重要概念を把握するために、式やキーワードで計算過程中の空欄を補充してもらう内容とした。
2.教育活動や教育業績 科目名②：アルゴリズムとデータ構造	講義とプログラム制作アプリ（「モバイルC」「piaza.IO」）を用いたプログラミング演習 ・対面授業で、すべての講義資料とレポートを電子化しWebClassに配置した。 ・学生が単独でも理解できることを目指し、内容のコアの部分を丁寧に解説し、それ以外の内容を精選した資料とした。またレポートはアルゴリズムの実装スキルの習熟のためのもの、アルゴリズムについての概念を把握するためにキーワードやプログラム文でプログラム中の空欄を補充するものを主とした。・iPadアプリ「モバイルC」「piaza.IO」を用いたプログラミング言語「Python」によるプログラミング演習。
3.教育活動や教育業績 科目名③：データサイエンス	講義とクラウドプログラミング開発環境（「Google Colab」）を用いたプログラミング演習および計算実習 ・対面授業で、すべての講義資料とレポートを電子化しWebClassに配置した。 ・学生の興味を引く題材を用いた解説、多変量解析で必須の考え方である散布図／単回帰直線グラフの作図など記入式プリントによる解説 ・Google Colab上での散布図の作成と相関係数の導出、単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析、因子分析などのPC演習 ・行列の掛け算や内積など統計の数学理論について詳しく解説し、計算実習をおこなった。
4.教育活動や教育業績 科目名④：知識情報学	講義とクラウドプログラミング開発環境（「Google Colab」）を用いたプログラミング実習 ・対面授業で、すべての講義資料とレポートを電子化しWebClassに配置した。 ・学生の興味を引く知的情報処理に関する記入式プリントによる解説に加え、Google Colab上でのマーケットバスケット解析、決定木解析、googleページランクなどのプログラミング演習。 ・進展の著しい自然言語処理についてword2vecによる文章の意味抽出のPC演習、BERT・GPTによるSNSデータの感情分析のPC演習。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：統計学	プリント・板書・モニタ提示の適切さが3.49～3.69（R5：3.47～3.82、R4：3.41～3.63）、授業の進み方、課題の量の適切さ3.61～3.65（R5：3.53～3.76、R4：3.54～3.72）、授業の理解度は3.34～3.54（R5：3.24～3.43、R4：3.36～3.42）、積極的出席・履修目標の達成・満足度は3.49～3.65（R5：3.51～3.59、R4：3.42～3.49）であった。各数値は理解度以外概ね昨年度と同等、理解度は昨年度より0.1上昇した。学生が授業後独習でも理解できることを目指し内容のコアを丁寧に解説し、それ以外の内容を精選した資料とした。その結果、数値は昨年度に比べて概ね維持できており一定の効果があるようだ。自由記述「プリントに具体的な計算過程や重要なところがきちんととまとられていて、とても復習しやすかった」等にも表れている。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：アルゴリズムとデータ構造	プリント・板書・モニタ提示の適切さが3.49～3.73（R5：3.22～3.79、R4：3.23～3.33）、授業の進み方、課題の量の適切さは3.40～3.64（R5：3.39～3.63、R4：3.30～3.40）、授業の理解度は3.18～3.31（R5：3.39～3.42、R4：3.03～3.23）、積極的出席・履修目標の達成・満足度は3.27～3.73（R5：3.32～3.47、R4：3.10～3.69）であり、理解度以外の各数値は概ね昨年度と同等であった。理解度について内容に関する枝葉の部分を簡略化して指摘のあったプリントの体裁（余白が少ない）を改善し記入しやすくしたことで、その数値は昨年度より0.1下降したが一昨年度より0.2高い結果となった。その他の数値は昨年度に比べて概ね維持できており一定の効果があるようだ。「プリントがわかりやすい・11件」等の自由記述が複数見受けられた。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：データサイエンス	プリント・板書モニタ提示の適切さが3.58～3.74（昨年度3.51～3.71、一昨年度3.50～3.80）、授業の進み方、課題の量は3.50～3.77（昨年度3.59～3.66、一昨年度3.60～3.75）であった。その結果、授業の理解度は3.00～3.43（昨年度3.18～3.29、一昨年度3.06～3.40）、授業の（積極的出席・履修目標の達成・満足度）はそれぞれ3.42～3.71、3.42～3.63、3.50～3.69（昨年度3.35～3.51、3.18～3.54、3.29～3.49、一昨年度3.44～3.45、3.50～3.65、3.45～3.56）であった。理解度は一昨年度のようにクラスによって大きく異なったが、人数の多いクラスの数値は0.1上昇した。行列の掛け算や内積など統計の数学理論について新たに詳しい解説をおこなった。授業理解度にはGoogle Colab導入と内容の精選の効果が表れていると思われる。「紙だけで授業を行うのではな<google Colabでグラフが作成されながら授業が進んでいったため分かりやすかった。」等の自由記述が見受けられた。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：知識情報学	プリント・板書モニタ提示の適切さが3.57～3.86（昨年度3.30～3.60、一昨年度3.57～3.71）、授業の進み方、課題の量は3.65～3.86（昨年度3.40～3.58、一昨年度3.65～3.71）であった。その結果、授業の理解度は3.48～3.50（昨年度3.40～3.44、一昨年度3.29～3.35）、授業の（積極的出席・履修目標の達成・満足度）はそれぞれ3.39～3.64、3.57～3.64、3.52～3.71（昨年度3.30～3.42、3.20～3.36、3.20～3.53、一昨年度3.29～3.45、3.42～3.43、3.43～3.58）であり、理解度は昨年度に比べ0.1程度上昇、履修目標の達成、満足度で昨年度に比べ0.2上昇した。授業理解度にはGoogle Colab導入と内容の精選の効果が表れていると思われる。「グラフや表を使うことで理解がしやすかった。」等の自由記述が見受けられた。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープニングクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業評価アンケート（統計学、アルゴリズムとデータ構造、知識情報学、データサイエンス）を実施した。 ・授業動画コンテンツ制作のための講習会に参加した。 ・学内の8月開催のFDフォーラム、3月開催のFDフォーラムに参加した。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度の成果：当該教員の専門分野であるデータサイエンス・人工知能の分野は発展のスピードが速く知識の陳腐化も進みやすいためそれらの分野の知識を継続的にアップデートしている。そして、それらの知識をもとにしたデータサイエンス・人工知能関連授業（専門演習・卒業演習含む）における理論の説明方法やプログラミング演習の方法もまた継続して改善している。学生は、2年次・3年次に履修したアルゴリズムとデータ構造・データサイエンス・知識情報学の各科目で学修した知識を直接用いて「SNSデータに基づく観光スポットの分析」「テトリスAIで利用するDQN深層強化学習モデルの改良について」等の優れた卒業研究をおこなっており、データサイエンス・人工知能技術を応用したプログラムの開発ができるためのスキルを身につけている。 令和7年度の目標は以下の通りである。 ○統計学 数年前から高校数学Iのデータサイエンスを学んだ学生が入学しているが、同じことの繰り返しである等の意見は見受けられず、自由記述「プリントに具体的な計算過程や重要なところがきちんととまとられていて、とても復習しやすかった」「問題一つ一つに解説があり、課題をする時に自分一人でも解きやすかった」等の自由記述から学生は「新鮮な内容の」授業科目として「統計学」を認識しているようだ。引き続き、高校の復習としての機能を保ちつつ、多変量解析を扱う2年次授業科目「データサイエンス」の基礎を固める汎用性の高い、実用性も兼ね備えたコンテンツを精選し、授業内容の向上をはかりたい。 ○アルゴリズムとデータ構造 「（拡大しすぎて）画面がぶれて見えないことがあった」「プリント自体に情報量が多く、見辛い印象を受けた」等の建設的意見があった。来年度は授業内容の精選だけでなく資料のまとめ方・表記方法やプレゼンの改善等の方策をとり満足度向上に努めたい。 ○知識情報学 文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育のカリキュラム導入のビジョンに沿う形で、引き続き機械学習／データマイニング／情報検索／自然言語処理／ディープラーニングに関連したGoogle ColabによるPC演習の拡充を進めたい。実際「講義時間外でPythonについて調べた。」等の意見に見られるように自主的にプログラミング言語の学習を始める学生が見受けられるので学生自ら考える余地の大きいPythonプログラミング課題を増やすなど、より実践的な演習にする。 ○データサイエンス 文部科学省による数理・データサイエンス・AI教育のカリキュラム導入のビジョンに沿う形で、引き続き散布図／単回帰分析／重回帰分析／因子分析／対応分析／ロジスティック回帰分析に関連したGoogle ColabによるPC演習の拡充を進めたい。「紙だけで授業を行うのではなくgoogle Colabでグラフが作成されながら授業が進んでいったため分かりやすかった」との意見が見られるのでこの科目についても学生自ら考える余地の大きい実践的なPythonプログラミング演習を拡充したい。大学院ではデータサイエンスに関する多様な内容の授業が展開されるため、学生が大学院授業に問題なく取り組めるよう数理統計／機械学習の数学理論に関する内容を増やす。Google Colab演習でもそのプログラムの背後にある理論を解説し分析手法の理解向上につなげる。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 教授	氏名： 田中 明子
------	---------------	--------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザー向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

世界に約7000あるといわれる言語の中からなぜ自分が母語について学び、第二言語として英語という言語を学んでいるのかを学生自身が考えるきっかけとなる講義・演習を行うことは、大学における英語教育の重要な役割の1つである。その役割を果たすための工夫の1つとして考えられるのは、講義・演習の中に学生が英語史や英語学の研究成果に触れることのできる機会を作り、それによって母語への気づきを促すことである。このような体験を通して学生が専門以外の科目の学びにも責任感を持って取り組み姿勢を身につけることができれば、大学での専門分野の学びもより豊かなものになると考えられる。同時に、大学における英語の講義は、学生が英語を使って自分の考えを明確に伝える力を身につけるための場としても重要な役割を担っている。その役割を果たすための工夫の1つとして考えられるのは、講義の中に学生がコミュニケーションの効果や意図を理解し適切に表現する能力を身につけるための実践的な活動を用意することである。このような活動を通して学生がグローバルな問題に関心を持つことができれば、それらの問題を解決したり他者と協働するためのコミュニケーション力を育むことができると考えられる。このような理念に基づき、英語の講義は継続的な英文作成に焦点を当て、フードビジネス学科の演習は商品名に観察される音象徴に焦点を当てる。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：プラクティカル・イングリッシュⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	英語の歴史、母語獲得と第二言語習得の違い、翻訳ツールの仕組みなどに関する講義を行う。基礎的な英語力を強化するための解説と実践指導を行い、すべての教材をWebClassに掲載し、講義の資料をWebClassで公開する。毎回提出される英文に対して個別の添削を行う。毎回提出される会話文に対して個別の練習を行う。
2.教育活動や教育業績 科目名②：フードビジネス・イングリッシュⅠ、Ⅱ	英語がフランス語から受けた影響やイギリスの食文化について、英語史の視点から講義を行う。専門的な英語力を強化するための解説と実践指導を行い、すべての教材をWebClassに掲載し、講義資料をWebClassで公開する。毎回提出される英文のレシピや企画書に対して個別の添削を行う。英語によるメニュー提案のプレゼンテーションの指導を行う。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習、研究発表	音象徴について講義を行う。商品名調査の手法と、音声分析の手法を解説する。学生が自ら輪読会や討論会を運営できるよう事前打ち合わせを行う。アンケート調査および分析を指導する。共同の研究発表会と個別の卒業論文執筆に向けた指導をする。稲沢市図書館および名古屋図書館での絵本の会の企画を指導する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：フードビジネス学入門	予習課題として行なったWebClassアンケートをもとに、ヒトの言語の機能、英語の歴史、翻訳ツールの仕組みについて講義を行い、フードビジネス・イングリッシュを学ぶことの意義や心構えを解説する。知識の定着のための授業課題としてWebClassに教材を掲載する。復習課題としてレポートを課し、WebClassの機能を活用して、フィードバックを行う。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：プラクティカル・イングリッシュⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ	必修科目のアンケート項目の平均値は3.14から3.86、理解度の平均値は3.13から3.67であった。学生にとって学びやすい講義の進め方になっていたと考えられる。教科書に関する項目の標準偏差が大きいクラスは理解度に関する項目の標準偏差も大きいことから、e-Textを効果的に使うことができたかどうかによって、理解度の感じ方に差が生じた可能性がある。自由記述からはWebClassにすべての資料と教材を掲載していることが、計画的に課題に取り組み、理解を深めるきっかけになった要因であることがうかがえる。毎回行う個別の英文添削や個別の英会話練習にも前向きに臨み、使用語数の増加が見られた。WebClassの資料とe-Textを関連させて使うことを意識した授業の構成が今後の課題である。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：フードビジネス・イングリッシュⅠ、Ⅱ	アンケート項目の平均値はいずれも3.50以上であった。学生にとって学びやすい講義の進め方になっていたと考えられる。教科書に関する項目と理解度に関する項目の標準偏差が、他の項目の標準偏差より大きかった(0.82, 0.89)ことから、配布物やWebClassの資料の使いやすさと、授業の難易度については、学生によって感じ方が異なった様子が伺える。自由記述からはWebClassにすべての資料と教材を掲載していることが、積極的に課題に取り組み、理解を深めるきっかけになったことがうかがえる。また、毎回行う個別の英文添削を通して、学生自身が伝えたいことをことばにする達成感が得られたことも伺えた。より使いやすい授業資料の配布・配信が今後の課題である。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：基礎演習Ⅰ、Ⅱ	授業評価アンケートなし。個人研究のための個別指導や、図書館での絵本の会のための個別朗読指導などの際に、ゼミ活動や研究の中で困っていることなどを聞き取った。授業時間外に熱心に質問に来る学生も多かったが、授業内・外の時間に、学生どうしが教え合う姿が見られたことは、学生が自発的にゼミ活動にに取り組んだことの表れだと考えられる。また、市内の店舗との新商品開発コラボを行ったことにより、チームごとに協力して課題を進める力も伸びたと考えられる。学生にとって、ゼミの中で行う研究、絵本の会、商品開発が、1つにつながる実感を得られるよう演習を構成することが今後の課題である。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：フードビジネス学入門	授業評価アンケートなし。オムニバス形式の授業の1回分を担当。予習課題と復習課題を課すことによって、講義の日の前後1週間ずつをWebClassを通した学生とコミュニケーションに充てた。復習課題とレポート課題への取り組みからは、興味を持って講義に臨む学生の姿がうかがえたが、WebClassのアンケートからは予習課題に取り組んでいなかったり、その日限りの取り組みとなる学生がいたことも明らかになった。今後も、15回の授業全体の中でその担当回の位置付けを明確に伝え、担当授業回の中でレポート課題の指導ができるよう、講義の構成を修正することが今後の課題である。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	アンケート：毎回の個別英文添削と個別英会話練習の時間を利用して、学生から講義に対する希望や、講義に困難に感じる点を聞き取った。WebClassのアンケート機能を利用して、学生から演習に対する希望や、演習中に困難に感じる点を聞き取った。 FD講習（学外）：一般社団法人「ことばの教育」主催・共催の講演会等に参加した。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度の実践例：WebClassの機能を利用した教材の作成と掲載、音声付き授業資料のWebClass掲載、WebClassとiPadを活用した発音クリニックの実施。個別の英文添削、個別の英会話練習。英文レシポ発表会の実施。基礎演習終了報告論文のピアレポートの実施。カレーバン専門店との新商品開発コラボとネーミングと、それらの事前指導。カレーフェスティバル2024への参加とその事前指導。稲沢市中央図書館、名古屋市中央図書館、山田図書館、北図書館での「英語で楽しむ絵本の会」「英語のおはなし会」実施、その事前準備指導。TOEIC IP 対策の実施。 令和7年度の目標：WebClassの機能を利用した予習復習教材の改良と、取り組みを促すための工夫の追加。WebClassの機能を利用した授業内教材の改良。個別の英作文および英会話指導に対するWebClass上でのフィードバックの実践。英文メニュー発表会とピアレポートの実施。商品名と日本語音声に関する研究指導と、基礎演習終了報告論文のピアレポートの実施。絵本の会のための朗読、発声・発音指導の実施。TOEIC IP対策の実施。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 谷口 泉
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

食は多面的で専門性が求められる領域です。その中で、フードビジネスに必要な基礎知識を体系的に学び、専門的なスキルと実践力を身につける重要性を感じています。講義では課題を見つけて解決する力や、効果的に伝えるコミュニケーションを育みます。実習では、倫理観や責任感を大切に、協働する力や自ら考え行動する姿勢を養います。学んだ知識や技術を活かして、実際の課題に取り組む力を身につけられる教育を心がけています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： フードコーディネート実習	本実習では、フードコーディネーターに必要なフードスタイリング技術の向上を目指します。フードスタイリングの基本技術を体系的に習得することは、視覚的情報を通じて料理の魅力を最大限に引き出す上で、極めて重要です。テーマ（菓子、パン、麺、郷土料理、各国料理など）に基づくアプローチは、各ジャンルにおける具体的な特性を探究し、多様なフードスタイリングに対応可能な実践力を養うことができます。
2.教育活動や教育業績 科目名②： フードコーディネート論 応用フードコーディネート論	本講義では、フードコーディネーター資格の取得に必要な4分野（文化、科学、デザイン・アート、経済・経営）の基本的な知識を学びます。フードコーディネーターとして食品産業全般における企画立案や実践的な業務に対応できる能力を涵養します。
3.教育活動や教育業績 科目名③： 栄養学	フードスペシャリスト養成課程における「栄養学」は、質のよい安全な食品により、食生活を楽しむ、よい健康・栄養を保持することを目的としています。基礎的かつ新たな「栄養と健康」に関する正しい知識を身につけ、健康と食に関する情報の真偽や有効性を的確に評価し、選択できる力を養います。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： フードコーディネート実習	授業の理解度および満足度の両方が、大学全体の平均値を上回る結果となりました。自由記述では、「アドバイスをくれるのが良かった」、「説明が丁寧でわかりやすかった」といった肯定的な意見が多く寄せられました。特に、実習中は韓国料理に関する質問が多く見られました。来年度に向けては、料理の文化的・歴史的背景への理解を深め、質の高い料理写真やレポートの作成につながるよう、授業内容や教材の改良が必要であると感じています。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： フードコーディネート論 応用フードコーディネート論	授業の理解度および満足度の両方が、大学全体の平均値を上回る結果となりました。自由記述では、穴埋め形式のプリントや課題について肯定的な意見が多く寄せられました。一方で、課題の作成時間を増やしてほしいとの要望もありました。この点については、事前にWebClassに課題を掲載するなどの方法で改善を図りたいと考えています。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： 栄養学	授業の理解度（1・2組）と満足度（1組）の両方が、大学全体の平均値を上回る結果が得られました。しかし、1組における授業の満足度は、大学平均値を若干下回る結果となりました。自由記述では、講義の進め方に関する意見が二極化していたため、WebClassをさらに活用し、各自が学びやすいペースに合わせて授業を進められるよう改善を図り、満足度の向上に努めていきたいと考えています。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業評価アンケートの実施、授業内容に関する研修会の参加など。
-------------------------	--------------------------------

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

授業評価アンケートにおける各授業の理解度および満足度は、おおむね大学平均を上回る結果を得ることができました。今後も、学生との積極的なコミュニケーションを重視し、必要な改善点には迅速に対応することで、授業内容の向上に努めてまいります。また、レポートのフィードバックを丁寧に行い、学生一人ひとりの成果や進捗を把握しながら、適切なサポートを提供することで、学習意欲や理解度のさらなる向上を図ります。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 准教授	氏名： 堤 浩一
------	---------------	---------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を推進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

学びに対して誠実であること。誠実であることが【立学の精神】の「世界から信頼され」、「自由と責任を重んじ」、「特に品性を高め」ることにつながっていると信じている。 また知識だけでなく、知恵、すなわち知識を生かした"考え方"のほうを重視するように心がけている。こういった、知識の"使い方"を多く知ること、知識をより深い理解に基づいて身につけることにつながり、これがすなわち【立学の精神】の「学問を通して知識技術を磨く」ことであると考えているため。と同時に、「正しい歴史観と人生観を培う」ことにもつながると信じているため。また、現場で知識が使われているということは、そこにあった問題が解決された結果であるので、知識の使われ方の事例を多く知ことはすなわち問題解決の事例を多く知ることと同義である。したがってこのような教育をおこなうことで【ディプロマポリシー】の「実践力を身につけ」「課題発見力を有し」「問題解決力を身につける」ことにもつながると考えている。 そして、学生自身が自己完結する形で知識技術を磨くだけでなく、プレゼンテーションの場を設けて他者からの質問にさらされる機会を与えることで、自分自身を"修正する"機会も提供する。これにより自己の主張を客観視できるようになり、より「正しい歴史観と人生観を培う」こと（【立学の精神】）、および「問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけ」、「社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけ」ること（【ディプロマポリシー】）につながると考えている。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： 食品学I、食品学II、食品衛生学	座学科目である。教科書レベルの知識をできるだけ噛み砕いて解説することを心がけている。勉強を苦手とする学生が、対策が必要なレベルの数受講していると想定されるのでそのフォローアップにも配慮している。具体的には以下のような取り組みをおこなっている。 ・実際の事例や最近のニュースと結び付けて教えることで、授業で習う知識が現実の知恵として生かされている、すなわち知識だけでなくその"使い方"まで繋げて教えることで理解しやすくなるように配慮している。上記のとおり「実践力」「課題発見力」「問題解決力」（【ディプロマポリシー】）にもつながると考えている。 ・空欄を穴埋めする形式のプリントを配付している。穴埋めすればノートとして完成するようにしてあり、ノートというものの一つの見本となることを目指している。 このプリントを参考に、他の授業でもノートが取りやすくなるようになればとも考えている。 ・可能な限り、他の科目と関連する話題については、その旨を紹介するようにしている。フードビジネス学科の多くの科目で学ぶ知識はお互いにつながりがあることを示すことによって「フードビジネスの基本を体系的に理解」（【ディプロマポリシー】）することにつながると考えている。そのために、自分が担当していない科目の教科書やシラバスも余裕のある時にチェックしている。 ・毎授業で感想を書いてもらうことで、少しでも授業内容を覚えて帰ることができるようにしている。また質問も書いてもらい、次の授業時にそれに対して答えることで、各学生自身の個別の知識に基づいて、その"使い方" "考え方" につながるように対応している。 ・学生が知識を実際に"使う" 機会を与えることにより「知識技術を磨く」（【立学の精神】）ための実践ができるように、WebClassにいつでも繰り返し挑戦できる練習問題を設置している。本学科がフードスペシャリスト養成認定校であることに鑑み、フードスペシャリスト資格試験の過去問の第1回から最新の回までの、食品学、食品衛生学に関連する問題をすべて網羅しているものである。「定期試験対策にもなる」という呼びかけもおこなっているが、学生の利用率は極めて低い。 業績は特に無い。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 食品学実験	実験実習科目である。毎授業、実験内容の解説を書いたプリントを配付し、学生には測定結果と考察を記入してもらう。そのプリントを回収、採点し、返信や解説を入れて、次週に返却するというスタイルをとっている。また文字情報だけでは通じにくい面が多い授業であるので、実験を実演している様子を見せる動画教材を用意し、WebClass経由でYoutubeで限定公開している。授業1週間程度前には公開し、学生が予習できるようにしている。 レポート採点評価の際は、得られたデータに基づいて考察できているかを重視している。どのような考察をすべきかは、ある程度は授業中に解説している。正しくない考察に対しては、なぜ正しくないのか解説のコメントを入れたうえで各学生に返却することで個別対応している。このように「考察する」という行為を通して知識を正しく運用する体験をしてもらうことにより、座学系科目では実施できない方法で知識を生かした"考え方" が身につく、すなわち「学問を通して知識技術を磨く」（【立学の精神】）ことにつながると考えている。また、授業時間中に「体験」してもらいたいため、考察を書く手が止まっている学生にはできるだけ積極的に声をかけ、どこまで理解できているかを会話から伺い知ったうえで可能な限り程よい助言を与え、筆が進むようにしている。 インターネット検索の利用も認めているが、測定データとの整合性が取れない考察については、たとえ（本来あるべく通りの実験データが得られていれば）正解と言えものだったとしても注意を与えるようにしている。実験データに対して誠実に向き合うことを追求することで、「世界から信頼され」「自由と責任を重んじ」「特に品性を高め」（【立学の精神】）ることができるようにと考えているためである。またこうすることで学生に「厳しすぎる」「わけが分からない」という印象を抱かせないように、可能な限りすべての事項に対して理由を付けて学生に説明するようにしている。学生が「理不尽に感じる部分が無いように心がけ、誠実さの追求とリーズナブルであることが両立するようにしている。」 業績は特に無い。

3.教育活動や教育業績 科目名③: フードサイエンス基礎	高校までに理科系科目を十分に履修してこなかった学生が一定数いることを想定されるので、そういった学生が食品学や栄養学などフード系の理系科目の理解がしやすくなるように、化学・生物学の基礎的な事項について解説する。1年生前期に開講している。高校までに理科系科目を十分に履修していても馴染めるよう、座学授業の中に、一般的な講義室でも実施できる小規模な実験や、簡単な演習問題を織り込み、実際に手を動かしてもらうことに重点を置いている。また実験・演習中に教員が学生卓の間を巡回し、学生の理解度・進捗度に応じて個別指導をおこなうことや、学生同士の相談も可とすることで、知識が定着しやすくなるように配慮している。基本的な理念は上記同様、「知識技術を磨く」(【立学の精神】)・「フードビジネスの基本を体系的に理解」(【ディプロマポリシー】)を実現しやすくなるように設置した科目である。 学生に“無意味な理科教育をされている”という印象を持たせないための配慮として、各事項が、食品学等のどのような項目と関連しているかの情報も常に付随させている。 業績は特に無い。
4.教育活動や教育業績 科目名④: 基礎演習Ⅰ・Ⅱ	調べものが中心となる演習科目である。 学生自身が決めたテーマに沿って、各々が主に図書館にある書籍を読み、その内容をまとめてプレゼンテーションをおこない、他の学生からの質問を受けるという内容の授業をおこなっている。学生自身で調べ物を進め、それを発表できる形にまとめることで「学問を通して知識技術を磨く」(【立学の精神】)、「主体的に学習に取り組む、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけ」(【ディプロマポリシー】)ることにつながるかと考えている。質問にさらされることにより、謙虚に自身のまとめた内容を見つめ返すことができるので、「品性を高め、正しい歴史観と人生観を培う」(【立学の精神】)ための素地を作ることにもつながると考えている。また調べた内容を一つの発表として話をつなげるには「体系的」であることが必要になるため、「フードビジネスの基本を体系的に理解」(【ディプロマポリシー】)することにつながるかと考えている。教員から質問・助言を与えることで、学生自身では気づきにくい“体系的”にするための視点や方法を提供できるように心がけている。 また、教員自身も同様に調べ物をしてプレゼンテーションをおこなうことで、具体的にどのようにプレゼンテーションを作成していくかが分かりやすくなるようにしている。適宜、プレゼンテーション作成に関わるアプリ等の使用方法やプレゼンテーションテクニックなども紹介し、学生が使える表現方法が増えるように配慮している。 業績は特に無い。
5.教育活動や教育業績 科目名⑤: 専門演習Ⅰ・Ⅱ	食品学・食品衛生学に関連した実験をおこなう。実験自体は食品学実験でもおこなっているが、演習系科目は受講人数が少ないことを利用して、設備やコストの関係で実習系科目ではおこないき、やや高度な実験を中心にこなしている。加えて、実験レポート執筆のための個別指導をおこなう時間も設けやすくなっている。 材料として身近な食品を利用しつつ、実験をおこない、実験レポートをゼロから書く訓練を積む。実験の中で関連する食品学・食品衛生学の知識を復習するとともに、復習したその知識を実際に“使う”機会を提供するという点は食品学実験と同じであるため、食品学実験と同様に「学問を通して知識技術を磨く」と同時に、「世界から信頼され」「自由と責任を重んじ」「特に品性を高め」ることができると考えている(【立学の精神】)。また、できるだけ分析してみたい(=課題解決してみたい)実験材料を学生に持ち寄ってもらう機会を提供することにより、「課題発見力」「解決力」を身につけてもらうきっかけとなると考えている(【ディプロマポリシー】)。 実験レポートは“問題提起し、それを検証するための方法を示し、得られた結果をもとに、提起した問題をどこまで解決できたかを考察する”文書であるため、これをゼロから組み立てる経験を積むことは、研究論文を書く際の練習ともなる。したがって、卒業演習・卒業研究の下地ともなっていると考えている。また、断片的な知識を組み立てて論理的な文に仕上げることは、知識を「体系的に」する体験にもなると考えている(【ディプロマポリシー】)。 業績は特に無い。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①: 食品学Ⅰ、食品学Ⅱ、食品衛生学	3科目5コマの授業評価の理解度平均は3.40±0.21、満足度は3.63±0.09である。毎期出される全学の授業評価アンケートの点数分布と比較してきた経験から、学内の他の科目と比べて平均的な水準であると思われる。理科系科目になじみのない学生が多いことを考えれば、悪くはない成績であると考えて良さそうではある。 授業評価の自由記述に「クラスメイトの質問の答えで色々な知識をつけることができてよかった」「プリント、スライドが分かりやすい」「説明が分かりやすい」とあることから、上記の取り組みは学生の理解度向上に有効であることが示唆される。「普段料理を作るとき役に立ちそう」など、知識を実際に運用してくれているようでもあり、上記教育理念やそれに基づく取り組みの少なくとも一部は実現できていると考えられる。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②: 食品学実験	授業評価の理解度は3.63、満足度は3.68である。毎期出される全学の授業評価アンケートの点数分布と比較してきた経験から、学内の他の科目と比べて平均的な水準であると思われる。理科系科目になじみのない学生が多いことを考えれば、悪くはない成績であると考えて良さそうではある。 授業評価アンケートの自由記述に「実験方法の解説が分かりやすい」「先生方が生徒のことを見ていて、聞いたことを詳しく教えてくれるのでとても勉強になった」「プリントが分かりやすい」などの声があったので、上記教育理念やそれに基づく取り組みの少なくとも一部は実現できていると考えられる。また「きちんと予習して取り組んだ」「解説をYoutubeにアップされていたのが事前学習に役立った」などの声もあり、予習用動画教材を作っておく意味があることも伺えた。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③: フードサイエンス基礎	2コマの授業評価の理解度はそれぞれ3.23と3.35、満足度は3.50と3.61である。毎期出される全学の授業評価アンケートの点数分布と比較してきた経験から、学内の他の科目と比べて平均的な水準であると思われる。理科系科目になじみのない学生が多いことを考えれば、悪くはない成績であると考えて良さそうではある。 授業評価の自由記述に「先生が質問、疑問に答えてくれるのが良い」「基礎が理解しやすかった」「高校では理解できなかった部分が理解できた」など、学生の理科系科目に対する理解向上に資するという本授業設置した目的が達成されている様子が伺えた。「興味がそそられた」「食品のいろんなことが知れて楽しかった」といった声もあり、基礎的な理科の話を食品・栄養に結び付けて解説した点も評価されたようだ。上記教育理念やそれに基づく取り組みの少なくとも一部は実現できていると考えられる。 また「実験ができて楽しかった」「もっとやってみたい」といった声もあり、簡易な実験を授業中におこなうことに対する需要もありそうであった。 「友達と話し合いながら課題に取り組めた」など、実験・演習を「相談可」の状態でおこなった試みも評価されているようだ。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④: 基礎演習Ⅰ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ	授業評価アンケートが取られていないので、省察の根拠にできる資料が無い。学生の反応を書くにしても根拠は主観しかない。ただの主観や妄想を省察として書く意味は無い。ゆえにここに書くことは何も無い。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業評価アンケートをとり、その結果に基づいて「総括と意見」を作成、提出した。その他には、私の関与する範囲内において、FDすなわち「組織的な取組」としては特に何もおこなわれなかったの、「授業改善のために行ったFDの取り組み」としても特に何もしなかった。「個人として」の取組を素直に進めたのみであった。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

平年通りであり、教育に関する成果・業績と呼べるものは特に無し、必要も無いと考えている。 成果・業績を上げることよりも学生にとってより良い成長をもたらす授業をおこなうことが重要であると考えているので、次年度も授業評価アンケート等学生の反応が見えるものを参考に、これまでの授業内容を維持・拡張できるようブラッシュアップに努める予定である。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 教授	氏名： 中村麻理
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

フードビジネス学科のディプロマポリシーを教育理念としている。具体的には下記の通り。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。	1.
---	----

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：フードスペシャリスト論	フードスペシャリストとは、流通から消費にいたる過程で、食品の品質判定、食品の情報調査とその提供、食品知識の普及教育、販売促進とサービス、料理店におけるコーディネート、消費者のクレーム処理など、食べ物について総合的に良品を選定し、コーディネートする専門職である。ここでは、フードスペシャリストの意義とその概要について講義する。卒業後のフードビジネスの現場において役立つ基本的な知識を習得するとともに、最終的にはフードスペシャリスト資格の取得に必要な基礎力を身につける。
2.教育活動や教育業績 科目名②：食文化論	古くから食はさまざまな地域に根ざし、人々の生活の中心としての食文化を生み出してきた。世界の食文化は、それぞれの時代背景の中で進化し、異なる自然環境の中で受け継がれてきた。ここでは、日本と西洋の食文化を学ぶことを通じて、食の世界のおもしろさ、奥深さを感じていただきたい。授業の後半では、演習的な課題も取り入れることとしたい。日本料理とフランス料理を中心に、それぞれの歴史と献立について、フードコーディネーターにとって必要とされる知識を身につけることができる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：フードプランニング	フードビジネスの第一線の担い手としてのフードスペシャリストには、さまざまな専門知識が必要とされる。ここでは、食情報の探索と食企画、食空間のコーディネート、メニュープランニング、フードマネジメント、食環境とフードシステム等に関する基本的な知識について講義する。卒業後のフードビジネスの現場において役立つプランニングのための基礎知識を身につけることができる。最終的にはフードスペシャリスト資格の取得につなげる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：食社会学	本講義では、現代日本の食生活を社会的に考察する。キーワードは食育である。最終的には、フードビジネスの現場における食企画の立案につなげる。フードビジネスの現場では、食育に関する網羅的な知識を持つ人材が必要とされている。この要望に応え、本講義では食育に関する基礎知識を身につける。これらの知識習得を通じて、社会人に必要な基礎能力の訓練も行う。最終的には食育に関する提案のできる人材の育成につなげる。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：フードスペシャリスト論	フードスペシャリスト論は、フードスペシャリスト資格取得の導入科目である。資格試験対応であるため、理解度が課題であるが、「11. 授業の内容が理解できた」は3.68で、昨年の3.8よりやや下降した。「12. この授業に満足している」は3.73、去年3.93であったが、一昨年とほぼ同じである。自由記述では、「わかりやすい」というコメントが複数見られた。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：食文化論	食文化論の「11. 授業の内容が理解できた」の昨年の平均値は3.71であった。昨年は3.8であったので、やや下降している。「12. この授業に満足している」の平均値は3.84、昨年は3.77であった。自由記述では、「わかりやすい」というコメントが多く見られた。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：フードブランニング	「フードブランニング」については、「12. この授業に満足している」が3.77、「11. 授業の内容は理解できた」が3.73であった。昨年より数値が上回っている。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：食社会学	「食社会学」では、「12. この授業に満足している」が3.81で、昨年の3.76より上昇した。「11. 授業の内容は理解できた」は3.84で、昨年の3.64より上昇した。自由記述では「よかった」という記述が多く見られた。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業評価アンケートの結果を精読し、次年度につなげている。
-------------------------	------------------------------

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

・食文化論では、複数回的小テストを実施し、自宅での学習習慣を学生に身に着けてもらうように工夫した。ノートのチェックなども行い、学習意欲の向上を図った。 ・フードスペシャリスト論でも、小テストを実施し、3年で受験する資格認定試験の合格率アップに備えた。ノートのチェックなども行い、学習意欲の向上を図った。 ・フードブランニングは資格試験対応授業なので、練習問題を宿題としている。 ・食社会学では、視聴覚教材や演習課題を取り入れ、実践的な授業内容になるようにしている。さらに小テストを複数回行い、理解度の向上に努めている。	
---	--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：成田 裕一
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

管理栄養士として必要な知識の礎となる基礎栄養学分野の知識を、身につける。講義と実験の内容を連携させ、講義で学んだ内容を実験で、実験で身につけた知識を次年度の講義でさらに発展させる形で確実に知識を積み上げていく。これらにより、応用系の科目の履修に必須な「使える知識」を身につける。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：栄養学I	栄養学の基礎的知識を修得し、人々の健康の維持増進や、生活習慣病の予防などについて理解できるようになる。 栄養の基礎概念と、三大栄養素について化学的な特徴と働きを理解し、実際の生活やその後の学修に活用できるようになる。
2.教育活動や教育業績 科目名②：栄養学II	人々の健康の維持増進や、生活習慣病などの予防のための栄養学の基礎的知識を修得する。 五大栄養素のうちのビタミン、ミネラルについて、および水や食物繊維についても化学的な特徴と働きを理解し、実際の生活やその後の学修に活用できるようになる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：栄養生化学	食べ物に含まれる栄養素について、体に取込まれた後どのように代謝されていき、エネルギーや体の構成成分になるのか、またそれらが食後と空腹時でどのように変化するかを理解し、実際の生活やその後の学修に活用できるようになる。
4.教育活動や教育業績 科目名④：基礎栄養学実験	基本的な実験技術を習得するとともに、各臓器の機能や病気との関係、脂質代謝の詳細について理解できるようになる。 また、実験レポート作成の基本を身につけるとともに、生命の尊厳についても考えられるようになる。 これらはいずれも、人々の健康の維持増進、生活習慣病などの予防のため、科学的かつ実践的な能力を豊かに発揮できる管理栄養士には欠かせない知識と技術である。
5.教育活動や教育業績 科目名⑤：栄養生化学実験	基本的な実験技術を習得するとともに、各臓器の機能や病気との関係、たんぱく質の機能について理解できるようになる。 また、レポート作成の基本を身につけるとともに、生命の尊厳についても考えられるようになる。 これらはいずれも、人々の健康の維持増進、生活習慣病などの予防のため、科学的かつ実践的な能力を豊かに発揮できる管理栄養士には欠かせない知識と技術である。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：栄養学I	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。授業内で3回ずつの小テストを実施している。自由記述において、定期的な復習をする良い機会となると肯定的な意見が多かったため、今後も継続していきたい。 また、授業動画をwebclassにアップすることを継続して行っている。アンケートでの自由記述でも、復習などに役立ったとの声が複数あったため、有用であると考えている。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：栄養学II	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。授業内で3回ずつの小テストを実施している。自由記述において、定期的な復習をする良い機会となると肯定的な意見が多かったため、今後も継続していきたい。 また、授業動画をwebclassにアップすることを継続して行っている。アンケートでの自由記述でも、復習などに役立ったとの声が複数あったため、有用であると考えている。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：栄養生化学	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。授業内で3回ずつの小テストを実施している。また、授業内容の理解を助ける目的で、各回の予習として「1,2年生で学修したはずの知識」について復習してもらう機会を設けている。さらに、授業スライドや配布プリント、練習問題を基礎、応用、発展の3段階に細かくレベル分けし、学生自身がどこに注力するかを判断して学修できる体制を構築している。自由記述において、これらはいずれも学修の役に立ったと肯定的な意見が多かったため、今後も継続していきたい。 また、授業動画をwebclassにアップすることを継続して行っている。アンケートでの自由記述でも、復習などに役立ったとの声が複数あったため、有用であると考えている。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：基礎栄養学実験	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。「一年生で学習した内容の復習である」点を強調して、内容の解説を行うことを継続している。理解度も高い水準を維持することができており、また最終のまとめレポートや授業内テストをみても理解を深めることができていると考えられる。自由記述においてもその点を理解したコメントが複数見られたため、継続していきたい。
5.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名⑤：栄養生化学実験	理解度、満足度ともに、これまでと同様の高い評価を維持することができた。「一年生で学習した内容の復習である」点を強調して、内容の解説を行うことを継続している。理解度も高い水準を維持することができており、最終のまとめレポートや授業内テストをみても理解を深めることができていると考えられる。さらに、自由記述においてもその点を理解したコメントが複数見られたため、継続していきたい。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	各回の授業時に学生からのコメントを自由に記入できる体制の整備、および期末の授業評価アンケート
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

授業動画の作成及びwebclassへの公開と、小テストの実施、復習の機会を設けるなどの対応は、手間がかかる作業ではあるものの、学生に対してのメリットが大きいと考えられるため、今後も継続していきたいと考えている。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチャング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：准教授	氏名：朴永孝
------	-------------	--------	--------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。 「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私は、学生が問いを立て、他者と対話しながら新たな意味を創り出す「探究」と「共創」のプロセスを重視しています。名古屋文理大学の立学の精神にある「自由と責任」の理念は、自己決定に基づいた学びのあり方と深く関わっており、学生が自分の意志で学ぶことを支える基盤だと捉えています。 情報メディアという領域では、技術や表現方法が絶えず変化していきます。私は演習やプロジェクト形式の授業を通じて、学生が自分の表現に責任を持ち、それを他者と交差させながら思考を深めることを目指しています。学びの成果が単なる作品制作にとどまらず、個人の視点や社会へのまなざしを育むきっかけとなることを理想としています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：基礎・専門演習	「基礎・専門演習」では、1年次から4年次にかけて段階的に、学生の探究力・表現力・発信力を育成することを目的としています。特に情報メディア分野において重要となるUI（ユーザーインターフェース）、UX（ユーザー体験）、グラフィックデザインなどの領域を意識しながら、基礎的な思考と制作スキルを磨いていきます。 1・2年次の基礎演習では、情報メディア分野における学びの基本的な型を身につけることを目指し、課題の捉え方、調査・分析、記録と振り返りの方法など、大学での学びの基盤となる力を育てています。ビジュアルスケッチや観察を通じた考察、ユーザー視点での課題設定などを取り入れ、表現と構造の関係を理解する力を養います。 また、制作に対する一方通行の答えを避け、フィードバックや対話を通じて意味を再構成するプロセスを重視しています。自分の表現を他者に伝える力だけでなく、そこに込めた意図や文脈を読み解く力も育てながら、メディアデザインに必要な基礎的なスキルと姿勢を身につけることを目指しています。
2.教育活動や教育業績 科目名②：メディアデザイン演習Ⅰ	この科目では、UX（ユーザー体験）やUI（ユーザーインターフェース）に関わる基礎的な視点を取り入れながら、メディアデザインのプロセスを体験的に学ぶことを目的としています。特に、「意味がどのように伝わるか」「どのような視覚的判断が行動を導くか」といった問いを通して、デザイン的思考の基礎を養成しています。 授業では、観察・記録・分析といったビジュアルシンキングの技法を活用しながら、アイデアを視覚的に展開する演習を行います。学生は、社会的または日常的なテーマに対して、自ら問いを立て、アイデアスケッチから構成・制作・発表までの一連のプロセスを経験します。その過程で、個人の視点だけでなく、ユーザーや他者の視点を想像しながら構造や表現を選択する感覚を身につけていきます。 また、制作に対する一方通行の答えを避け、フィードバックや対話を通じて意味を再構成するプロセスを重視しています。自分の表現を他者に伝える力だけでなく、そこに込めた意図や文脈を読み解く力も育てながら、メディアデザインに必要な基礎的なスキルと姿勢を身につけることを目指しています。
3.教育活動や教育業績 科目名③：映像制作演習Ⅱ	この科目では、リアルタイム映像制作とプログラムの発想による表現技術を学ぶことを目的としています。ノードベースのビジュアルプログラミング環境であるTouchDesignerを使用し、Proceduralな思考を通して、映像表現の構造や動的な制御に対する理解を深めていきます。 授業前半では、基本的なノード構造やインターフェースの操作に加え、時間制御・フィルター処理・エフェクト設計などの技術的基礎を学びます。中盤以降では、自分のアイデアをどのように「仕組み」として構成するかを重視し、視覚的な動きや変化をリアルタイムで生成する方法を体験的に習得します。
4.教育活動や教育業績 科目名④：デジタルファブリケーション	この科目では、デジタル技術を活用した立体造形の基礎的な知識と技術を学ぶことを目的としています。レーザーカッターや3Dプリンターを用いながら、設計・出力・改良といったプロセスを体験的に学び、アイデアを具体的な形にするための実践力を育てています。 授業前半では、Illustratorを用いた2Dデザインや、Shapr3DやWompなどを活用した3Dモデリングの基本操作を学びます。中盤以降は、制作と改良を繰り返す演習を通じて、素材の特性や構造、精度への理解を深めながら、形と機能の関係を考察していきます。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：基礎・専門演習	
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：メディアデザイン演習Ⅰ	後半に実施したグループワークでは、進行に苦勞するチームが多く、課題量や作業時間、メンバー間の意欲の差が影響していたと感じました。特にスケジュール調整の難しさや場所の確保に課題があり、進行の停滞が起こる場面が見られました。オンラインによるグループ作業などの工夫を行いました、十分な効果は得られませんでした。今後は、課題構成や進め方、グループの組み方などを柔軟に見直し、学生がより主体的に関われる設計を目指します。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：映像制作演習Ⅱ	TouchDesignerという特殊なツールに取り組む授業であり、操作や概念の難しさに戸惑う声が一定数見られました。一方で、リアルタイム処理やノードベースでの制作に新鮮さや面白さを感じる学生も多く、挑戦的な内容として意欲的に取り組む姿勢がうかがえました。英語表記のインターフェースや技術的な知識が求められる点で不安を抱える学生には、より丁寧な導入支援が必要だと感じています。次年度は技術面の補助資料の充実や、段階的な課題設計を意識して進めたいと考えています。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：デジタルファブリケーション	3Dプリンターやレーザーカッターを用いた制作に対しては高い関心が寄せられ、積極的に手を動かす学生が多く見られました。ただし、操作手順の多さや慣れない設計ツールの扱いに時間がかかり、理解や作業の進行に個人差が大きくなったことが課題です。特に最終課題では、時間配分やテンポに関する不満もありました。次年度はベース配分を丁寧に行いながら、学生のスキルに応じたサポートや、マテリアルの扱い方に関する補足説明の充実を図りたいと考えています。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	本年度は、授業評価アンケートの結果をふまえ、講義の進行やスライド構成、グループワークの進め方などに継続的な改善を加えてきました。語彙力の強化や講義前のリハーサル実施、スライドへの補足情報追加などを通じて、伝わりやすい講義づくりを意識しています。 また、授業外の実践機会として、ランボルギーニの映像制作プロジェクトに学生が参加する機会を設けました。産学連携的な位置づけで、プロフェッショナルの現場に触れる体験を通じて、映像制作における構能力や演出力への理解を深める機会となりました。こうした実践と接続する取り組みは、学生のモチベーションにもつながっています。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

今年度は、学生の理解度や学びのプロセスに合わせた授業設計を意識し、スライド構成の見直しやグループワークの改善、実践的な課題設計に取り組みました。特に、語彙や表現の工夫を通じて講義の伝わりやすさが改善され、学生の反応も前年度より前向きな傾向が見られました。また、TouchDesignerや3Dプリンターなどの専門的なツールに対しても、学生が意欲的に取り組む様子が見られたことは大きな成果です。 さらに、ランボルギーニの映像制作プロジェクトへの学生参加といった産学連携的な試みを通じて、学生が教室外の実践の場で力を発揮する機会を設けることができました。こうした経験は、技術や知識だけでなく、責任感や対外的な視点の形成にもつながっています。 令和7年度は、学生との研究的なプロジェクトをさらに活性化させることを目指します。授業内外での探究活動を促し、個々の関心を深めながら学術的・社会的視点に広げていけるような指導を意識して取り組んでいきます。また、課題設計や学びのプロセスに柔軟性を持たせ、学生の多様なベースや表現に対応できる教育環境づくりを進めていきます。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：長谷川聡
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

自由と責任を重んじ、学問の価値を理解して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、信頼される人間を育成するために、学生とともに考え、学び、情報システムコースおよび他コースの情報メディア学科の学生に必要な知識と技術を身につけさせ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力をともに磨き、社会で実践的な活動ができる人材を目指すよう、教員と学生、学生どうし、学生個人の学びを支援する。他学科や学外との交流も含めて学びの場とし、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけさせる。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：プログラム演習I	情報システムコースおよび他コースの情報メディア学科の学生に必要なプログラミングに関する知識と技術を身につけさせるため、情報実習室にてC言語によるプログラミングの実習を実施。今年度は生成AIが利用できプログラミングが高校で必修になったことを先取りして昨年までより高度な内容を含む教科書に改訂し、デジタル教科書が神の教科書かどうかを選んで利用可能とした。今年度は教員2名に加えてSA1名を配して個別指導を行うほか、対面およびLMS上で理解度の確認テストやプログラミング結果（提出課題のソースプログラム）の共有を行ってフィードバックに利用した。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 卒業演習・専門演習・基礎演習	少人数でコロキウム（研究テーマについての・調査・研究・開発の途中経過などを報告してディスカッションを行う）を実施して、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力をともに磨き、社会で実践的な活動ができる人材を目指すよう、教員と学生、学生どうし、そして、学生個人の学びを支援した。学年を超えた交流も促した。
3.教育活動や教育業績 科目名③：情報メディア特別演習	「コード教育プロジェクト」を指導し、学年を超えた学生どうしの学び合いと研究により、小学生向けのプログラミング教材を開発し、「小学生プログラミング教室」を開催している。情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力をともに磨き、社会で実践的な活動ができる人材を目指すよう、教員と学生、学生どうし、学生個人の学びを支援した。他学科や学外との交流も含めて学びの場とし、生涯にわたって学ぶ姿勢を身につけさせることにつながる活動である。今年度は、学生からの提案で新たに「情報教育プロジェクト」を立ち上げて高校教育の研究会や学会で学生が研究成果を発表した。「健康情報プロジェクト」も複数の教員で担当し、稲沢市民病院との共同プロジェクトを進めた。
4.教育活動や教育業績 科目名④： ヒューマンインフォメーション	オンデマンド型のオンライン授業で、オムニバスで3コマを担当した。授業評価の回答数が10人と少ないのはオンライン上での回答呼びかけに応じた学生の割合が少なかったためである。難度の高い内容も含む割には、概ね高評価であったと思われる。なお、この授業は今年度で終了となる予定である。授業評価は担当教員全体の内容を含むため自分の担当部分を抽出することは困難である。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：プログラム演習I	今年度の評価は、自由記述では「解説がわかりやすかった」「サポート体制が手厚かった」「難しかったがどんどんできるようになった」「デジタルの教科書でもいいのがかさばらずよかった」など、おおむね好評価であったが、ポイント評価は下記に示すようにすべての項目で昨年を下回り、平均ポイントが3.5以上なのは「5.教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」「6.教科書やプリントは授業の理解に役立った」のみで、特に「11.授業の内容は理解できた」は2.97とかなり低かった。 昨年までと比べて1年次での「情報システムコース」の希望者の割合が下がったことや授業前半の欠席者が目立ったことも要因の1つとも考えられるが、内容の高度化は来年も維持したい。授業方法をいっそう工夫して授業内容の理解を図る必要がある。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：情報メディア論	iPadを活用してeポートフォリオやビクトグラムの作品を作ったり映像などの作品制作も行い、毎回オンラインで確認テストも実施した。昨年までに比べると、同時期の必修科目「情報リテラシー」が数理・データサイエンス・AI教育カリキュラムの今年度からの新しいモデルカリキュラムに準拠して内容を変更・高度化したので、その整合性や生成AIの効果的利用および高校「情報」の新課程を意識した内容を少し盛り込んでいる。今回の評価は、授業に積極的に出席：3.65、モニター提示の仕方や内容が適切：3.61など例年に比べてポイントがやや高く、自由記述も「わかりやすい」「ためになった」「面白い」等概ね好評であった。「内容が難しい」「資料をWebClassで共有してほしい」など要望も多く記されたので改善する方法を検討したい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④： (2コマ開講、内容は同じ)	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業アンケート実施 ・情報メディア学科FDワーキンググループうち合わせ（不定期継続開催） ・全国高等学校情報教育研究会にて報告を行い、高校教育からの接続に関して研究し、情報交換を行った。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度授業担当科目：（前期）情報メディア論1コマ、基礎演習I、専門演習I、卒業演習I、情報メディア特別演習I（コード教育プロジェクト、情報教育プロジェクト、健康情報プロジェクト）。情報メディア論ではiPadを活用しSAとのディスカッションや実演を取り入れた授業を行った。授業評価は昨年より低い評価もあるが、おおむね好評な評価であった。自由記述の内容も参考に改善する。（後期）プログラム演習I、基礎演習II、専門演習II、卒業演習II、情報メディア特別演習II（コード教育プロジェクト情報教育プロジェクト、健康情報プロジェクト）。教科書としてデジタル版を選んだ学生の評価も授業評価とは別に調べた結果、紙の教科書よりもデジタルの方が良いと考える学生も見られた。iPadを活用した教育、アクティブラーニングの促進に取り組んでいる。5人の卒業研究を指導し、それぞれの研究テーマを完成させて報告会にて報告。1名が奨励賞受賞。大学院健康情報学研究科が設置を認可され、授業実施に向けて準備を進めた。 令和7年度は、高校新課程の初めての学年が入学してくるので、高校のDXハイスクール、高校新課程の高大接続教育等を踏まえて、新しい情報教育を構築・実践する。探究型の高校教育からの接続を模索したい。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：准教授	氏名：濱口 輝士
------	-------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術の感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

健康栄養学科及び情報メディア学科の学生が教員免許状を取得するために必要な知識及び実践的技術を修得できるよう、1年次の講義科目から4年次の実習科目までの一貫した指導を行う。 教職志望の学生に対しては、教員採用試験受験に向けて、筆記試験・面接試験等の支援を行う。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：教育原理	グループワークやディスカッションを通じて、教育に関する理論・歴史等に関する知識の定着を図っている。 また、LMSとipadを活用して、授業中での課題実施と評価、ならびに学生の学習状況の確認を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：教師論	場面指導の課題を取り入れることで、教師としての実践的な技術の習得を図っている。 また、LMSとipadを活用して、授業中での課題実施と評価、ならびに学生の学習状況の確認を行っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：生徒・進路指導論	生徒指導・進路指導に関するケーススタディとディスカッションを行うことで、現代の教育課題に対応できる知識・技術の定着を図っている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：教育課程論	本学の学生の特性を踏まえつつ、将来の教育実習を見据えて、1年次から模擬授業を行うことで、教員に必要な授業技術・指導技術の習得を図っている。 模擬授業では教員による評価だけでなく、学生同士の論評やディスカッションを行うことで、受講生全体の能力向上を目指す。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：教育原理	授業の理解度は3.5ポイントであり、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。その他の項目についても、概ね良好な回答を得られていた。授業に取り入れたグループワークや学生による作業課題についても、アンケートにおける自由記述では肯定的な評価が寄せられていた。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：教師論	授業の理解度は3.5ポイントであり、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。その他の項目についても、概ね良好な回答を得られていた。授業に取り入れたグループワークや場面指導についても、アンケートにおける自由記述では肯定的な評価が寄せられていた。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：生徒進路指導論	授業の理解度ははじめ、全ての項目で3.75-4.00の評価を受けており、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。ただし受講者数が4名のみのため、通常よりも数値が高く出ていると思われる。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：教育課程論（情報）	受講生5名のみではあるが、授業の理解度ははじめ、学生の授業評価は良好である。学習指導案の添削や早期の模擬授業の体験は、学生からの評価も高く、教育上有効であったと考えられる。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・授業評価アンケートに基づく指導方法の改善 ・学校における調査・研究
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

講義科目の理解度はいずれも3.5以上の結果が得られており、授業の内容・方法は適切であったと考えられる。その他の項目についても、概ね良好な回答を得られていた。講義においては、グループワークや学生による作業課題、指導の実践・体験を多く取り入れており、アンケートにおける自由記述では肯定的な評価が寄せられていた。基本的には授業の状況に特段の問題はないと考えられるため、次年度以降も同様の評価が得られるよう取り組みを継続していく。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：健康栄養学科

職位：教授

氏名：平林 義章

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

医療系従事者の基礎的な学問の一つである、人体の構造と機能について初心者にもわかりやすい講義をすることを心がけている。管理栄養士にとって解剖生理学は、栄養に関する専門知識を深め、患者やクライアントに対して適切な栄養サポートを提供するために重要な知識の基盤になると考える。このことから、以下の点に留意して、解剖生理学教育に臨むよう努力している。

1) 解剖生理学の基本理解：管理栄養士には生体の基本的な構造とそれによってもたらされる生理学的プロセスを理解することが求められる。呼吸・循環・消化・代謝・神経などに関する構造と機能を把握し、栄養との関連性を理解するために解剖生理学は重要である。

2) 栄養関連科目と解剖生理学の統合：解剖生理学の知識を栄養関連科目と統合し、栄養素の消化・吸収や成長・発育におけるエネルギー代謝のプロセスが栄養素とどの様に関連しているかを理解することが必要である。

3) 臨床的アプローチ：解剖生理学の知識は臨床的な事象を理解するために必須な知識である。患者の健康状態や栄養ニーズに基づいた栄養プランや疾患管理に役立つ内容が講義・実験（実習）に含まれている。また、将来的に医師・看護師・薬剤師などと協力してチーム医療を行う時、解剖生理学の知識が他の医療専門家と連携するための重要なコミュニケーションツールとして活用することとなることを学生が理解することが大切だと考える。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：解剖生理学Ⅰ	解剖生理学Ⅰでは、主に人体の構造（解剖学的項目）を中心に講義している。自己学習のために、昨年度より、従来PowerPointやPDFファイルで作成した講義資料に音声をつけ動画化（mp4ファイル）することを進めてきた。本年度は、神経系の動画（mp4ファイル）も作成し、人体の構造に関する資料が完成した。1本2から5分程度の動画にまとめ12の学習項目、計113本の動画を作成しWebClassに資料として掲載した。また日頃の勉学の手助けとなるよう、学習項目ごと的小テスト（11項目200問）も作成し予習・復習に役立てるようにした。本年度から、骨のレポートの代わりに、ペーパー試験を行うこととした。
2.教育活動や教育業績 科目名②：解剖生理学Ⅱ	解剖生理学Ⅱでは、主に人体の機能（生理学的項目）を中心に講義している。昨年度より、従来PowerPointで作成した講義資料に音声をつけ動画化（mp4ファイル）することを進めてきたが、すべての資料を変更することができた。1本2から5分程度の動画にまとめ19の学習項目、計141本の動画を作成しWebClassに資料として掲載した。また日頃の勉学の手助けとなるよう、学習項目ごと的小テスト（19項目260問）も作成し予習・復習に役立てるようにした。また、国家試験対策として利用できる用に、内分泌系のレポート（設問および穴埋め形式）を課して評価の対象とした。
3.教育活動や教育業績 科目名③：解剖生理学実験Ⅰ	解剖生理学実験Ⅰは、人体の組織観察を主体とした実習内容となっている。今年度は組織標本の検索を主体とし、10器官系のべ96枚の組織標本の観察に加えて、以前に課していた組織の機能を問う設問も設定した。。また従来、1回の実験で、初めの30分を説明時間、残りの150分を組織観察実験の時間としていたが、実験2ないし3回を1クールとして、1回目に組織の説明の講義、2回目および3回目を組織観察の実験とした。
4.教育活動や教育業績 科目名④：解剖生理学実験Ⅱ	解剖生理学実験Ⅱでは、学生自身の生理学的データを測定して考察する内容となっている。循環器系（心電図・心音・血圧・脈拍）、呼吸器（肺機能検査）、消化器系（唾液のアミラーゼ活性測定）、内分泌系（75G糖負荷試験）、体指数、体温、感覚器（皮膚感覚・深部感覚・味覚）、ラットの解剖、血液学等の実験を行っている。実験3回ないし2回を1クールとして、1回目に講義、2、3回目を実験という形をとっている。学生自身が測定するため、1回目の講義では実験の安全性を確保するために操作手順や注意事項を細かく説明している。また、レポート提出に当たっては、実験の目的が明確になるような設問を設け、実験結果を考察しやすいようにノートを改変した。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：解剖生理学Ⅰ	PowerPointを中心に、WebClassでの資料も用いて講義を行った。学生の満足度は、昨年（3.20）よりやや低下して2.93で、理解度も昨年は3.10であったものが、Aクラスで3.00、Bクラスで2.59とクラス間で差が出た。課題の量については、3.12で、昨年の3.46よりも低下した。板書の書き方や教員の話し方についてはそれぞれ2.79（A：3.05、B:2.55）、2.79（A:3.19、B:2.86）とクラスによって差が大きかった。自由記述では、「PowePointと板書の両方を使っていて分かりやすい」「資料をWebClassにあげてあるので復習がしやすい」など好意的な意見がある一方、「板書の字が小さい」「用語が難しい」「講義が速い」などの意見もあった。講義スピードは例年と変わらないが、今年度より、レポートを課すかわりに、定期試験をおこなったのでその範囲等について学生に分かりづらかったようである。シラバスにあるWork<復習と課題>を試験範囲としたが、元来この課題は1コマの授業を行う上での予習と復習の内容であることを学生が理解していなかったようである。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：解剖生理学Ⅱ	この授業では、PowerPointを用いて作った動画をWebClassに添付し授業の資料とした。学生の満足度は、昨年（3.46）より低下して3.6で、理解度も昨年は3.40であったものが、3.17と低下した。しかし、満足度や理解度の標準偏差も値が大きく、評価にばらつきがあった。課題の量については、3.45（昨年は3.64）で評価が下がった。自由記述では、「PowePointと板書の両方を使っていて分かりやすい」「小テストがあるので理解が深まった」など好意的な意見が多かったが、逆に「板書の字が小さい」「授業内容が難しい」などの意見もあった。欠席回数については、昨年度平均1人あたり1.8回であったものが今年度は平均1.3回と少なくなっているが、有効データ数が少ないのは、学内RANで教室以外から出席をとり、授業には出席しない学生が例年に比べて多いためと考える。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：解剖生理学実験Ⅰ	昨年度は組織の検索のみを行う実験であったが、今年度は、例年のやり方（組織検索と組織の機能を問う課題）とした。学生の満足度は3.25（昨年は3.31）、理解度は3.10（昨年は3.25）で例年よりも低下した。満足度・理解度が下がった反面、「説明が丁寧でわかりやすかった」「事前に予習で進められる部分がレポートの中にあるのが良い」「班で協力してレポート作成すれば早く終われることがモチベーションにもつながった」など実験の進め方については好評価であった。学生の実験への取り組みに関しては積極性の評価が3.57（昨年は3.62）、レポートの量については3.26（昨年3.40）とやや下がった。レポートを見ると、設問に対して、教科書、ネットや提示した資料の全文を丸写ししているものが多く、設問に合った内容を簡潔にまとめて書くということができていないように感じた。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：解剖生理学実験Ⅱ	学生の満足度は3.31（昨年は3.50）、理解度は3.27（昨年は3.36）で例年よりも低下した。学生の評価としては、「説明が丁寧だった」「質問をしたら理解できるまで説明してくれた」などの肯定的な意見があった反面、「プリントを読んでも何をしたらよいかわからなかった」「黒板の字が見にくい」「黒板から遠くて書いた字が見えない」などの意見もあった。学生の積極性に関しては評価が3.54（昨年3.73）で昨年よりも低い評価だった。提出レポートを見ると、昨年同様、学生間で理解の程度のばらつきが大きく、ただ単に教科書やWebで調べた内容を写すだけで、こちらの要求している課題を理解して適切に回答する学生が少なかった。授業の説明時に課題の回答やヒントを与えているが聞いていない学生が多いと感じた。特に、質問をしてこない学生にこの傾向が高かった。課題の量については3.39（昨年3.45）で同様だったと考える。実験当日にレポートを完成させて提出させる点に関しは、肯定的な意見が多かったが、一部に時間が足りないのでもう少し時間をかけてレポートを完成させたいという意見もあった。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	前期・後期の全ての担当科目において、講義・実験の最終回に授業評価アンケートを取って、「総括と意見」という形でまとめている。また、私（平林）は日本解剖学会に所属しており医療系大学における解剖学および組織学教育の進め方や他大学の取り組み等を参考にして授業計画を立てるよう努力している。また、今年度は公私立大学実験動物施設協議会総会に参加し、動物実験のあり方や飼養について講演を受けることができた。これらの内容を解剖生理学実験に役立ててゆきたい。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度の成果・教育業績	【解剖生理学Ⅰ】昨年より進めているPowerPointのスライドに音声を加えて2-5分程度の動画などにして配布することをさらに進めたが、学生の利用率が悪いので、資料を改良することとした。学習内容について「国試において重要な項目」は明確に伝えることに努めた。また本年度より骨のレポートの代わりにペーパー試験を行った。 【解剖生理学Ⅱ】神経系の講義用の動画が完成し、項目ごとに1～5分の音声ガイド付きの資料を完成することができた。講義だけでなく、学外での予習復習に利用することを期待している 【解剖生理学実験Ⅰ】今年度は、例年のやり方（組織検索と組織の機能を問う課題）とした。この方法では、観察した組織の構造と機能を同時に学ぶことができる利点があるが、学生にとって、構造と機能を同時に理解する点が難しかったと考える。また、レポート作成に時間を割かれてしまい標本を十分に観察できないことが考えられる。 【解剖生理学実験Ⅱ】実験講義の折に、レポートの課題の回答を説明し、尚且つ、実験の目的が明確になるような設問を設けているが、学生の理解度が低い。もう少しヒントとなる項目を増やす必要があると考える。
令和7年度の目標	【解剖生理学Ⅰ】学生が授業に対して受け身で、授業中に携帯等を使用していて積極的に学習しようとする意欲が見えない者が多い。この授業の必要性や達成目標を明確にする必要がある。また、学生よりプリントが欲しいとの要望があるため、動画による資料を説明付きのPDFファイルに変更する予定である。試験範囲を明確化するために、国家試験の範囲とする予定である。 【解剖生理学Ⅱ】動画の音声に人工音声を使っているが、「音声がカタコトで聞きづらい」などの意見があったので改良したい。また、令和7年度より、内分泌器のレポートの代わりにペーパー試験を導入する予定である。 【解剖生理学実験Ⅰ】使用している組織標本が経年劣化してきたので、改善したい。また、レポート作成に時間をとられるため、1回から14回目のレポートを無くし、15回のみとする予定である。 【解剖生理学実験Ⅱ】この授業で取り扱う実験項目を理解できるように指導する必要があると考える。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：本多一彦
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

情報活用・分析能力、課題解決能力を磨くための学習環境を提供する。そのために講義を通しての知識の教授と、演習を通して自らの問題解決能力向上のための指導を行う。基礎的知識としては、情報の生成、伝達、変換、認識の理論を学ぶ。また、利用の観点では、情報を最も効果的に処理できる情報システムのソフトウェア開発の側面からのアプローチをおこなう。日進月歩の分野であるため、最新の技術に注目するのは当然であるが、時代の流行廃れに依存しない学力を身につけられるように配慮する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：情報学概論	1年次前期の必修科目であり、情報の生成、伝達、変換、認識の理論を学ぶことを中心とする。ただし、これらの理論は数理的かつ抽象的な概念を含むため。初学者にとって学習困難な内容である。また学生各自が高等学校等で学習・理解した内容に差異があるため、基礎理論を具現化したコンピュータシステムを例に講義を進めている。その際、数理的知識の理解と活用については避けて通ることができない課題である。しかし多くの学生にとってその知識の有用性を認識できていない段階では、学習効果を上げることが困難である。そこで、詳細な説明は講義期間の後半で行うこととし、学生が利用しているコンピュータシステムへの認識、疑問を確立した後に数理的知識の課題に取りかかるよう配慮している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：ソフトウェア基礎	2年次前期の情報システムコース必修の科目である。現カリキュラムでは、ソフトウェア開発にかかわる講義、具体的にはプログラミングの演習は1年次から行われている。本格的なプログラミングの演習は1年後期のC言語の演習からである。C言語は多くのモダンなプログラミング言語の基となった言語であり、様々なプログラミング言語が登場した現在においても、学習の意義があると考えている。しかしC言語は本格的なコンパイル言語であるため、初学者にとってはテキスト通りにプログラムを記述し動作させるだけでも多大な努力を有する。さらに演習のみでは、プログラムの正常動作に気を取られて、プログラミングの基本的知識の習得が充分でないことが課題となる。本講義ではプログラミングの演習と併せて受講することで、情報システムの駆動に必要な知識を確実なものとする。
3.教育活動や教育業績 科目名③：モバイル情報論	モバイル情報機器の発達により、情報の生成、伝達、変換、認識がいつでも、どこでもできるようになった。本講義では、情報活用が時間や場所に縛られることなく実現できるように、モバイル情報機器のハードウェアとソフトウェアの両面からの理解を促す。さらに個人情報セキュリティの問題に考慮しつつ、通信ネットワークを介したコミュニケーションツールとしての活用について理解・実践し、学生の分析能力、課題解決能力の向上を行う。
4.教育活動や教育業績 科目名④：自然科学II	化学と生命科学の分野を中心に、自然科学の発展と考え方を学ぶ。化学を通して物質にたいする基礎的な知識と考え方を理解し、生命科学に至る最新の研究成果をトピック的に交えることにより、物質や生命の不思議な魅力を含む自然科学一般への興味と理解を図る。講義は情報・食品・健康を横断する内容とし、本学開設学部・学科の全てのディプロマポリシーに合致するよう配慮している。

5.教育活動や教育業績 科目名⑤：プログラミング入門（再履修コース）	本講義は1年次前期に行われる「プログラミング入門」における再履修を対象とした講義である。プログラミング教育の演習と理論にたいする教授方法については、「ソフトウェア基礎」において述べた通りである。しかし、実際にはプログラミングの技術の習得に置く学生が多いことも事実である。理解を困難としている原因として、プログラミング技術を習得するための、継続的な取り組みが必要ことが挙げられる。しかし学生によっては自らのペースで演習に取り組みにくいことに戸惑いを示している可能性がある。本講義はコロナ禍でのオンライン・オンデマンド講義の経験を生かして、いつでもどこでも学習と演習ができるようにオンデマンドの教材を配布している。学生には入学時にiPadを無償貸与しているが、本講義ではこのiPadを利用して演習が完結できるようになっている。ただしオンデマンド教材だけでは、問題や疑問に対応することが困難であるため、随時メールによる相談と対面での質問日を用意して学習成果を向上するよう努めている。
1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：情報学概論	今年度の授業評価アンケートでは、情報学概論の2クラスで聞き取りやすさのポイントが低かった。自由記述でも両クラスとも聞き取りやすさについて指摘があった。授業に関しては静粛に保たれていたため授業環境の問題ではない。大人数の講義であり、コロナ禍の影響もありマスクをして講義を行ったことが1つの原因であると考えている。以前も聞き取りに問題があったため、ハンドマイクからピンマイクに変更して講義を行うようにしていたが、この対策では充分ではなかった。後期の「モバイル情報論」ではこの指摘を受け、教卓で話す際はマスクを外して話すようにしたところ、聞き取りやすさの指摘はなかった。また自由記述で演習問題の解答を示して欲しいとの意見があった。記述式の演習問題では、WebClass上に問題を示すだけではなくヒントを示して正解の誘導を行なっている。ただし正解については、あえてWebClassには掲載していない。これは授業中の口頭での解説を正しく理解し、記録できる能力を養うためである。記載された内容を単に暗記することからの脱却を図ることを目的としていたが、意図が明確に伝わっていないことがわかった。次回の講義からは、大学での学習法についても充分時間を割いて説明していきたい。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：ソフトウェア基礎	ソフトウェア基礎は2クラスで行なっている。2クラスでの理解度について、過去3年度分の推移を見ると(3.13,3.03)→(3.28,3.21)→(3.34,3.33)となった。今年度は3年間で一番ポイントが高かった。しかし、2クラスで受講者数や理解度ポイントなどに大きな差はないにもかかわらず、定期試験の成績の平均では7ポイントの差があった。学生の理解度の認識と試験の成績の間に大きな差があったことは注目すべきである。その要因については調査中である。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：モバイル情報論	受講者推移を見ると、受講者数が半数程度に減少しているが、理解度と満足度の双方で向上が見られた。自由記述も概ね肯定的な意見が多く見られた。講義内容の聞き取りやすさについては、前期の情報学概論での自由記述を参考に、教卓前で話す際はマスクを外して聞き取りやすさに考慮した。そのためか、話し方についての問題は見られなかった。資料の提示方法については、肯定的な意見が多かったが、1件「資料はそこまで役に立たなかった」というものが含まれていた。“そこまで”が何を意味するか、具体的な問題を指摘して欲しいかった。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：自然科学II	自然科学IIでは受講者9名、回答数が8件であったため、回答率は高かったものの、統計的データの解析は難しい。少ないデータ数で平均を求めると、理解度と満足度共に3年間で最低のポイントとなった。自由記述も少ないが、否定的なものはなかった。理解度と満足度の低下については、全てで1のポイントをつけた学生がいたことが1つの要因である。項目1の授業に積極的に参加しているかどうかの質問に対しても1のポイントがついているので、講義に参加せずに講義の評価ができるはずがなく、論理的に破綻している。残念ながらアンケートのデータ数が少ない場合、こうしたデータの影響を大きく受けてしまうことになる。今年度、残念ながら自然科学IIについての結果考察はできない。
5.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名⑤：プログラミング入門（再履修コース）	「教育活動や教育業績」で述べたようにオンデマンド主体の講義形式を取っている。対面授業では十分な効果が得られなかった再履修クラスであるが、受講者のペースで授業を進めることができるため、課題としてよい作品を提出でき教育効果を上げることができた年度もあった。しかし今年度はオンデマンドでの参加も充分でなく、満足できる効果を上げることができなかった。再履修者専用であるため履修者も少なく、再履修クラスの編成を一旦やめて、再度対面方式の講義に切り替えて教育効果を検証し直す必要があるかもしれない。

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

前期授業評価アンケートで教授法上の問題があった場合は、次年度を待たずして、後期の講義から改善できる点は改善するように心がけ、一定の成果を上げることができたと考えている。一方で、理解度や満足度といった数量的データと自由記述の評価に大きな隔たりがあることもあり、授業改善にどのように結びつけてよいかわからない状況に接することもあった。これは特に受講者が少ない講義に現れた。開講時間帯や講義方式などの枠組みを変更したうえで、授業評価にどのように影響があるかを検証する必要があると感じている。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員

学科：情報メディア学科

職位：教授

氏名：松原 友子

【立学の精神】

本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】

健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。

1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。
2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。
3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。
4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】

フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。

1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。
2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。
3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。
4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。

【情報メディア学科ディプロマポリシー】

情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。

これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。

専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。

1. 情報システムコース

モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。

2. 映像メディアコース

映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。

3. サウンド制作コース

音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。

4. メディアデザインコース

グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

情報メディア全般の基礎的な科目については、進化を続けるコンピュータや情報活用に関わる知識や技術の理解を深める。これは、卒業後も社会において自ら学ぶことができる素養を身に付けることにつながる。

また、情報システムコースの専門的な科目については、プログラミングやシステム開発の技術を習得することで論理的思考を育み、問題解決を実現できる能力を習得する。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①： 情報システム入門 メディア情報技術	いずれも基本情報技術者試験の対応科目であり、メディア情報技術はFE講座の認定科目でもある。 1 コマの講義構成は、座学後に関連分野の過去問を複数問解くことにしている。難易度の高い問題は、ステップごとにヒントを出し途中で諦めず正解までたどり着けるように工夫している。また、学生に解答を発表させることにより、常に考えるという姿勢を積極的に育成するようにしている。 メディア情報技術は、JavaScript、Photoshop、Shade、Accessを使った実習を取り入れ、知識を定着させている。
2.教育活動や教育業績 科目名②： 基礎演習	Pythonを使ったゲームプログラミングを行っている。 Pythonの基礎知識→CUIのミニゲーム→GUIのミニゲームと、レベルアップしていく構成にしている。見本のコードを入力するだけでなく、穴埋め形式にすることにより、考えながらプログラミング技法を習得できるよう工夫している。また、習得度が高い学生用に難易度の高い課題も別途準備している。
3.教育活動や教育業績 科目名③： 専門演習 卒業演習	XcodeとPythonistaを使ったiOSアプリ開発を行っている。 専門演習では、決まった課題の作成に取り組む。見本のコードを入力するだけでなく、穴埋め形式にすることにより考えながらプログラミング技法を習得できるよう工夫している。また毎時間、前の時間の内容の小テストを実施することで、知識を定着させている。また、習得度が高い学生用に難易度の高い課題も別途準備している。 卒業演習では、各自でオリジナルのiOSアプリ開発に取り組む。自分で調べたり考えたりする姿勢を重視し、また、質問支援や提出レポートの確認に多くの時間を使っている。
4.教育活動や教育業績 科目名④： 情報処理演習	教職必修科目で、ExcelとExcel VBAを行っている。 Excelは日本情報処理検定協会の問題を扱う。操作方法の説明後、各自で過去問に取り組む。習得度が高い学生用に難易度の高い課題も別途準備している。 Excel VBAは条件分岐や繰り返しなどの基本的なプログラミングに取り組む。PAD図からコードを作成する訓練も行う。 受講者をグループに分け、グループ間で教え合うことを推奨している。

5.教育活動や教育業績 科目名⑤： 情報リテラシー	近年のネットワーク犯罪やAIの活用事例を例に挙げながら情報倫理・AIリテラシーについての講義を行い、インターネット・IT技術の利用について重要なルールとマナーを修得する。また、Officeツールによるビジネス文書作成、データ処理、スライドの作成技術を身につける。さらに、タッチタイピングのレッスンで、タイピング速度・正確さを向上させる。 課題は、全員が取り組む必修課題と、任意提出のレベルの高いチャレンジ課題を用意している、次の時間の最初に提出された課題の評価を振り返り、知識を定着させている。
---------------------------------	--

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①： メディア情報技術	2コマ担当した。 1コマ目は12のアンケート項目のうち10項目が平均以上、2コマ目はすべて平均以上であった。自由記述からは穴埋め式のプリントが分かりやすく、実習の難易度も適切、質問の時間があり質問しやすい、など概ね好評であった穴埋め式のプリントが分かりやすく、実習の難易度も適切であると概ね好評であった。昨年は基本情報技術者試験の過去問を学生に口頭で解答させていたが、それを止めて欲しいという意見があった。そこで今年は、当てる学生の解答を予め確認するようにしたら、「当てる時は事前に見に来てもらえるのがとてもありがたい」との意見があり、学生にも受け入れられたようである。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②： 情報処理演習	2コマ担当した。 どちらのコマも12のアンケート項目のうち11項目が平均以上であった。情報処理演習はExcelとExcelVBAを扱った。こちらも2コマ行ったが結果に大きな差はなかった。自由記述から、こまめにできているか確認していた、モニター画面による表示や説明が適切であった、など好評であった。ただ、提示する文字が小さいとの意見があったので、次年度は文字サイズの設定を大きくして提示する予定である。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③： 情報システム入門	2コマ担当した。 1コマ目は13のアンケート項目のうち11項目、2コマ目は9項目で平均以上であった。受講者は1コマ目が53人、2コマ目が15人であった。受講者が多い1コマ目の方が良い評価であったが、自由記述からもその理由ははっきりとは分からなかった。また、どちらのコマでも机間巡視を多く行い質問をしやすい雰囲気作りを心掛けたことは好評であった。いずれも理解度が平均よりも低い、基本情報技術者試験の対策科目であることから過去問を解く機会が多く、難しいと感じるためではないかと思われる。なお、過去問を解く際にはヒントや考え方を提示し、取り組みやすくなるような工夫をしている。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④： 情報リテラシー	1コマ担当した。 13のアンケート項目のうち6項目で平均以上であった。講義の区切りごとに必ず「ここまでで困っている人はいませんか」と声をかけをし、質問しやすい環境作りを心掛けたことが平均以上の理解度に繋がったと思われる。課題は授業中に一緒にやる「例題」、授業中に個々でやる「必修課題」、余裕がある人が期限までに個々でやる「チャレンジ課題」を課した。課題の評価が低かったが、理由は自由記述から「チャレンジ課題をもっとやれば良かった」との意見が複数あることによると思われる。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	実習科目では、習得度の高い学生用に、難易度の高い課題を準備した。 情報処理演習では、テーブルごとにグループを設定し、グループ内での教え合いを推奨する形式をとった。 情報システム入門では、問題を解く時間は「回っていますから質問があったら言って下さい」と言いながら必ず巡回した。 情報システム入門とメディア情報技術では、基本情報技術者の過去問を解いているが、学生が発表する前に解答を確認する配慮を行った。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

実習科目では、習得度の高い学生用に、難易度の高い課題を準備した。こちらに取り組んだ学生も数名おり、有効だったと思われる。 情報処理演習では、テーブルごとにグループを設定し、グループ内での教え合いを推奨する形式をとったが、「学生同士で分からない箇所を教え合う授業形式は良いと思った」との記述から好評だったことが伺える。学生も教員やSAでなく、同じ立場の友人の方が聞きやすいこともあるようで、今後も継続していきたい。 情報システム入門では、問題を解く時間は「回っていますから質問があったら言って下さい」と言いながら必ず巡回して、スマホの時間にせず「解く」ことに意識が向くようにした。回を重ねるごとに質問をする学生も増え、自由記述からも「先生が席側まで回ってくれたので質問しやすいのが良かった」「実際に問題をやってみて理解がより深まった」と好評であった。また、授業の最初に前の時間のスライドを流して、前の時間に欠席した人は動画で撮影するように促した。 基本情報技術者試験の過去問が年4回更新されるので、常に最新のものに変更していく。 授業用動画を新たに作成する。 提示する文字を大きくする。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 助教	氏名： 宮島 彩
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

フードビジネス業界で必要とされる食について、調理を通して理解してもらい、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につける。特に調理学においてはビジネス科目と関わりや地域との関連性にも触れ、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につける。また、調理学実習や食品官能評価の授業を通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につける。そして、フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につける。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：調理学	調理は、食品素材が食べ物となって喫食者に提供される最終過程である。フードスペシャリストとして調理についての確かな知識が求められており、主に「おいしさの設計」、「調理操作」、「食品素材の調理特性」、「調理と食品開発」について学ぶ。フードスペシャリストに必要な調理学の知識を習得できる。調理は理論だけでなく技術も重要であるため、調理系の実習科目や日常生活での調理において応用できるようになるように、同時期に開講している調理学実習と内容をなるべくリンクさせて行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：調理学実習	調理は、食品素材が食べ物となって喫食者に提供される最終過程である。調理学実習は1年生科目であり、まずは基礎を身に着ける事が重要であるため、調理をするにあたっての衛生面・安全面について理解を深めると共に、食材の基本的な扱い方や調理技術について実践的に学ぶ。また、グループに分かれて実習を行うため、個人の積極性や仲間との協調性も養う。これらの知識や技術、能力をフードビジネスの現場で応用できるようになる。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食品官能評価	フードスペシャリストには食品についての深い知識とそれらの品質について見抜く技能が必要である。食品の「化学的・物理的評価法」及び、嗜好に直接結びつく「食品官能評価法」について講義と実験、実習を通して学ぶ。商品開発に携わる場合、自ら食品の評価をするだけでなく、パネリストに評価をしてもらいデータを集計し結論を出すスキルが必要となるため、食品官能評価の基本的な知識を学んだ上で、実際に食品官能評価を計画・実施できるようにグループごとでテーマとなる食品を決め、食品官能評価を一から体験する。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：調理学	調理学の理解度は3.6以上となり、今年度の目標を達成した。定期的に小テストを実施しているため、授業の復習をおこなうきっかけとなっている。授業の最後に解いてもらうフードスペシャリストの練習問題を例年より増やし、フードスペシャリストの出題傾向などについても説明をした。調理学で学んだ内容を実際に調理学実習でおこない、体験することで知識が定着し、理解度が上昇したと考えられるため、今後も継続していく。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：調理学実習	調理学実習の理解度は3.7以上であった。調理学実習は、調理学と並行して授業を行っているため、内容もなるべくリンクするように献立を調整し、講義で勉強した内容を実践することで理解度が高くなっている。作業手順を学生目線であるべく分かりやすく説明するように心がけており、学生の調理中も各調理台を見回り、質問への対応や作業の細かい指導等を行っている。この実習を通して学生同士のコミュニケーションが深まったり、調理の楽しさを実感し家でも調理をする機会が増えるきっかけとなったため次年度も学生の視点になって実習を運営していく。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：食品官能評価	食品官能評価の理解度は3.7以上となり、昨年度より上昇した。授業資料を学生がいつでも確認できるようにWebClassに掲載することで、授業後の復習に役立てられている。また、昨年度よりも練習問題の出題数を増やしたため、理解度の上昇につながったと考えられることから、次年度以降も続けていきたい。学生が企画運営する食品官能評価実習では最終週に報告会を行うため、他の班の結果や考察から様々な商品について詳しく知ることができ、対象者（消費者）の特徴についても学ぶことが多くあるため、今後も継続していく。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープニングクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	食品官能評価の授業において、グループワーク実施時に自分の役割や自分が努力したことを受講者全員に1人1人から聞き取りをおこなった。全員が自分の役割やグループのメンバーの役割、努力した事を把握することで、グループワークをスムーズにおこなうことができ、学生の課題への取り組みや満足度も向上した。グループワークを伴う他の科目でも実施していく。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

食品官能評価では、学生の企画運営する食品官能評価実習の際に、1人1人の役割を明確にして、1人ずつ自分が頑張ったことや作業をする上で困っていること等の聞きとりをおこなった。1人ずつ対応することで自分がやるべきことをしっかりと把握し、グループワークをスムーズに進めることができたため、理解もより深まったように感じる。グループの中で「何もしない人」が出ないことで、全員で作業を分担して協力して進めることができた。次年度も安全に全ての実験実習と学生が企画運営する官能評価実習やグループワーク、プレゼン発表会が行えるように設備や授業スケジュールを整える。今年度同様、練習問題のボリュームを増やして、検定や考察を書く機会を増やすことで更に知識を定着させる。今年度よりも更にスムーズに進むように、授業全体の流れを再度検討していく。 調理学と調理学実習においては、今年度は昨年度に引き続き、調理学においてフードスペシャリストの練習問題を解く時間を増やしたため、次年度も継続して行い、フードスペシャリストの合格率向上に貢献する。調理学の講義内容と調理学実習のポイントをリンクさせて説明することで、理解しやすくなり、今年度は調理学の理解度が向上した。今年度は昨年度に引き続き、調理学においてフードスペシャリストの練習問題を解く時間を増やしたため、次年度も継続して行い、フードスペシャリストの合格率向上に貢献していきたい。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：助教	氏名：山田 直子
------	-----------	-------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエータ、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

立学の精神における自由と責任を重んじ、学生主体の自由さを活かし、責任を持って行動を行うように働きかけて教育を実施する。また、講義からの知識を実習で実際に体験し、学生の技術を磨かせたい。 調理学においては、知識・技術をもとに教養として、マナーを培うことができる科目である。そのため、基礎科目としての知識を応用系科目に活かせるように教育を行う。食べ物と栄養の基礎となる科目であるため、科目の特性による特徴を学生に伝えられるにしたい。講義の内容が身をもって実感してもらえるように1回1回の内容に要点を置いて、テーマとポイントを絞って伝えていきたい。そして、調理学実習は、少量調理が基本となるため、高学年科目である給食経営管理実習に繋がるため、学生へも意識をさせるように実施したい。包丁の握り方、基本の切り方、基礎的なメニューから行事食など、多岐にわたるメニューを行う。調理における食材の特徴や特性があるため、実習を通じて身に付けてもらいたい。実習では、グループワークが主体となることから、コミュニケーション能力やリーダーシップ能力など知識や技術以外で管理栄養士が身に付けるべきスキルも磨かせたい。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：調理学	調理学では、大教室での一方的な講義とならないように、学生に質問などの問いかけを行う。また、ポイントとなる部分に線を引かせることや国試に出てきた要点などを強調して伝えるような工夫をしている。また、授業内で最後にレポートを書かせる取り組みを行っている。レポートを書かせることで、授業内で行った内容を振り返り、復習できるようにしている。また、次の授業のはじめに解説を行うことで知識を反復して、長期記憶に繋げるようにしている。章ごとのまとめとして、次週に小テストを設け、知識の確認を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：調理学実習	調理学実習では、通年にわたって実習を行うため、できるだけ実習回数を多くできるようにしている。調理学での講義理論を実習で体験するため、実際の作り方以外の補足知識を説明するなど、単純に料理を作ること以外に学生の知識へ繋がるような授業を心掛けている。また、包丁の持ち方、基本の切り方、基本の調理から身に付けることができるように難易度も回数を追うごとにレベルアップするように組んでいる。また、基本的な栄養価計算の理論、調味%の出し方や求め方などが最終的に自分の力で計算できるようにサポートしている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：食事計画論	食事計画論では、大教室での一方的な講義とならないように、演習を取り入れている。授業内容には、計算方法やレシピを考える力を身に付けられるように、プリントの中で随時計算等の作業を入れ、自分自身で確認し、授業内に質問できるような時間を設けている。最終的には、自分自身で考えたレシピがポーションサイズや調味%、作り方が適正であるものを作り上げる力を身に付けさせることが目的である。管理栄養士として、必要な基本的な知識や献立作成のスキルを習得させるために授業の内容をさらに充実させていきたい。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：調理学	調理学では、毎年授業評価アンケートの結果が向上している。ただ、やはり講義形式の授業であるため、学生を飽きさせない工夫が必要であると感じている。特に、一方的に話を聞いている場面では、学生の集中力が持たないことから、いかに手を動かし、メモや線を引く、問いかけや考える時間を持たせるかが重要だと考える。毎回、授業の終わりにレポートを記述させていることから、少しでも授業のポイントをおさえられるように工夫を行っている。今後は、さらにプリントの穴埋めを増やすことや章末問題の解説を行うなど学生の満足度が向上するように努めたい。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：調理学実習	調理学実習では、毎年授業評価アンケート結果が向上している。実習科目ではあるが、栄養価計算方法やレシピの説明などの演習も行っている。通年を通じて、基礎的なメニューから行事食、応用レシピも行っていることから、講義科目より、体験を通じて知識と技術が身に付いているのだと考えられる。特に、包丁の使い方から、基本の切り方、飾り切りなど多岐に渡る手法も教えることから、デモンストレーションを行っている。自由記述より、作り方のコツやデモンストレーションなどが分かりやすい等のコメントがあった。実習での経験は、学生の印象に残りやすいことからできるだけ、実習回数を増やす工夫などを行っている。今後もより学生に身に付けて欲しい技術を培ってもらえるように授業内容を工夫していきたい。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：食事計画論	食事計画論では、毎年授業評価アンケート結果が向上している。講義形式の授業ではあるが、演習を取り入れ、各自のベースで課題に取り組み、質問しやすいようにしていることも理解度が高い要因になったと考えられる。また、授業の目標には、自分自身で考えたレシピのポーションサイズや調味%、作り方を考える力を身に付けさせることが目的であるため、気軽に質問できるという点が自由記述からも良かった点であったことが伺える。今後は、さらに深く身に付けてもらうべき内容を重点的に指導していくことや高度な内容を盛り込んでいきたいと考えている。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業改善のために、栄養士会の講習会や学会へ参加し、講演会の内容について新しい知見などを授業内容に取り入れている。例えば、調理においての減塩の手法やSDGsに関する取り組み、食物アレルギーでの最新情報など、学生にとって今後知っておくべき知識を新たに盛り込んでいる。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

授業評価アンケートにおいて、平均値が令和5年度より上昇した。このことから、それぞれの科目ごとの授業への理解度や満足度が上がっているのではないかと考えられる。講義や実習形式でのそれぞれのメリット・デメリットを踏まえ、学生が主体的かつ実践できることや知識や技術の習得や向上に励むことができるように働きかけた。授業ごとの課題やレポート、小テストなど個々での取り組みが成績に反映されるように行うことで、学生自身が努力する姿がみられた。また、授業の予習復習ができるように授業の予定表やスケジュール連絡を毎週行っていた。毎授業においても授業の振り返りを設けるレポートや授業内での質問時間を設けるなどの取り組みは今後も継続したい。令和7年度においても、それぞれの科目の各項目や平均値が維持できるように目指し、授業内容をさらにブラッシュアップし、授業の質を向上させる。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：健康栄養学科	職位：教授	氏名：山田 ゆかり
------	-----------	-------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

基礎教育科目（教養教育）が主担当であり、「大学のディプロマ・ポリシー：立学の精神に則った知識・技術と人間力の修得する 総合的な学修経験を積むことで創造的思考力を培い、人間力を高める」を踏まえて、教養を深め、自らの心の健康に配慮して生きていく力を高め、将来の専門性の修得に必要な資質の養成を行うことができるように教育をする。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：心理学	講義と実体験をできるよう工夫した演習による授業を実施。令和6（2024）年度前期受講者224名（3クラス編成）。うち2クラスは大規模クラス（94名、88名）であるが、体験的な要素を交えた授業、学生の実体験に即した内容を心がけて、知識の修得だけにとどまらず、自らの特性を振り返り、人間力を育てることができるよう授業を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：人間関係論	講義と実体験を交えた演習による授業を実施。令和6（2024）年度後期受講者177名（3クラス編成）。後期開講で受講者数はやや落ち着いた。体験的な要素を交えた授業、学生の実体験に即した内容を心がけて、知識の修得だけにとどまらず、自らを振り返り、現実生活での人間関係の改善に役立てることを確認し、人間力を育てるよう授業を行っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習Ⅰ・Ⅱ（健康栄養学科）	学生が個別の研究テーマを設定し、資料を収集し、卒業論文を完成するように指導している。卒業論文のテーマが、管理栄養士としての職業に生きるように配慮している。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：心理学	心理学について、心理学について、大規模クラス解消対応のため、3クラス開講としている。クラス規模格差はまだ少し残る一方、クラスによる評価結果の差はあまりない。各クラスの授業の理解度は3.62、3.63、3.63、満足度は3.65、3.66、3.71となっており、総じて高い評価となっている。 このほか3クラス共通して評価結果が高いのは、「5. 教員の話し方（3.75、3.70、3.76）」「6. 教科書やプリント（3.74、3.70、3.71）」「8. 授業の進み方（3.74、3.69、3.71）」「9. 課題の量（3.74、3.69、3.68）」等である。評価が3.5を下回ったのは、「1100000201」クラスでの「4. 自主学習でのシラバスの有効性（3.39、）」である。自由記述については、「プリントや実践を踏まえた授業でとても受けやすかった」「講義は興味深く、心理学をとって良かった」「板書の字が見やすい」「話が聞きやすかった」「性格検査や実験など実際に行き確かめるやり方が楽しくできた」「すごくおもしろかった」「心理について学んだことで自分についての理解が深まった」「授業中の例が分かりやすくなった」など肯定的な自由記述が多くなっていた。学生が努力した点としては、出席やノートテイクの他に、「プリントを使って復習できた」「教科書などで調べた」などより積極的な行動が増加している。今後も評価される授業となるよう努力する。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：人間関係論	人間関係論は3クラス開講である。、回答率は63.2%、78.4%、73.9%であり、1100000301のサイズの小さいクラスでやや低くなっている。受講者数は38名、51名、88名であり、クラス規模には依然として2倍以上の差がみられた。評価結果のうち、満足度は、3.67、3.78、3.83、理解度は、3.58、3.73、3.77であり、クラス規模が大きい方がやや高くなっている。1100000302、1100000302の2クラスは担当者の校務との関連でオンデマンド形式によるリモート授業を1回行ったが、対面授業時の「復習」に配慮した効果か、特に大きな影響はなかった。、また、各クラスとも「話し方」や「プリント」の評価が特に高くなっていた。従来、評価がやや低かった「シラバスは自主学習に役立つ（3.46、3.70、3.60）」では改善がみられた。自由記述では、「話し方や声が聞き取りやすい」「プリントがわかりやすかった」「話が面白い」「説明がわかりやすかった」「日常生活に役立つ内容」「楽しい」など授業内容を肯定的に評価するコメントが多くなっている。今後も評価される授業となるよう努力する。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業アンケートを用いて受講者の自由記述コメントを中心に情報を収集し、授業改善に役立てている。日本心理学会、日本心理臨床学会等の学会、日本臨床心理士会、愛知県臨床心理会、日本臨床心理士資格認定協会等の研修会に参加して最新の動向についても授業に反映している。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度実績 授業の理解度 心理学：3.62、3.63、3.63、人間関係論：3.67、3.78、3.83（教育心理学：3.67 教育相談論：3.67 特別支援教育：3.75） 授業の満足度 心理学：3.65、3.66、3.71 人間関係論：3.58、3.73、3.77（教育心理学：3.33 教育相談論：3.56 特別支援教育：3.75） 授業評価については、教職科目：教育心理学の満足度を除き良好な結果であった。自由記述についても積極的、肯定的なものが多く、今後の授業実施について、現在の方法を維持していくことの妥当性が支持された。 教職課程科目について2年次開講の3科目を担当した。例年2年次は、教職課程を辞める学生が多くなる時期であるが、積極的な意義を示すことで、令和6年度は辞退1名に留めることができた。 卒業演習において、7名が自らのテーマに沿って、卒業研究を完成した。 令和7年度の目標 学生による授業評価については、現状を維持し、基礎教育科目が学生の人間力向上に役立つように授業を実施する。 卒業演習における学生の達成度を高め、卒業後の専門性、生活に対する方向づけを行い、十分な学修成果を得られるよう指導する。
--

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科：情報メディア学科	職位：教授	氏名：吉田友敬
------	-------------	-------	---------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

大学における教育の基盤として、学生が自身の人生の目標を定め、そのために自己研鑽をし、教育成果をもって希望する進路に進めることが必要である。 そのための教育理念として以下のような方針を立てている。 ・学生が学修内容に興味を持ち、自ら進んで学修を楽しめること ・各科目の学修を通して、一定の学修成果・達成感を得られること ・前提知識としては、すべての学生に寄り添い、可能な範囲で個別に対応すること ・対面授業でも、可能な範囲で家庭での学修が可能にすること また、演習授業では上記に加え、以下のことに留意している。 ・学生の自己実現を促し、協働作業を通して人間関係・コミュニケーションを広げること ・演習での学修を通して目標を達成し、高い自己評価を得ること

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：デジタルサウンド入門	1年次前期の科目であり、音楽的素養のない学生であっても、感覚的な制作活動で魅力のある作品制作ができることを体験させている。 主な実習は大学のMacでのAudacityとGarageBandを使用しているが、同等の内容をiPadでも実習できるように配慮している。 音の編集作業を体験し、面白い音を作成したり、効果音を使うなどしてクリエイティブな学修ができるようにしている。 最終課題によって音の作品を制作し、優秀な作品はWebで発表している。 1年前期ということもあり、Macの使い方から懇切丁寧に実習指導を行っている。
2.教育活動や教育業績 科目名②：音響学	2年後期の科目であり、実習先行のカリキュラムの中で理論的基礎を身につける科目である。 音響学に必要な理論的基盤と数学的基盤を、高等数学を用いずに学修する。 WebClassを最大限に活用し、必要な資料を提示の上、学生各自が課題に取り組む形としている。 課題の中には、応用的な内容を調べて答えるものもあり、学生にとっても興味深い設問内容としている。 初めて音響学を学ぶ学生が多いため、5回に1回復習の回を設けて、知識の定着を図っている。
3.教育活動や教育業績 科目名③：各演習	担当する演習では、コンサートを開催することを大きな目標としており、これを達成することで学生が大きな達成感を得られるようにしている。 コンサートでは、学生の特性により、楽曲を制作する者、映像を制作する者、演奏発表を行う者、また、裏方スタッフとして音響、照明、舞台制作、録音さらには、ポスター・パンフレットのデザイン、Web制作、広報、配信用映像の編集などの役割分担を行って、規模の大きい協働作業を行っている。 コンサートの実現は、学生にとってもたいへんな負担であるが、成功したときの達成感は大きいものである。 また、就職や卒業後の進路を見据え、さまざまな業界の研究をさせている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：	

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：デジタルサウンド入門	全体的には概ね理解度、満足度とも高く、学生の需要に応えるものであると思われる。実習室の設備の不具合などによる問題があったが、授業期間に改善してきた。学生の中にはクオリティの高い作品となるためのテクニックを教えてほしいという需要があるが、クリエイティブな作品制作においては、それはそう容易なことではなく、また、特定のテクニックによって作品が限定されてしまうことは、学生の創造活動の可能性を下げってしまうことにつながると思う。いくつかのヒントは出しているものの、こうすれば誰でも同じような作品ができるというようなやり方はかえって望ましくないのではないかと感じる。クラスによって若干評価に差があるが、課題の到達度と概ね相関しているように思われる。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：音響学	授業評価項目の数値および自由記述の内容は、おおむね良好なものであった。出席できなかったり、結果として課題に十分取り組めなかったりした学生が一定数いた。近年こうした学生は増加傾向にあり、メンタル面の不調などの要因も推測されるため、このような学生への対応が今後の課題となる。また、他の項目と比べると理解度がやや低いのが、これは授業で扱っている内容が相当程度専門的であることに起因すると思われる。また、計算が苦手な学生も少なくない。自由に調べて記述する課題のテーマは学生の興味を引くものであったが、近年の生成AIのあつたいをどうするか、より明快にする必要を感じる。授業のスタイルなどについてはおおむね好評であり、基本的にはこのスタイルを継続していくことになると考えている。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：	
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：	

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	主にサウンド関係の授業を中心に、オープンクラスとして、他の先生の授業を拝見している。 また、実務家教員の先生に学修についての意見を求め、アドバイスを受けている。 関係業界の企業の担当者や社長などとコンタクトをとり、業界に必要な人材の資質を聞いている。 授業についてのコメントを関係の学生から日常的に聞いている。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度実績 授業の理解度 デジタルサウンド入門：3.75、3.56 音響学：3.49 授業の満足度 デジタルサウンド入門：3.86、3.74 音響学：3.63 演習の総まとめとしてのコンサートを文化フォーラムの中ホールで開催し、大きな会場にもかかわらず、内容の濃いコンサートとして成功した。 当年度は特に2年生の学修意欲が高く、彼らが各部門のチーフとして高度な演出を実現した。 その他の業績：令和6年度3月期FD・SDフォーラム「通信制高校の出身者を受け入れる新コースについて」 令和7年度の目標 学生による授業評価については、現状を維持し、学生の満足度がより上がるよう検討する。 演習における学生の達成度を高め、より大きな達成感を得ることで、卒業後の進路に向けての足がかりとする。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 教授	氏名： 吉田 洋
------	---------------	--------	----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1.「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2.「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3.病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4.主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエイター、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブ리케이션などのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。
--

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

立学の精神にあるように自由と責任を重んじ、学問を通じて知識技術を磨くべく教育を行っている。学園創設年数32年 常に立学の精神を意識して教育を行っている。フードビジネス学科のディプロマポリシー1にあるように授業ではビジネスの基本を体系的に理解できるように講義を行ってゆく。アクティブラーニングを実施している。基礎科目は立学の精神をもとにまた情報メディア学科の専門科目については情報の基礎を講義し、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成できるように意識している。
--

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：簿記	フードビジネスにおける簿記の重要性について力説している。わかりやすい授業を心がけている。教科書のほかにそれを補強する教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。将来、会計不正を起こすことのないように倫理面の教育も重視している。
2.教育活動や教育業績 科目名②：企業会計	フードビジネスにおける企業会計の重要性について力説している。わかりやすい授業を心がけている。教科書のほかにそれを補強する教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。将来、会計不正を起こすことのないように倫理面の教育も重視している。
3.教育活動や教育業績 科目名③：ヒューマンリソースマネジメント	フードビジネスにおけるヒューマンリソースの重要性について力説している。わかりやすい授業を心がけている。教科書のほかにそれを補強する教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。本年度は社会問題となっているハラスメントの講義を充実させ、グループに分かれディスカッションさせた。問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけるようにしている。
4.教育活動や教育業績 科目名④：経営学	全学部全学科基礎教育科目として学問を通して知識技術を磨くという立学の精神のもと経営学の講義を行っている。わかりやすい授業を心がけている。教科書に代わる教材や練習問題を配布している。小テストを実施し、平常点に加えている。アクティブラーニングを実施している。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：簿記	授業評価は3点台前半であるため更なる改善があることは理解している。数字を見るだけでいや。簿記がさっぱりわからない受講生も一部にいる。プリントを配布しただけでは困難ようだ。本人にやる気があるのであれば、オフィスアワーなどを使って個別指導をしたい。アクティブラーニングを増やしたい。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：企業会計	授業評かは3.7程度 徐々に上昇している。学生の理解度を見ながら徐々に講義のペースを速くしたり遅くしたりしている。今後は、会計数値の意味を丁寧に説明する。会計ソフトや弥生会計を用いて授業を行っているため実践的な授業としている。本年度は受講者が多いので定期試験を実施している。就職後役に立つように税務に関する授業も取り入れたい。アクティブラーニングを増やしたい。授業アンケート結果は比較的良好。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：ヒューマンリソースマネジメント	授業が就職後役に立つように労働法、労働問題に関する講義内容を充実したい。アクティブラーニングを増やしたい。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：経営学	スライドがわかりやすかった、経営について詳しいことを学ぶことができて良かったなど肯定的な意見が多かった。プリントを毎回配布してほしいという要望があったので適宜プリントを配布する。アクティブラーニングを増やしたい。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	授業アンケートを用いて受講者から指摘のあった事項について改善を進めている。日本簿記学会、日本会計研究学会、日本税法学会、システム監査学会、日本セキュリティマネジメント学会の学会や母校の研究会などに参加して最新の動向についても授業に反映している。同じレベルの他校の教員と非公式に講義内容の意見交換をしている。
-------------------------	---

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

令和6年度の成果・教育業績：令和6年度前期は授業評価の理解度はやや芳しくなかったが、後期は概ね3.5以上の評価が得られた。企業会計については副読本として続々ズバツとわかる会計学（同文館）共著を出版した。令和7年度の目標：日本簿記学会、日本会計研究学会、日本経営学会、システム監査学会などに参加して最新の動向について授業に反映してゆきたい。授業評価 全項目3.5以上を目指す。簿記については使用する教科書をビジュアルなものに変更する。企業会計についてはエクセルを用いたフードビジネスと管理会計についても1回程度講義に追加をしたい。ヒューマンリソースマネジメントについてはフードビジネスを題材に具体的なトラブルについて取り上げたい。経営学については引き続き中小企業・ベンチャー企業に関する講義を充実させたい。全科目アクティブラーニングを充実したい。本年度試験的に集中講義で実施した原価計算について次年度より本格的に始めるのでその準備と履修者集めを行いたい。次年度より大学院の専任教員となっているので講義の準備を1年かけて行いたい。現在、管理職であるため他校での講義ができないが、そのような機会があれば本学での講義も有用なものとなるであろう。また、所有している資格を活用し、実務を行う機会が欲しい。新たな視点から講義が可能となるだろう。

名古屋文理大学

令和6年度 ティーチング・ポートフォリオ

基幹教員	学科： フードビジネス学科	職位： 准教授	氏名： 渡邊 正樹
------	---------------	---------	-----------

【立学の精神】 本学は、自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観を培い、世界から信頼される日本人を育成する場である。
--

【健康栄養学科・ディプロマ・ポリシー】 健康栄養学科では、以下の要件を満たす学生に学士（栄養学）の学位を授与します。 1. 「社会・環境と健康」「人体の構造・機能および病気の成り立ち」「食べ物と健康」「食品衛生」「調理」など、食べ物と栄養についての基礎的知識と技術を身につけている。 2. 「基礎および応用栄養学」「栄養教育」「臨床栄養」「公衆栄養」「給食経営管理」など、栄養に関する専門知識と応用技術を身につけている。 3. 病院、福祉施設、給食施設、食品業界、あるいは学校や官公庁など様々な社会の場で、人々の健康の維持・増進、病気の予防・治療を栄養と食事の両面から担うための科学的、実践的な能力を身につけている。 4. 主体的に課題に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【フードビジネス学科ディプロマポリシー】 フードビジネス学科では、以下の要件を満たす学生に学士（フードビジネス学）の学位を授与します。 1. フードビジネス業界で必要とされる食とビジネスの基本を体系的に理解し、フードビジネスの専門領域に関する知識、技術、および実践力を身につけている。 2. フードビジネスを通して社会に貢献するために必要な思考力と課題発見力を有し、問題を解決するためのコミュニケーション力と解決力を身につけている。 3. 地域およびグローバルな社会に関心を持ち、フードビジネスを通して社会の発展に貢献するための倫理観と責任感、および他者と協働する能力を身につけている。 4. フードビジネスについて主体的に学修に取り組み、自ら考える姿勢を持ち、修得した知識や技術を活用して問題を解決し、発信する能力を身につけている。
--

【情報メディア学科ディプロマポリシー】 情報メディア学部情報メディア学科では、情報システムやネットワークに関する知識と技術を身につけ、情報活用・分析能力、コミュニケーション能力、創作能力、課題解決能力を磨き、社会で実践的な活動ができる人材を育成します。「情報システム」「映像メディア」「サウンド制作」「メディアデザイン」の4つの専修コースでの学修を深め、専門的な知識・技術を修得するとともに、基礎学力・社会人基礎力を養成し、人間力を高めることを目指します。 これらの知識・能力を身につけ、卒業要件を満たした学生に卒業を認定し、学士（情報メディア学）の学位を授与します。 専修コースで学ぶ内容は以下のとおりです。 1. 情報システムコース モバイルアプリやゲームなどユーザ向けシステムのほか、仕事や社会インフラのための情報システムを開発・運用管理できるシステムエンジニアや、情報システムの企画提案ができる情報ストラテジストを養成します。 2. 映像メディアコース 映像制作を中心として、アニメーション、CGなどを学びます。芸術的感性と企画力を活かし、映像作品制作技術、色彩についての知識、プログラミング技術などを修得し、幅広い分野で活躍できるビジュアル・スペシャリストを養成します。 3. サウンド制作コース 音響技術・楽曲制作を中心として、サウンド制作に関するさまざまな知識と技術を学びます。音楽の基礎的能力、MIDI技術やレコーディング技術、音響機器の操作を修得し、舞台や放送で活躍できる音響技術者、サウンドクリエータ、音源開発エンジニアなど、サウンド関連のスペシャリストを養成します。 4. メディアデザインコース グラフィックデザイン、Webデザイン、ユーザーインタフェースデザイン、デジタルファブリケーションなどのメディアデザインを学びます。多様なメディアにおける情報創造、コミュニケーションのためのデザイン技法を修得し、社会の諸問題に対し学際的な問題解決策を提示できる人材を養成します。

○立学の精神やディプロマ・ポリシーなどを踏まえて、自身の教育理念を記載してください。

私の教育理念は「企業ニーズに応える人材の育成」です。 「立学の精神」が目的とする「世界から信頼される日本人」の育成にあたっては、まずは、卒業生が就職先の企業・組織から信頼される存在となることが必要であると考えます。 本学の教育プログラムを終えた学生が、まず評価される場が、就職先の企業・組織です。ここで信頼を得ることができなければ、「世界から信頼される日本人」となることはないでしょう。 このような考えに基づき、企業から信頼される人間、そして「世界から信頼される日本人」を育てるべく、企業ニーズへの対応に主眼を置いた教育活動を行っています。

○教育理念を実現するために、科目ごとで行っている教育活動や教育業績（講義、実験実習、演習など）

1.教育活動や教育業績 科目名①：マーケティング論	・卒業生の多くは日本の企業に就職します。この日本企業の特徴が、“現場”を重視した企業経営です。しかし、文字情報中心の座学では、この“現場”という概念を学生に理解させることは困難です。そこで、この授業では、企業の事例を扱った映像資料を活用し、“現場”への想像力を養うことに力を入れています。 ・遅刻については厳しく指導しています。新入社員が入社直後、社内から信頼を得るためには、まずは絶対に遅刻しないことが重要です。遅刻について、多くの日本企業では厳格な規律が保たれており、新入社員が1分でも遅刻したとしたら、そこで一瞬にして社内での信頼を失うことになります。このような事態を卒業生が招くことがないよう指導しています。
2.教育活動や教育業績 科目名②：海外事情	・本学が毎年実施している企業ニーズ調査によれば、新卒採用担当者が最も重視する能力がコミュニケーション能力です。このコミュニケーション能力を養う上でベースとなるのが、他者の多様な考え方を受け入れる態度です。この授業では、毎回ミニレポートを課し、その内容について、次の授業の中で、匿名で全員分を確認・共有しています。これにより、同じテーマの課題に取り組んでも人によって捉え方・考え方が様々であることを理解させ、多様な考え方を受け入れる態度の重要性を理解させることができると考えています。 ・遅刻については、上記「マーケティング論」同様、厳しく指導しています。
3.教育活動や教育業績 科目名③：卒業演習	・地元飲食店との産学連携事業を行いました。 ・この中では、稲沢市が新たに始めたカレーによる地域活性化事業の一環として実施された「稲沢カレーフェスティバル」（11月開催）に参加し、当日提供するメニューの開発を協力飲食店と進めるとともに、一部学生は当日の店舗運営にも関わりました。これにより、自らが考えたメニューが形となっていく過程、そのメニューが顧客に受け入れられた時の喜び、及びこれら一連の活動が地域の活性化に繋がることから得られる充実感を体験させることができました。
4.教育活動や教育業績 科目名④：専門演習	・学科の取り組みとして10年以上続いている産学連携の商品開発プロジェクト「NBMS」を令和5年度から引き継ぎ、専門演習の中で取り組んでいます。 ・フードビジネス学科には、将来、商品開発の仕事をしたいと考える学生が多数在籍します。しかしながら、実際の商品開発の仕事や、企業内での商品開発部門の位置づけ等について、具体的に理解できていない学生が多いのが実状です。そこで私の演習では、「商品開発では、アイデアを考えることよりも、アイデアを実現していく過程の方が大変である」ということの理解に重きを置いて指導を行っています。これは企業の商品開発の現場ではしばしば直面する事態であり、将来、商品開発の仕事をしたいと考えている学生には必須の知識であると言えるからです。

○授業評価アンケート結果と、授業における自己省察を記載してください。

1.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名①：マーケティング論	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、映像資料を活用する授業スタイルについて「映像と同時進行で進む講義で内容が頭に入ってきた、良かった」「図や動画が多く理解が深まりました」といった好意的な評価が多く見られました。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。話し方については、より明瞭に発話するよう心がけ、改善をはかっていきます。
2.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名②：広告論	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教科書やプリントは授業の理解に役立った」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、映像資料を活用する授業スタイルについて「具体的な広告を取り上げて授業を進行していた点が良かった」といった好意的な評価が多く見られました。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。講義資料については、より内容の充実をはかり、改善をはかっていきます。
3.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名③：リスクマネジメント	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教員の話し方は、はっきりとして聞き取りやすかった」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、映像資料を活用する授業スタイルについて「リスクマネジメントの内容を動画や事例を用いての説明がとてもわかりやすかった」「動画の内容が良く、理解が深まった」といった好意的な評価が多く見られました。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。話し方については、より明瞭に発話するよう心がけ、改善をはかっていきます。
4.令和6年度授業評価アンケート結果と授業における自己省察 科目名④：海外事情（月5/金1）	・数値データは、概ね平均値並みでしたが、「教科書やプリントは授業の理解に役立った」については、全体平均よりやや厳しい評価でした。 ・自由記述では、映像資料を活用する授業スタイルについて「良かった点は動画を使って海外事情についてわかりやすく伝えてたことです」といった好意的な評価が多く見られました。 ・授業の方向性については一定の理解が得られていると考えます。講義資料については、より内容の充実をはかり、改善をはかっていきます。

○授業改善のために行ったFDの取り組み（授業アンケート、オープンクラス、FD講習（学外含む）、学会活動、その他）

令和6年度授業改善のために行ったFDの取り組み	・前年度の授業アンケートの結果をもとに、授業中の話し方、講義資料の内容について改善を行いました。 ・専門演習では、「NBMS」において、協力企業の工場見学や、学内での試作品調理等などの新たな試みを行いました。
-------------------------	--

○令和6年度の成果・教育業績、令和7年度の目標

・卒業演習で取り組んだ「稲沢カレーフェスティバル」向けのメニュー開発では、協力飲食店とともに「中華だしカレー」という新たな切り口のカレーを開発しました。このメニューは店舗でも販売され、学生は自身が開発したメニューが広く認知・受容されていく過程を体験することができました。 ・専門演習で取り組んだ商品開発プロジェクト「NBMS」からは、現在、1品が実際に販売に向け商品開発が進んでいます。ここでも、開発に関わった商品が形となっていく様子、それが実際に受容されていく過程について学生が体験することができました。 ・遅刻への指導によって、授業の規律を保つことができました。他の授業で、遅刻、欠席で問題となる学生も、私の授業では問題なく単位を取得していくことが多くあります。 ・今後も「世界から信頼される日本人」を育てるべく、企業ニーズに応える人材を育成するため、あらゆる努力を払っていききたいと考えています。
